

# 人権教育指導者用手引きⅡ

～ 人権尊重の学校づくりを進めるために～

平成24年3月

福岡県教育委員会

## はじめに

人権教育については、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」（平成20年3月）に示されているように、「生きる力」を育む教育活動の基盤として、各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間や、教科外活動等のそれぞれの特質を踏まえつつ、教育活動全体を通じて推進することが大切です。学校においては、教科等指導、生徒指導、学級経営など、その活動の全体を通じて、人権尊重の精神に立った学校づくりを進めていかなければなりません。

県教育委員会では、これらを踏まえ、平成21年度から平成23年度までの3年間、人権尊重の学校づくり推進指定校事業を実施し、日常の教科等指導、生徒指導、学級経営等を通して、一人一人の児童生徒に、自他の人権を守るための意識・態度、実践力を身に付けさせるための効果的な指導方法等について調査研究を行ってきました。

「人権教育指導者用手引きⅡ～人権尊重の学校づくりを進めるために～」は、県内の学校への効果的な指導方法等の普及を図るため、本事業の研究成果をとりまとめ、人権教育の具体的な指導資料として作成したものです。

作成に当たっては、「人権教育の指導方法等の在り方〔第三次とりまとめ〕」や「福岡県人権教育推進プラン」を踏まえ、人権尊重の学校づくりに焦点を当て、各推進指定校を中心に、県内の人権教育推進の実践内容を整理しました。そして、児童生徒の発達段階に即して、人権教育を通じて育てたい資質・能力の全体構造を意識しつつも、価値的・態度的側面、技能的側面の諸要素の中からいくつかを個別的に取り上げて、様々な場面や機会に活用できるように、学習活動例を構成しました。

本指導資料が、各学校で広く活用され、児童生徒が人権に関する知識を習得するだけでなく、人権課題の解決を目指す主体的な態度、技能及び行動力を身に付けると共に、いじめや差別のない人権が尊重される学校や社会の実現に役立つように願っています。

おわりに、本指導資料の作成に当たり、3年間研究を積み重ね、実践内容を提供してくださった各推進指定校をはじめ、御協力いただいた関係各位に対して、厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

福岡県教育委員会

# 目 次

- はじめに
- 「人権教育指導者用手引きⅡ」の活用にあたって . . . . . 1

## 第Ⅰ章 人権尊重の学校づくりを進めるために ～実践編～

- 人権教育の全体計画例と学習活動例の活用について . . . . . 3
- 学習活動例の基本構成 . . . . . 4
- 1 人権教育の全体計画例と学習活動例（小学校） . . . . . 6
- 2 人権教育の全体計画例と学習活動例（中学校） . . . . . 38
- 3 人権教育の全体計画例と学習活動例（高等学校） . . . . . 70
- 4 人権が尊重される人間関係づくり・雰囲気づくりのための環境整備の取組  
. . . . . 101

## 第Ⅱ章 人権尊重の学校づくりを進めるために ～理論編～

- 1 人権尊重の精神に立つ学校づくり . . . . . 110
- 2 人権尊重の視点からの学校づくりと学力向上 . . . . . 111
- 3 人権教育の全体計画・年間指導計画の策定 . . . . . 113
- 4 人権が尊重される学習活動づくりについて . . . . . 115
  - 教科等とのねらいと関連する資質・能力 . . . . . 115
  - 人権が尊重される授業づくりの視点例 . . . . . 117

## 参考資料

- 資料1 . . . . . 119
- 資料2 . . . . . 120
- 引用・参考文献 . . . . . 122

## 「人権教育指導者用手引きⅡ」の活用にあたって

この「人権教育指導者用手引きⅡ」（以下、「手引きⅡ」）は、「福岡県人権教育推進プラン」（以下、「推進プラン」）や「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」（以下、「第三次とりまとめ」）で示された理論等が具体的な実践に結び付き、実際の取組イメージがより明確になることをねらって、「人権尊重の学校づくり推進指定校」等（以下、「推進指定校」）の研究実践をもとに作成しています。

掲載している学習活動例は、実際の授業等の場面において、教科・領域の目標・ねらいとの関連を踏まえて、人権教育を通じて育てたい資質・能力（価値的・態度的側面及び技能的側面を中心に）を明示し、「人権が尊重される授業づくりの視点例」を踏まえた教師の支援・援助となるような学習活動として例示しています。

また、人権が尊重される人間関係づくり・雰囲気づくりのための環境整備の取組については、「推進指定校」等における実際の取組例を掲載しています。

これらを参考に、「推進プラン」〔第三次とりまとめ〕等も併せながら、ぜひ日常の教育活動において有効に活用していただきたいと考えます。

そしてこの「手引きⅡ」が、各学校の創意工夫により、さらに発展的に活用され、人権教育のより一層の充実が図られることを期待します。

なお、人権教育の取組を効果的に進めていくためには、各学校や児童生徒の多様な実態を踏まえた対応が必要になります。

そのため、事例の活用にあたっては、特に下記の点を留意してください。

- (1) 各学校等で本事例をもとにした活動を行う際には、年間指導計画等に照らして、しかるべき位置付けをした上で、見通しをもって取り組む。  
そのため事例については、それぞれの趣旨や意義について十分理解した上で活用する。
- (2) 「手引きⅡ」において採り上げた事例は、多様な応用可能性を持つものであり、各学校の教育目標等に応じ、より効果的に取り組めるよう、適宜、内容の追加・修正、方法のアレンジなどを加えながら、弾力的に活用する。
- (3) 「手引きⅡ」の事例で使われている手法等の多くは、普遍的アプローチからの学習に限らず、様々な個別的人権課題の学習においても有効に活用できるものと考えられる。各学校においては、本事例が示す手法を、個別的人権課題の学習にも必要に応じて適用するなど、幅広く活用する。

## 第1章

# 人権尊重の学校づくりを進めるために ～実践編～

- 人権教育の全体計画例と学習活動例の活用について
  - 学習活動例の基本構成
- 1 人権教育の全体計画例と学習活動例（小学校）
  - 2 人権教育の全体計画例と学習活動例（中学校）
  - 3 人権教育の全体計画例と学習活動例（高等学校）
  - 4 人権が尊重される人間関係づくり・雰囲気づくりのための環境整備の取組

## ■ 人権教育の全体計画例と学習活動例の活用について

※ 掲載している人権教育の全体計画例及び学習活動例は、小学校、中学校、高等学校の校種ごとに、「福岡県人権教育推進プラン」の基本的な考え方と取組の視点を具体化するものとして、「人権尊重の学校づくり推進指定校事業」の各指定校から提供された研究実践及びこれまでの県内の人権教育に関する研究指定校等の実践をもとに作成しています。

### ■ 人権教育の全体計画例の活用

- 人権教育の全体計画例は、[第三次とりまとめ]で示されている「全体計画充実のための留意点」を踏まえ、「推進指定校」の全体計画をもとに作成しています。活用にあたっては、例示している全体計画例やP 1 1 3の「人権教育の全体計画・年間指導計画の策定」を参照し、自校の実態に即した全体計画を策定してください。

### ■ 学習活動例の活用

- 学習活動例は、3年間の研究の成果として「推進指定校」等から提供いただいた研究実践をもとに作成しています。

作成にあたっては、以下の点に留意しました。

- ・ すべての学年、教科・科目等を網羅した学習活動例ではありませんが、人権教育を通じて育てたい資質・能力の「価値的・態度的側面」及び「技能的側面」の計8系列の諸要素（P 1 1 5・1 1 6参照）から構成しています。
- ・ 教科等の目標・ねらいと人権教育を通じて育てたい資質・能力との関連を明確にするために、本時のねらいについては、教科等のねらいと人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成からのねらいと併記しています。
- ・ 授業の中で、人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成と人権が尊重される授業づくりの視点からの教師の支援・援助が明確になるように、展開例を、「ふきだし無し」と「ふきだし付き」の2パターンで表しています。
- ・ 1単位時間の学習活動の中で、資質・能力の育成と特に関連する学習活動の部分を、赤枠で囲んで、明確になるようにしています。ただし、この活動を通して資質・能力を育成するためには、併せて人権が尊重される授業づくりの視点からの意図的な教師の支援・援助等が必要です。そのために、人権が尊重される授業づくりの視点例（P 1 1 7参照）を、教師の支援・援助の部分に明記しています。

ここに挙げている学習活動例はあくまでも一例ですので、各学校において、更なる研究実践を積み上げ、発展的・効果的に活用してください。

## ■ 学習活動例の基本構成

学年・教科等・単元名等を表記。

価値的・態度的側面  
技能的側面  
の系列

○育てたい資質・能力

を表記。※②

指導方法を表記  
※①

第2学年理科 単元名「電流と磁界」

校種を  
表記

協力的・参加的な学習

中学校

班・学級での交流活動を位置付け、学習内容を深めるとともに、自己存在感を高め、協力的・建設的に課題解決に取り組む意欲・態度やコミュニケーション能力の育成を図る学習。

コミュニケーション能力

○コミュニケーション技能

育成を図る資質・能力と指導方法との関連等、本学習活動例のねらいや工夫のポイントを簡潔に書いています。

### 本時のねらい

- さまざまな実験結果について考察を交流することを通して、原理を理解するとともに、科学的な思考力、表現力の育成を図る。
- グループによる実験及び結果の考察等の交流活動を通して、的確に伝え、分かり合うためのコミュニケーションの技能を育てる。

本時の学習のねらいを、教科等の目標と指導方法等の工夫を通して育成を図る資質・能力との関連から表記しています。

この学習活動を通して、「コミュニケーション技能」を育成します。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 本時のめあてを確認する。	
	※ この枠に、本時のめあてを表記しています。	
展開	2 実験を行う。 (1) 方法の説明を聞く。 (2) 予想をする。 (3) 装置を組み立てる。 (4) 実験を行う。 (5) 班で一つのパターンを選び、原理をまとめる。 3 考察をする。 (1) 個人考察 (2) 班考察 4 考察の交流をする。	表現方法を選択する機会を提供する。  ○ 原理について <u>様々なパターンが発表できるように、各班に助言を行う。</u>  ○ <u>立体から平面への思考の転換を助けるために、立体模型を用意する。</u>

「授業に参加している」という実感を持たせる。

- 指導方法の工夫にポイントをおき、基本的に1単位時間の展開例を表記しています。
- 参考となる指導内容の構成を表すために、単元計画を掲載している学習活動例もあります。
- 青のふきだしでは、赤枠で囲んだ学習活動を通して育てたい資質・能力を明記しています。
- 赤のふきだしでは、「人権が尊重される授業づくりの視点例」(P117参照)を明記しています。

※① 指導方法は、「協力し合う学習」と「主体的に参加する学習」をあわせて、「協力的・参加的な学習」、「体験的な活動を取り入れた学習」を「『体験』を取り入れた学習」と表記し、分類しています。

※② 育成を図る資質・能力については、価値的・態度的側面と技能的側面の計8系列の諸要素で分類しています。(P115・116の「資質・能力の分類」を参照)

その下の枠に、本学習活動例で育成を図る具体的な価値・態度、技能を表記しています。

【小学校 8 校】

福津市立上西郷小学校  
糸島市立加布里小学校  
鞍手町立西川小学校  
うきは市立御幸小学校  
大川市立道海島小学校  
みやま市立本郷小学校  
飯塚市立棕本小学校  
行橋市立稗田小学校

【中学校 8 校】

大野城市立大野東中学校  
須恵町立須恵中学校  
中間市立中間北中学校  
久留米市立三潞中学校  
東峰村立東峰中学校  
大牟田市立橘中学校  
福智町立赤池中学校  
築上町立椎田中学校

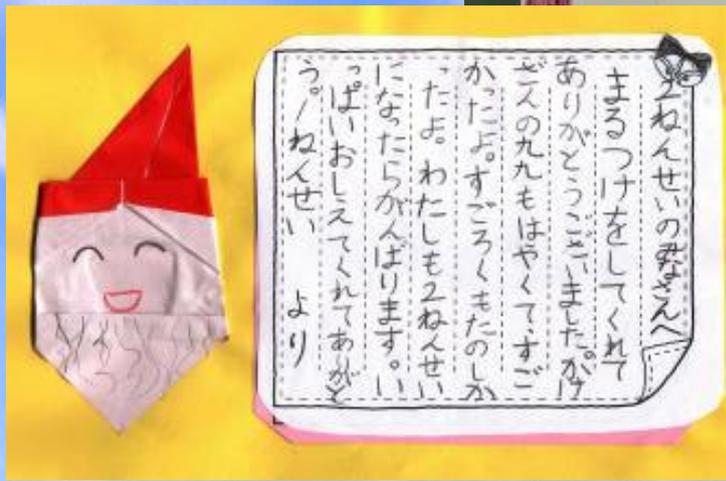
【高等学校 4 校】

福岡県立若松高等学校  
福岡県立筑紫高等学校  
福岡県立ありあけ新世高等学校  
福岡県立東鷹高等学校

# 1 人権教育の全体計画例と学習活動例

## 小学校

掲載している学習活動例			
この時間に育てたい資質・能力	学年	教科等	単元名
人間の尊厳・価値の尊重、 自己尊重の感情	1年	図画工作科	へんしん！トイレトペーパー
	1年	国語科	のりもののことをしらべよう
	6年	国語科	ものの見方を広げよう
多様性の尊重・共生	2年	算数科	分けた大きさを考えよう
権利と責任、公平・公正	6年	社会科	暮らしの中の政治
参加・参画	4年	総合的な学習の時間	矢部川、もっといかし隊
想像力・共感力	1年	生活科	おおきなあれ
	3年	道徳	みんなの使う物を大切に
コミュニケーション能力	5年	外国語活動	Lesson9 ランチメニューを作ろう
人間関係調整力・問題解決力	3年	学級活動	つくろう！チームワークのシンボル
	3年	総合的な学習の時間	チャレンジ・ザ・大豆
公平・公正な思考力・判断力	4年	理科	もののあたたまり方
	5年	算数科	合同な図形



# ■ 人権教育の全体計画例（A小学校の例）

関係法規等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法</li> <li>・教育基本法</li> <li>・学校教育法</li> <li>・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律</li> <li>・学習指導要領</li> <li>・福岡県人権教育・啓発基本指針</li> <li>・人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕</li> <li>・福岡県人権教育推進プラン</li> <li>・市人権教育・啓発に関する基本計画</li> <li>・市人権教育・啓発実施計画 等</li> </ul>

学校の教育目標
健全で豊かな心を持ち、直く、正しく、遅く生きる児童の育成に努める。

人権教育の目標
自他の人権について正しく理解し、豊かな人権感覚を身に付けた児童の育成を図る。 ○自分を大切に、他者との共生を実践できる児童 ○基礎・基本を身に付け、自ら学び自ら考える力を育む児童 ○基本的生活習慣やコミュニケーション能力を身に付け、自己表現できる児童

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態</li> <li>・家庭・地域の実態</li> <li>・家庭・地域の要望</li> <li>・教職員の願い 等</li> </ul>
---

本年度の重点（努力点）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎学力の保障 国語・算数を中心に「読む力・書く力・計算する力」を高める。</li> <li>○ 人権感覚の育成 自他の人権を大切にするとともに、様々な人との出会いを通して豊かな人権感覚を身に付けさせる。</li> <li>○ 認め合い・支え合う集団づくり 学習や生活の場で児童同士の豊かな人間関係を構築させる。</li> </ul>

と  
の  
連  
携  
保  
育  
園、  
幼  
稚  
園、  
中  
学  
校、  
高  
等  
学  
校

各学年の重点目標					
第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身を大切にすることを理解し、自分のよいところを見付けることができるようにする。</li> <li>・友達と仲よく学習して友達の話を聞いたり、遊んだりすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を大切にすることを理解するとともに、自分の思いや考えをはっきり話すことができるようにする。</li> <li>・誰でも仲よく学習などができ、友達の気持ちに気付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を大切に、自他のよさや違いを尊重することができるようにする。</li> <li>・生活の中でそれぞれ違うことに気付くことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の願いについて考え、自分も仲間も大切にしたいと考えることができるようにする。</li> <li>・生活の中で自分にできること、すべきことがあると思う態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の思いや願いを大切にすることを育てる。</li> <li>・生活の中にある不合理や矛盾をとらえ、解決しようとする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の思いや願いを大切に、人権を守り向く態度を育てる。</li> <li>・生活の中にある不合理や矛盾をとらえ、解決し、よりよい生き方をしていこうとする態度を育てる。</li> </ul>

家  
庭・  
地  
域  
及  
び  
関  
係  
機  
関  
等  
の  
連  
携

各教科等における目標			
国語	教材を通して人間としての生き方について考えを深める。	道徳	差別や偏見に気付かせ、人間尊重の精神を育成する。豊かな心を持ち、主体的によりよい生き方を追求する態度を育てる。
社会	人権問題を正しく理解する。	特別活動	学級活動、児童会活動、学校行事において、望ましい集団活動や人間関係について体験を通して学び、自他を尊重し社会に貢献する姿勢を養う。集団活動を通して協力しながらよりよい生活を築こうとする自主的な態度を育てる。
算数	論理的思考や合理的な考え方を養う。		
理科	科学的な見方や考え方、自然や生命を愛する心情を育てる。	総合的な学習の時間	教科横断的な内容の学習や体験的活動を通して、課題を解決するための実践的行動力や豊かな人間性を養う。自ら課題を見付けやりとげていく力を育む。意欲的に追求し、学んだことを工夫して表現したり、自分の生活に生かしたりする力を育成する。
生活	身近な人々とのかかわりに関心を持つ。		
音楽	合奏や合唱を通して豊かな感性を育てる。		
図画工作	表現活動や鑑賞活動を通して豊かな感性を育てる。	外国語活動	外国の文化のみならず、わが国の文化についても理解を深める。日本の文化と異文化との比較により、さまざまな見方・考え方があることに気付かせる。
体育	協調性・連帯性を育てる。		
家庭	よりよい家庭生活の在り方に気付き、実践する力を育てる。		
その他の教育活動	朝の活動（計算・読書タイム）の充実を図る。全教育活動を通して、自尊感情を高め、コミュニケーション能力を育成する。		

学級・学年経営
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の発達段階や地域の実態に応じて学年・学級の目標を設定し、基礎・基本を身に付ける授業づくり、基本的習慣を身に付ける集団づくりの面から充実を図る。</li> <li>○ 人権感覚を育むために、一人一人のよさに気付き、認め合う学級・学年づくりに努める。</li> </ul>

協力的・参加的な学習

小学校

自分の思い付いた物を、材料や道具を工夫して表現する造形活動や鑑賞活動を通して、創造的な技能を高めるとともに、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる学習。

人間の尊厳・価値の尊重

○ 自己受容、他者理解

本時のねらい

- 作りたい物を考えながらパルプ粘土で遊んだり、自分や友だちの思いや表現方法を交流したりする活動を通して、自分の思い付いた物を、材料や道具などを工夫して表現することができるようにする。
- 自分の感覚や気持ちを表現に生かしたり、友だちの思いや表現方法を交流したりする活動を通して、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる。

	学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 援 助
導入	<p>1 前時の活動をふりかえり、本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 前時の活動を想起させ、トイレットペーパーが粘土に変化したこと、色々な粘土ができたこと、その粘土で何かをしたいと思ったことを確認し、今日の活動に意欲を持たせる。</p>
	<p>ぷによぶによねんどの いろいろなつかいかたをはっけんして おもいついたものをつくろう！</p>	
	<p>2 パルプ粘土を使い、できそうなことを話し合う。                  ・〇〇を作りたい！ ・丸めたい！ ・色をつけたい！</p>	<p>○ 丸めたり、のぼしたり、色を付けたり、組み合わせたりできることを押さえ、何かができそうだという見通しを持たせる。</p>
展開	<p>3 パルプ粘土で遊び、自分の作りたい物を考える。</p> <p>4 友だちがどんなこと考え、どんなことをしているかを知る。(みるみるタイム)                  ・ふわふわだから生クリームにしたよ。                  ・白と赤でお寿司にしたよ。                  ・〇〇さんのおもしろいね。                  ・どうしたらあんなふうにできるかな。</p> <p>5 自分や友だちの工夫の良いところを自分の活動に生かす。                  ・違う色が使いたいな。・やっぱり今の感触が気持ちいい。                  ・僕も何か作ってみようかな。・ほんとだ。おだんごができた。</p>	<p>○ 丸めたりのぼしたりして感触を味わわせたり、音や色に目を向けさせるような言葉かけをして、自分の作りたい物が思いつくよう支援する。</p> <p>○ 「どうしてその工夫を思いついたの？」「今度はどうしてみる？」「〇〇みたいだね。」等助言し、児童の考えを言葉で表出させながら、思考と手先の活動をつなげるように支援する。</p> <p>○ 自分の活動を友だちに紹介したり、友だちの活動のおもしろいところを聞いたりすることで、自分のしたいことを再度考えさせる。</p> <p>○ 他の人がしていないような工夫をしている子を紹介し、色々なことができることに気づかせる。</p> <p>○ 色や道具、材料、形の組み合わせを工夫してできることを確認する。</p> <p>○ 良いと思った友だちのアイデアや技法を進んで使っている児童、作品をもっと発展させようとしている児童を紹介し、価値づける。</p>
整理	<p>6 本時のふりかえりをする。</p>	<p>○ 感想を発表させ、工夫をすることで色々なものができたり、友だちと一緒に楽しく活動したりしたことを確認する。</p> <p>○ できた作品を肯定的に評価し、作品に名前をつけて紹介することを伝え、次の活動に意欲を持たせる</p>

協力的・参加的な学習

小学校

自分の思い付いた物を、材料や道具を工夫して表現する造形活動や鑑賞活動を通して、創造的な技能を高めるとともに、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる学習。

人間の尊厳・価値の尊重

○ 自己受容、他者理解

本時のねらい

- 作りたい物を考えながらパルプ粘土で遊んだり、自分や友だちの思いや表現方法を交流したりする活動を通して、自分の思い付いた物を、材料や道具などを工夫して表現することができるようにする。
- 自分の感覚や気持ちを表現に生かしたり、友だちの思いや表現方法を交流したりする活動を通して、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる。

	学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 援 助
導入	<p>1 前時の活動をふりかえり、本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 前時の活動を想起させ、トイレットペーパーが粘土に変化したこと、色々な粘土ができたこと、その粘土で何かをしたいと思ったことを確認し、今日の活動に意欲を持たせる。</p>
	<p>2 パルプ粘土の扱い、できそうなことを話し合う。                  ・〇〇を作りたい！ ・丸めたい！ ・色をつけたい！</p>	<p>○ 丸めたり、のぼしたりできることを押さえて、できそうだと見通しを持たせる。</p>
展開	<p>3 パルプ粘土で遊び、自分の作りたい物を考える。</p> <p>4 友だちがどんなこと考え、どんなことをしているかを知る。(みるみるタイム)                  ・ふわふわだから生クリームにしたよ。                  ・白と赤でお寿司にしたよ。                  ・〇〇さんのおもしろいね。                  ・どうしたらあんなふうにできるかな。</p> <p>5 自分や友だちの工夫の良いところを自分の活動に生かす。                  ・違う色が使いたいな。・やっぱり今の感触が気持ちいい。                  ・僕も何か作ってみようかな。・ほんとだ。おだんごができた。</p>	<p>○ <u>丸めたりのぼしたりして感触を味わわせたり、音や色に目を向けさせるような言葉かけをして、自分の作りたい物が思いつくよう支援する。</u></p> <p>○ 「どうしてその工夫を思いついたの?」「今度はどうしてみる?」「〇〇みたいだね。」等助言し、児童の考えを言葉で表出させながら、思考と手先の活動をつなげるように支援する。</p> <p>○ <u>自分の活動を友だちに紹介したり、友だちの活動のおもしろいところを聞いたりすることで、自分のしたいことを再度考えさせる。</u></p> <p>○ 他人がしていないような工夫をしている子を紹介し、色々なことができることに気づかせる。</p> <p>○ <u>色や道具、材料、形の組み合わせを工夫してできることを確認する。</u></p> <p>○ <u>良いと思った友だちのアイデアや技法を進んで使っている児童、作品をもっと発展させようとしている児童を紹介し、価値づける。</u></p>
整理	<p>6 本時のふりかえりをする。</p>	<p>感想を発表させ、工夫の良かったり、友だちと一緒に楽しんだりしたことを確認する。                  できた作品を肯定的に評価し、作品に名前をつけて紹介することを伝え、次の活動に意欲を持たせる</p>

この学習活動を通して、「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」を育成します。

いろいろなつかいかたをはっけんして おもいついたものをつくろう!

表現方法を選択する機会を提供する。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。

「自分が必要とされている」という実感を持たせる。

協力的・参加的な学習

小学校

主体的に学習を進めるためのワークシートの活用や視点を明確にした自己評価を通して、文章表現上の順序を考え読み取りを進めるとともに、自己肯定感を高め、自己尊重の感情を育てる学習。

自己尊重の感情

- 自己肯定感、自己受容

本時のねらい

- 基本文型に着眼することや大事な言葉を書き抜くことを通して、「やくめ」「あるもの」「人がすること」という読みの視点を明確にし、フェリーボートの役目や構造、機能について読み取ることができるようにする。
- 主体的に学習を進めるためのワークシートの活用や一人一人への適切な助言、視点を明確にした自己評価を通して、自己肯定感を高め、自己尊重の感情を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時までの学習を想起し、本時のめあてをつかむ。	○ 前時までの学習を振り返らせるために学習の流れ図を掲示しておく。
「フェリーボート」のひみつを見つけよう。		
展開	2 本時場面を音読する。 3 読み取りの方法を確かめ、一人調べをする。 ・大事な言葉を書く。（「やくめ」「あるもの」「人がすること」の文） ・「やくめ」（赤）「あるもの」（青）「人がすること」（黄）に色別でサイドラインをひく。 ・写真と文をつなげて考える。 4 フェリーボートの「やくめ」「あるもの」「人がすること」について話し合う。 5 まとめの音読をし、本時学習をまとめる。	○ 前時と同様に、基本文型に着目したり、写真と文をつなげて考えたりすることを確認させ、一人調べができるようにさせる。 ○ 大切な言葉を意識させるために、穴あきのワークシートを準備する。 ○ 机間指導し、困っている児童には文末表現に気をつける等個別に助言を行う。 ○ 書いてあることが写真のどの部分かを指さして想像させるようにする。 ○ 発表の際には、理由も一緒に言わせることで、基本文型を確認させる。 ○ 補助写真を提示し、文章と写真とつなげて発表させる。 ○ 文章の構成の順番が同じことを視覚的に気付かせるために、「きやくせん」の文章を提示し、比較させる。 ○ 「やくめ」「あるもの」「人がすること」を意識させ音読させる。 ○ フェリーボートの吹き出しにして、本時の学習をまとめさせる。
整理	6 本時学習を自己評価し、次時の学習の見通しを持つ。	○ 視点（わかったこと、がんばったこと、友だちの考えのよさ等）を明確にした自己評価を行い、教師が肯定的に評価することで、次時学習への意欲を持たせる。

協力的・参加的な学習

小学校

主体的に学習を進めるためのワークシートの活用や視点を明確にした自己評価を通して、文章表現上の順序を考え読み取りを進めるとともに、自己肯定感を高め、自己尊重の感情を育てる学習。

自己尊重の感情

○ 自己肯定感、自己受容

本時のねらい

- 基本文型に着眼することや大事な言葉を書き抜くことを通して、「やくめ」「あるもの」「人がすること」という読みの視点を明確にし、フェリーボートの役目や構造、機能について読み取ることができるようにする。
- 主体的に学習を進めるためのワークシートの活用や一人一人への適切な助言、視点を明確にした自己評価を通して、自己肯定感を高め、自己尊重の感情を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時までの学習を想起し、本時のめあてをつかむ。	○ 前時までの学習を振り返らせるために学習の流れ図を掲示しておく。
「フェリーボート」のひみつをみつけよう。		
展開	2 本時場面を音読する。 3 読み取りの方法を確かめ、一人調べをする。 ・大事な言葉を書く。「やくめ」「あるもの」「人がすること」の文 ・「やくめ」(赤)「あるもの」(青)「人がすること」(黄)に色別でサイドラインをひく。 ・写真と文をつなげて考える。 4 フェリーボートの「やくめ」「あるもの」「人がすること」について話し合う。 5 まとめ音読をし、本時学習をまとめる。	○ 前時と同様に、基本文型に着眼し、写真と文をつなげて考えたりすることを確認させ、一人調べができるようにさせる。 ○ <u>大切な言葉を意識させるために、穴あきのワークシートを準備する。</u> ○ <u>机間指導し、困っている児童には文末表現に気をつける等個別に助言を行う。</u> ○ 書いてあることが写真のどの部分かを指さして相俵させるようにする。 ○ <u>教師自身が一人一人を大切に</u> する姿勢を示す。 ○ 補助写真を提示し、文章と写真とつなげて発表させる。 ○ 文章の構成の順番が同じことを視覚的に気付かせるために、「きやくせん」の文章を提示し、比較させる。 ○ 「やくめ」「あるもの」「人がすること」の読み取り方法を音読させる。 ○ フェリーボートの吹き出しの役割をまとめさせる。
整理	6 本時学習を自己評価し、次時の学習の見通しを持つ。	○ <u>視点(わかったこと、がんばったこと、友だちの考えのよさ等)を明確にした自己評価を行い、教師が肯定的に評価することで、次時学習への意欲を持たせる。</u>

「授業に参加している」という実感を持たせる。

この学習活動を通して、「自己尊重の感情」を育成します。

教師自身が一人一人を大切に

振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。

教師自身が一人一人を大切に

# 第6学年国語科 単元名「ものの見方を広げよう」

～6の1お宝探偵団 筆者と私とそして友だち 絵巻物交流会をしよう～『鳥獣戯画』を読む』

協力的・参加的な学習

小学校

絵巻物解説文の交流活動を行い、相互評価することを通して、自分の考えを広げたり深めたりさせ、自分のものの見方を広げるとともに、自己についての肯定的態度を育成する学習。

自己尊重の感情

○ 自己肯定感、自己受容

## 本時のねらい

- 交流の視点を明確にして相互評価したり、振り返りの交流をしたりする活動を通して、今までの学びを確認したり、友だちのよさを見つけたりさせ、自分の考えを広げたり深めたりさせる。
- 自分の考えを広げたり深めたりすることを通して、自己についての肯定的態度を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助																												
導入	1 前時の学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。	○ 鳥獣人物戯画の他の場面を選び、今まで学習したことを活かして書いた解説文をグループで発表することを伝え、学習の意欲をもたせる。																												
	友だちと絵巻物解説文の交流をして、今までの学びを確認したり、友だちのよさを見つけたりしよう。																													
展開	2 交流のしかたを確認する。	○ どのように話し合うのか簡潔に指示する。 (グループ交流→振り返り→全体交流)																												
	交流の視点(表現の工夫、構成の工夫、気づいた友だちのよさ)にそって発表を聞き、付箋に書いてわたしましょう。																													
	3 自分が書いた解説文をグループで交流する。 (交流のしかた) 【発表する人】 ①自分の解説文の発表をする ②付箋をもらう(ノートに貼る) ③次の友だちの発表を聞く 【聞く人】 ①友だちの発表を聞く ②付箋に工夫できたところを書いてわたす ③自分の解説文の発表をする (または、友だちの発表を聞く)	○ 自分たちで進められるように、交流のしかたを掲示しておく。 ○ 一人ずつ自分の書いた解説文を発表させる。 ○ 絵も使いながら発表できるように用意しておく。 ○ 聞く児童には、付箋を用意しておき、今までの学びを使って書くことができているかを確認させる。 (表現の工夫は黄色、構成の工夫は桃色、気づいた友だちのよさは青色の付箋)																												
		<table border="1"> <tr> <td>他</td><td>絵</td><td>括</td><td>結</td><td>本</td><td>序</td><td>構成の工夫の観点</td> </tr> <tr> <td>その他</td><td>絵の提示の仕方</td><td>頭・尾・双括型</td><td>結論</td><td>本論</td><td>序論</td><td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>他</td><td>誇</td><td>擬</td><td>反</td><td>比</td><td>文</td><td>表現の工夫の観点</td> </tr> <tr> <td>その他</td><td>誇張表現</td><td>擬音・擬態語</td><td>反復表現</td><td>比喩表現</td><td>文末表現</td><td></td> </tr> </table>	他	絵	括	結	本	序	構成の工夫の観点	その他	絵の提示の仕方	頭・尾・双括型	結論	本論	序論		他	誇	擬	反	比	文	表現の工夫の観点	その他	誇張表現	擬音・擬態語	反復表現	比喩表現	文末表現	
他	絵	括	結	本	序	構成の工夫の観点																								
その他	絵の提示の仕方	頭・尾・双括型	結論	本論	序論																									
他	誇	擬	反	比	文	表現の工夫の観点																								
その他	誇張表現	擬音・擬態語	反復表現	比喩表現	文末表現																									
	交流し、今までの学びを確認したり、友だちのよさを見つけたりしたことを振り返って書きましょう。																													
整理	4 振り返りをする。	期待する姿(振り返りの視点) ○自分のめあてに沿った振り返りをする ・めあては～で、～(どう)だった。理由は、～だと思ったから ○友だちとの交流で自己の学びに対する見方や考え方の変容を振り返る ・～だと思っていたけど～をしたら～(こう)なった(変わった) ○友だちとの関連から自分の学びや活動の意味を振り返る ・～さんの考え(意見)を聞いて～がわかった(～を学んだ) ○自己の考えをよりよい方向に修正していく振り返り ・はじめは、～だったけど、今度は～(こう)したい																												
	5 全体交流をし、自分の振り返りを発表する。 6 学習のまとめをする。	○ 振り返りを発表させることで他グループの交流内容を知らせたり、その内容のよさに気付かせたりする。 ○ 学習で学んだことを次の単元「読みとったこと、感じたことを表現しよう」で活かしていくことを伝える。																												

# 第6学年国語科 単元名「ものの見方を広げよう」

～6の1お宝探偵団 筆者と私とそして友だち 絵巻物交流会をしよう～『鳥獣戯画』を読む

協力的・参加的な学習

小学校

絵巻物解説文の交流活動を行い、相互評価することを通して、自分の考えを広げたり深めたりさせ、自分のものの見方を広げるとともに、自己についての肯定的態度を育成する学習。

自己尊重の感情

○ 自己肯定感、自己受容

## 本時のねらい

- 交流の視点を明確にして相互評価したり、振り返りの交流をしたりする活動を通して、今までの学びを確認したり、友だちのよさを見つけたりさせ、自分の考えを広げたり深めたりさせる。
- 自分の考えを広げたり深めたりすることを通して、自己についての肯定的態度を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時の学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。	○ 鳥獣人物戯画の他の場面を選び、今まで学習したことを活かして書いた解説文をグループで発表することを伝え、学習の意欲をもたせる。
展開	2 交流のしかたを確認する。	○ どのように話し合うのかを確認する。 (グループ交流→振り返り)
	3 自分が書いた解説文をグループで交流する。 (交流のしかた) 【発表する人】 ①自分の解説文の発表をする ②付箋をもらう(ノートに貼る) ③次の友だちの発表を聞く 【聞く人】 ①友だちの発表を聞く ②付箋に工夫できたところを書いてわたす ③自分の解説文の発表をする(または、友だちの発表を聞く)	○ どのように話し合うのかを確認する。 (グループ交流→振り返り) ○ 自分が必要とされているという実感を持たせる。 ○ 自分たちで進められながら、交流のしかたを掲示しておく。 ○ 一人ずつ自分の書いた解説文を発表させる。 ○ 絵も使いながら発表できるように用意しておく。 ○ 聞く児童には、付箋を用意しておき、今までの学びを使って書くことができているかを確認させる。 (表現の工夫は黄色、構成の工夫は桃色、気づいた友だちのよさは青色の付箋)
整理	4 振り返りをする。	期待する姿(振り返りの視点) ○自分のめあてに沿った振り返りをする ・めあては～で、～(どう)だった。理由は、～だと思ったから ○友だちとの交流で自己の学びに対する見方や考え方の変容を振り返る ・～だと思っていたけど～をしたら～(こう)なった(変わった) ○友だちとの関連から自分の学びや活動の意味を振り返る ・～さんの考え(意見)を聞いて～がわかった(～を学んだ) ○自己の考えをよりよい方向に修正していく振り返り ・はじめは、～だったけど、今度は～(こう)したい
	5 全体交流をし、自分の振り返りを発表する。	○ 振り返りを発表させることで他グループの交流内容を知らせたり、その内容のよさに気付かせたりする。
	6 学習のまとめをする。	○ 学習で学んだことを次の単元「読みとったこと、感じたことを表現しよう」で活かしていくことを伝える。

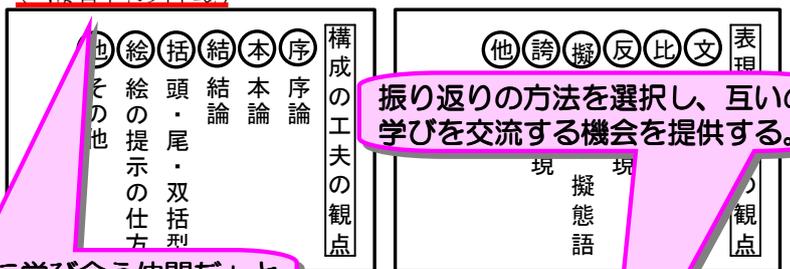
この学習活動を通して、「自己についての肯定的態度」を育成します。

の交流をして、今までの学びを確認したり、友だちのよさを見つ

「自分が必要とされている」という実感を持たせる。

振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。



協力的・参加的な学習

小学校

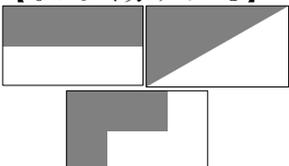
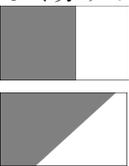
考えや根拠をねり上げる交流活動を、「せつめい活動・くらべる活動・いかす活動」として学習過程に位置づけることで、他者の考えを理解し、多様性を尊重しようとする態度を育てる学習。

多様性の尊重・共生

- 他者への関心、協力、共感

本時のねらい

- もとの大きさを2つに等分する分け方を、紙を折ったり切ったりして重ねることによって説明することができるようにするとともに、2つに等分した1つ分の大きさを  $\frac{1}{2}$  と表すことを知り、分数の意味を実感をともなって理解することができるようにする。
- 「せつめい活動・くらべる活動・いかす活動」の交流活動を通して、他者の考えを理解し、多様性を尊重しようとする態度を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 チョコレートを分けることについて話し合い、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">  <p>チョコレート1枚を2人で分けるよ。どうやってわけるといいかな。</p> </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>けんかをしないように、なかよく2つに分ける分け方を見つけなければいいんじゃないかな。</p> </div> </div>	<p>○ 平等ではない分け方をした例を提示し「こんな分け方でいいかな？」という発問をすることで、「なかよく2つに分ける分け方」というめあてを意識させるようにする。</p>
<p>2人でなかよく分けている分け方を見つけよう。</p>		
展開	<p>2 様々な分け方をしたカードの中から、2人でなかよく分けている分け方を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・折って重ねる</li> <li>・切って重ねる</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【なかよく分けている】</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・重ねたらぴったり合う。</li> <li>・同じ大きさに分けている。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【なかよく分けていない】</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・重ねたらはみ出している。</li> <li>・2つの大きさが違う。</li> </ul> </div> </div> <p>3 自他の考えを説明し合い、どの分け方がなかよく2人で分けているか話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>隣の友だちに、自分の考えをカードを使って説明する。 <b>【せつめい】</b></li> <li>全体で、なかよく分けたと言える根拠を話し合う。 <b>【くらべる】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの考えもカードを折ったり切ったりして重ねてぴったりになった。ぴったりになったら分けた2つは同じ大きさ。</li> </ul> </li> <li>分け方を変えた問題を解く。 <b>【いかす】</b></li> </ol>	<p>○ 自力解決をさせ、ワークシートに「なかよく分けている」「なかよく分けていない」の仲間分けをさせる。</p> <p>○ 見ただけでははっきりしない分け方のカードも準備することで、折ったり切ったりして重ねて調べさせ、仲間分けの根拠を明確にさせる。</p> <p>○ 机間指導し、困っている児童には、折ったり切ったりしてぴったり重なりとなかよく分けていることになることを助言する。</p> <p>○ 隣の友だちとペアにさせ、仲間分けしたワークシートを使って、一人ずつ説明をさせる。</p> <p>○ 「私はなかよく分けているのは～だと思います。理由は～だからです。」の説明の仕方を確認する。</p> <p>○ 何人かに発表させ、全体で「ぴったり重なった」という根拠を明確にすることで、2人でなかよく分けている分け方を確かめさせる。</p> <p>○ 「2つがぴったり重なる」という分け方に名前をつけさせ、みんなで考えたという意識を高める。</p> <p>○ 「2つがぴったり重なれば同じ大きさ」という比べ方を生かして、他の分け方についても考えさせる。</p>
整理	<p>4 本時の学習を振り返り、二分の一の意味やよみ方をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ大きさに2つに分けるとなかよく分けられる。</li> <li>・同じ大きさに2つに分けた1つ分の大きさを、もとの大きさの「二分の一」といい、<math>\frac{1}{2}</math> とかく。</li> </ul> </div>	<p>○ 二分の一の大きさを実感できるよう、具体物を半分にして提示し、意味と読み方を確認させる。</p>

協力的・参加的な学習

小学校

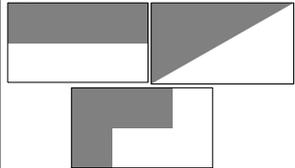
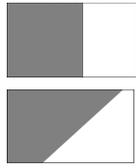
考えや根拠をねり上げる交流活動を、「せつめい活動・くらべる活動・いかす活動」として学習過程に位置づけることで、他者の考えを理解し、多様性を尊重しようとする態度を育てる学習。

多様性の尊重・共生

- 他者への関心、協力、共感

本時のねらい

- もとの大きさを2つに等分する分け方を、紙を折ったり切ったりして重ねることによって説明することができるようにするとともに、2つに等分した1つ分の大きさを  $\frac{1}{2}$  と表すことを知り、分数の意味を実感をともなって理解することができるようにする。
- 「せつめい活動・くらべる活動・いかす活動」の交流活動を通して、他者の考えを理解し、多様性を尊重しようとする態度を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 チョコレートを分けることについて話し合い、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">  <p>チョコレート1枚を2人で分けるよ。どうやってわけるといいかな。</p> </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>けんかをしないように、なかよく2つに分ける分け方を見つけなければいいんじゃないかな。</p> </div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">2人でなかよく分けている分け方を見つけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平等ではない分け方をした例を提示し「こんな分け方でいいかな？」という発問をすることで、「なかよく2つに分ける分け方」というめあてを意識させるようにする。</li> </ul>
展開	<p>2 様々な分け方をしたカードの中から、2人でなかよく分けている分け方を調べる。 ・折って重ねる ・切って重ねる</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【なかよく分けている】</p>  <p>・重ねたらぴったり ・同じ大きさに分け</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【なかよく分けていない】</p>  </div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">教師自身が一人一人を大切に する姿勢を示す。</p> <p>3 自他の考えを説明し合い、どの分け方がなかよく2人で分けているか話し合う。 (1) 隣の友だちに、自分の考えをカードを使って説明する。【せつめい】 (2) 全体で、なかよく分けたとと言える根拠を話し合う。【くらべる】 ・どの考えもカードを折ったり切ったりして重ねてぴったりになった。ぴったりになったら分けた2つは同じ大きさ。 (3) 分け方を変えた問題を解く。【いかす】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自力解決をさせ、ワークシートに「なかよく分けている」「なかよく分けていない」の仲間分けをさせる。</li> <li>○ <u>見ただけでははっきりしない分け方のカードも準備することで、折ったり切ったりして重ねて調べさせ、仲間分けの根拠を明確にさせる。</u></li> <li>○ <u>机間指導し、困っている児童には、折ったり切ったりしてぴったり重なるとなかよく分けていることになることを助言する。</u></li> <li>○ <u>隣の友だちとペアにさせ、仲間分けしたワークシートを使って、一人ずつ説明をさせる。</u></li> <li>○ 「私はなかよく分けているのは～だと思えます。理由は～だからです。」の理由の仕方を確認する。</li> <li>○ 何人かに発表させ、<b>「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。</b>という根拠を明確にする。</li> <li>○ 「<u>2つがぴったり重なる</u>」という分け方に名前をつけさせ、<u>みんなで考えたという意識を高める。</u></li> <li>○ 「<u>2つがぴったり重なれば同じ大きさ</u>」という比べ方を提示して、他の分け方についても考えさせる。</li> </ul>
整理	<p>4 本時の学習を振り返り、2人1組で学習のまとめをする。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「共に学び合う仲間だ」と 実感できる雰囲気をつくる。</p>	<p>の大きさを実感できるよう、具体物を半示し、意味と読み方を確認させる。</p>

学習方法を選択する機会を提供する。

教師自身が一人一人を大切に  
する姿勢を示す。

「共に学び合う仲間だ」と  
実感できる雰囲気をつくる。

「共に学び合う仲間だ」と  
実感できる雰囲気をつくる。

この学習活動を通して、「他者の考えを理解し、多様性を尊重しようとする態度」を育成します。

協力的・参加的な学習

小学校

基本的人権について、その意味や具体的な内容を調べたり、話し合ったりする活動を通して、基本的人権の知的理解を図るとともに、人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度を育成する学習。

権利と責任

○ 法の尊重、義務、責任

本時のねらい

- 基本的人権の意味や具体的な内容を調べたり、話し合ったりすることを通して、自分たちの生活とつなげて考えさせ、その意味と内容を理解させる。
- 基本的人権について、その意味や具体的な内容を理解させることで、人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 基本的人権とはどのようなものなのかを考え、本時学習のめあてをつかむ。	○ 憲法第11条を提示し「生まれながらにもっている」「憲法が国民に保障する」「おかしことのできない永久の権利」などの言葉を押さえる。
	基本的人権について調べ、私たちの生活とのつながりを考えよう。	
展開	2 憲法に定められている国民の権利と義務について調べる。 (1) 教科書に示されている国民の権利からいくつかを選び、「どのような権利なのか」を考え、ワークシートに書く。 (2) ワークシートをもとに全体で話し合う。  3 「もし教育を受ける権利がなかったらどんなことが困るのか」を班で話し合う。	○ 自分が大切と考える権利をいくつか選ばせ「どのような権利なのか」を自分なりの言葉で書かせる。  ○ それぞれの権利について、考えたことを発表させ「どのような人のどんな権利を守ることなのか」の視点でまとめさせる。 ○ 権利だけではなく、義務についても「どうしてそのような義務が定められているのか」を考えさせる。  ○ 自分たちの生活とつなげて考えられるように、「もし教育を受ける権利がなかったらどんなことが困るのか」という視点を与え、話し合わせる。 ○ 班の中で自分の考えを発表させ、同じ考えや違う考えなど自由に話し合わせる。 ○ 班ごとに話し合ったことを発表させることで、自分たちと関係のある身近な問題であることに気付かせる。 ○ 「教育を受ける権利」の内容を再度確認することで、基本的人権の意味を理解させる。
整理	4 本時学習を振り返り、次時学習への見通しをもつ。	○ 本時学習を振り返って、思ったことや考えたことを書かせる。 ○ 次時学習では、身近な人権課題を取り上げて考えていくことを知らせる。

協力的・参加的な学習

小学校

基本的人権について、その意味や具体的な内容を調べたり、話し合ったりする活動を通して、基本的人権の知的理解を図るとともに、人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度を育成する学習。

権利と責任

- 法の尊重、義務、責任

本時のねらい

- 基本的人権の意味や具体的な内容を調べたり、話し合ったりすることを通して、自分たちの生活とつなげて考えさせ、その意味と内容を理解させる。
- 基本的人権について、その意味や具体的な内容を理解させることで、人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 基本的人権とはどのようなものなのかを考え、本時学習のめあてをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 憲法第11条を提示し「生まれながらにもっている」「憲法が国民に保障する」「おかしことのできない永久の権利」などの言葉を押さえる。</li> </ul>
展開	<p>2 憲法に定められている国民の権利と義務について調べる。</p> <p>(1) 教科書に示されている国民の権利からいくつかを選び、「どのような権利なのか」を考え、ワークシートに書く。</p> <p>(2) ワークシートをもとに全体で話し合う。</p> <p>3 「もし教育を受ける権利がなかったらどんなことが困るのか」を班で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>自分が大切と考える権利をいくつか選ばせ「どのような権利なのか」を自分なりの言葉で書かせる。</u></li> <li>○ それぞれの権利について、考えたことを発表させ「どのような人のどんな権利を守ることなのか」の視点でまとめさせる。</li> <li>○ 権利だけではなく、義務についても「どのような義務が定められているのか」を話し合わせる。</li> <li>○ <u>自分たちの生活とつなげて考えられるように、「もし教育を受ける権利がなかったらどんなことが困るのか」という視点を与え、話し合わせる。</u></li> <li>○ <u>班の中で自分の考えを発表させ、同じ考えや違う考えなど自由に話し合わせる。</u></li> <li>○ 班ごとに話し合ったことを発表させることで、自分たちと関係のある身近な問題であることに気付かせる。</li> <li>○ 「教育を受ける権利」の内容や「教育を受ける権利」が基本的人権の意味を理解させる。</li> </ul>
整理	<p>4 本時学習の振り返り、次時学習への見通しをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時学習を振り返って、思ったこと、感じたこと、言いたいことを発表させる。</li> <li>○ 次時学習では、身近な人権課題を取り上げて考えていくことを知らせる。</li> </ul>

学習課題や計画を選択する機会を提供する。

基本的人権について調べる。

「授業に参加している」という実感を持たせる。

「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気を持たせる。

この学習活動を通して、「人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度」を育成します。

協力的・参加的な学習

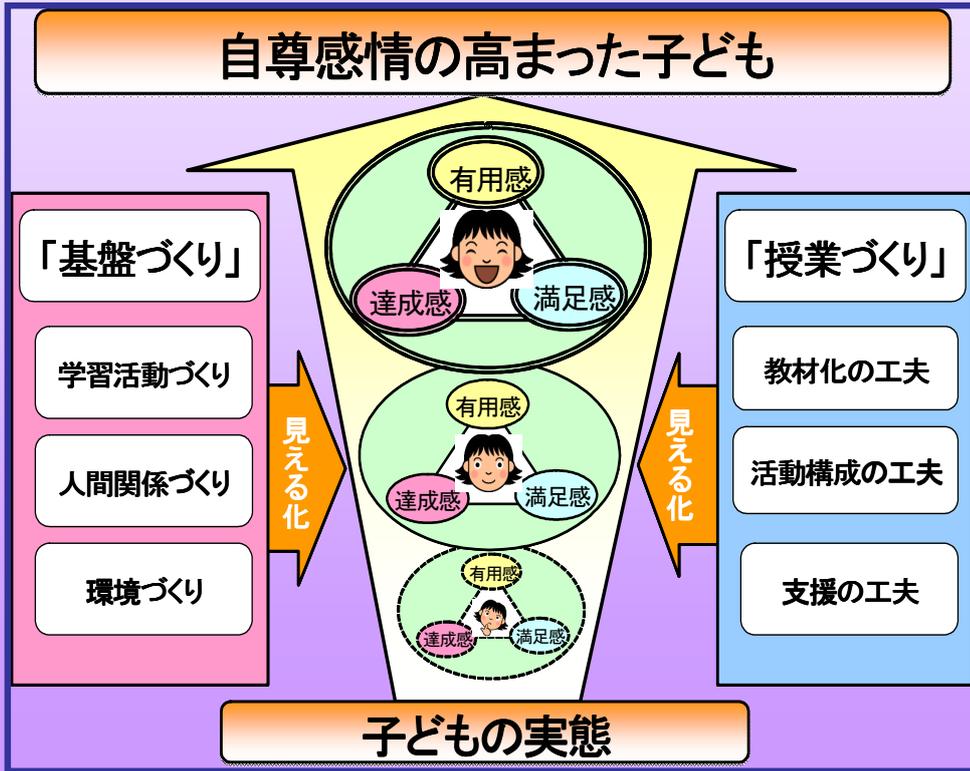
小学校

校区内を流れる「矢部川」に関心を持ち、生活に役立つような水辺の利用法について考える探究的な学習を通して、自尊感情(達成感、満足感、有用感)を高めるとともに、社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度を育てる取組。

参加・参画

○ 参加、参画、行動

### 研究構想図



### めざす子ども

- 地域の矢部川の環境(船小屋地区に住む生き物、水の透明度)が「わかった」、矢部川の水辺を有効に活用していくための「船小屋ゆめプラン」を考えることが「できた」、という喜びを味わう子ども **(達成感)**
- 矢部川の環境について、現状を知るための水質検査や生き物調べ等の活動を、意欲的に「がんばった」、水辺を歩いたり、身近な人に取材を行ったりグループで話し合ったりしながら考え、もっと河川を有効に活用する方法が「わかった」といった喜びを味わう子ども **(満足感)**
- 矢部川の水辺を自分たちの学び・遊び・体験活動の場として有効に活用していくための方法を考え、それを他者にわかりやすく発信することを通して、矢部川をもっと生かそうと働きかけることができたという有用感をもつ子ども **(有用感)**

### 単元目標

- (1) 校区を流れる川「矢部川」に関心を持ち、生活に役立つような水辺の利用法について考え、自然とのかかわりを深めていこうとする。 **(学ぶ力)**
- (2) 地域を流れる川に目を向け、自分たちの生活にもっと生かせるようすすんで考え、「船小屋ゆめプラン」について話し合おうとする。 **(かかわる力)**
- (3) 矢部川という自分たちが住んでいる地域の身近な川に目を向け、矢部川の水辺をもっと生かすためのアイデアや自分たちにできることを考え、実行しようとする。 **(見つめる力)**

## 本時のねらい

- 矢部川の「環境」や「水辺利用」の生かし方について考え、地域の一員として未来の「船小屋ゆめプラン」についてグループ発表を行ったり、話し合いで自分の考えを発表したりすることができる。
- 未来の「船小屋ゆめプラン」について考え、話し合う活動を通して、自尊感情を高めるとともに、社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度を育てる。

### 自尊感情を高めるための本時のポイント

本校では総合的な学習の時間において、自分の考えをうまく伝えることが「できた」、認めてもらうことが「できた」、友だちの「役に立った」という達成感や有用感を味わわせることが、自尊感情を高めることになる。本時では、三観点での目標設定と振り返りの場での比較による意識の高まりで、交流場面での友だちの発言やゲストティーチャーからの価値付け等により、自分の考えや発表の仕方のよさに気づくことが出来るように仕組む。

	学 習 活 動	教師の支援・援助
導入	1 これまでの追究内容や方法を振り返り、本時学習のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの活動を振り返りながら、本時のめあてを確認させる。</li> <li>○ 学習の見通しが持てるように本時学習の流れを提示する。</li> </ul>
<b>未来の「船小屋ゆめプラン」について話し合おう。</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 矢部川をもっと生活に生かせるようなアイデアを、聞く人によく伝わるように発表する。(達成感)</li> <li>・ グループの友達にアドバイスしてもらったことを生かせるように気をつけて発表する。(満足感)</li> <li>・ 近くに住む人が喜んでくれるような船小屋になるように、一生けん命考える。(有用感)</li> </ul>		
展開	2 学習の流れを確認し、本時学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ①グループごとの発表(まとめたこと)              ②話し合い(有効な活用法)              ・子どもが楽しく安全に遊べる場              ・川や生き物について学べる場              ・みんなにおすすめできる物              ③学習の振り返り           </div> 3 グループでまとめたことを発表し合い、「船小屋ゆめプラン」について話し合う。 (1) グループごとに発表する。  (2) 他グループのプランを聞いて、質問したいことや感想を発表する。  4 ゲストティーチャーの話を聞き、本時学習をまとめる。 ・国土交通省の方から ・地域の方から	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループの発表内容については、「船小屋ゆめプラン」の目的である「いろいろな年齢層の人たちの生活に生かせるようなプラン」という視点から以下の点をグループごとに再度確認させる。               <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                 ① つくりたいもの                  ② 目的(理由とその根拠)                  ・だれにとって(相手意識)                  ・有効活用できることは(目的意識)               </div> </li> <li>○ ワークシートを準備し、発表を聞く際も、相手意識、目的意識の視点から聞くようにさせ、「いいなと思ったこと」「少し変えた方がいいと思うこと」「質問したいこと」をメモさせる。</li> <li>○ メモしたことをもとに、各グループへの質問と感想を発表させる。</li> <li>○ ゲストティーチャーの方からも質問があればしていただくようにする。</li> <li>○ 子どもたちのアイデアのよかったところやこれまでの活動を評価していただき、今後の活動への意欲を持たせる。</li> </ul>
整理	5 評価カードに振り返りを書き、次時学習への見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のめあてに沿って自己評価させる。</li> <li>○ 次時は、本時の話し合いを踏まえ、今の自分たちができることについて話し合っていくことを確認する。</li> </ul>

本時のねらい

- 矢部川の「環境」や「水辺利用」の生かし方について考え、地域の一員として未来の「船小屋ゆめプラン」についてグループ発表を行ったり、話し合いで自分の考えを発表したりすることができる。
- 未来の「船小屋ゆめプラン」について考え、話し合う活動を通して、自尊感情を高めるとともに、社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度を育てる。

自尊感情を高めるための本時のポイント

本校では総合的な学習の時間において、自分の考えをうまく伝えることが「できた」、認めてもらうことが「できた」、友だちの「役に立った」という達成感や有用感を味わわせることが、自尊感情を高めることになると考える。本時では、三観点での目標設定と振り返りの場での比較による意識の高まりで、交流場面での友だちの発言やゲストティーチャーからの価値付け等により、自分の考えや発表の仕方のよさに気づくことが出来るように仕組む。

	学 習 活 動	教師の支援・評価
導入	1 これまでの追究内容や方法を振り返り、本時学習のめあてを確認する。	○ 前時までの活動を確認させる。 ○ 学習の見通しを促すように本時学習の流れを提示する。
未来の「船小屋ゆめプラン」について話し合おう。 ・矢部川をもっと生活に生かせるようなアイデアを、聞く人によく伝えるように発表する。(達成感) ・グループの友達にアドバイスしてもらったことを生かせるように気をつけて発表する。(満足感) ・近くに住む人が喜んでくれるような船小屋になるように、一生けん命考える。(有用感)		
展開	2 学習の流れを確認し、本時学習の見通しをもつ。 ①グループごとの発表(まとめたこと) ②話し合い(有効な活用法) ・子どもが楽しく安全に遊べる場 ・川や生き物について学べる場 ・みんなにおすすめできる物 ③学習の振り返り 3 グループでまとめたことを発表し合い、「船小屋ゆめプラン」について話し合う。 (1) グループごとに発表する。  (2) 他グループのプランを聞いて、質問したいことや感想を発表する。  4 ゲストティーチャーの話を聞き、本時学習をまとめる。 ・国土交通省の方から ・地域の方から	○ グループの発表内容については、「船小屋ゆめプラン」の目的である「いろんな年齢層の人たちの生活に生かせるようなプラン」という視点から以下の点をグループごとに再度確認させる。 「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。(根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>ワークシートを準備し、発表を聞く際も、相手意識、目的意識の視点から聞くようにさせ、「いいなと思ったこと」「少し変えた方がいいと思うこと」「質問したいこと」をメモさせる。</u></li> <li>○ メモしたことをもとに、各グループへの質問と感想を発表させる。</li> <li>○ ゲストティーチャーに質問を投げかけていただくようにする。</li> <li>○ <u>子どもたちのアイデアのよかったところやこれまでの活動を評価していただき、今後の活動への意欲を持たせる。</u></li> </ul>
○ 本時のめあてに沿って自己評価させる。 ○ 次時は、本時の話し合いを踏まえ、今の自分たちができることについて話し合っていくことを確認する。		

学習課題や計画を選択する機会を提供する。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

「授業に参加している」という実感を持たせる。

この一連の学習活動を通して、「社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度」を育成します。

協力的・参加的な学習

小学校

あさがおへの主体的な関わりを通して、成長や適切な世話の仕方に気付かせるとともに、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育成する学習。

想像力・共感力

○ 想像力、感受性、共感力

本時のねらい

- 自分のあさがおの様子や関わり方を交流したり、あさがおに名前をつけ気持ちを想像させたりすることを通して、あさがおの成長や適切な世話の仕方に気付くことができるようにする。
- あさがおに名前をつけ気持ちを想像させたり、声かけをしたりすることを通して、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 あさがおの成長の様子を話し合う。</p> <p>・なかなかめがでなくてしんぱいしたよ。 ・みずやりをまいにちががんばったよ。 ・まだめがででないよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際にあさがおの様子を観察させたり、観察カードを見直したりすることで、あさがおの成長の様子や自分の関わりを振り返らせる。</li> <li>○ 毎日の水やりや追肥などのお世話してきたことを肯定的に評価することで継続の意欲につなげる。</li> </ul>
<p>あさがおさんのきもちになって、これからのお世わのしかたをかんがえよう。</p>		
展開	<p>2 これからの世話の仕方を話し合う。</p> <p>(1) 自分のあさがおに名前をつける。</p> <p>(2) あさがおが困っていることを出し合う。</p> <p>・たくさんめがでてきてせまいよ。 ・みずでおなかいっぱいだよ。 ・むしがきてはっぱにあながあいたよ。</p> <p>(3) 適切な世話の仕方を話し合う。</p> <p>・みずはやりすぎないようにしよう。 ・なつは2かいみずやりをしよう。 ・くさがはえたらぬこう。 ・きゅうくつにならないようにはっぱをとってあげよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分のあさがおに名前をつけることで、あさがおをより身近に感じられるようにする。</li> <li>○ 種、双葉、本葉、虫食いなどの写真を提示することで、課題を共有できるようにする。</li> <li>○ あさがおの気持ちを想像させ、発表したり、演技をしたりすることで、どんなことが困っているのかを考えさせる。</li> <li>○ 自分のあさがおが喜ぶ世話を考えさせることで、適切な世話の仕方について確認する。</li> </ul>
整理	<p>3 自分のあさがおにどんな世話をするのか声かけをさせ、本時学習をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分のあさがおに声かけをすることで、これからの世話に意欲が持てるようにする。</li> <li>○ 毎日世話していることを肯定的に評価することで、自分の成長にも気づかせる。</li> </ul>

協力的・参加的な学習

小学校

あさがおへの主体的な関わりを通して、成長や適切な世話の仕方に気付かせるとともに、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育成する学習。

想像力・共感力

○ 想像力 感受性 共感力

本時のねらい

- 自分のあさがおの様子や関わり方を交流したり、あさがおに名前をつけ気持ちを想像させたりすることを通して、あさがおの成長や適切な世話の仕方に気付くことができるようにする。
- あさがおに名前をつけ気持ちを想像させたり、声かけをしたりすることを通して、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 あさがおの成長の様子を話し合う。</p> <p>・なかなかめがでなくてしんぱいしたよ。 ・みずやりをまいにちががんばったよ。 ・まだめがででないよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際にあさがおの様子を観察させたり、観察カードを見直したりすることで、あさがおの成長の様子や自分の関わりを振り返らせる。</li> <li>○ 毎日の水やりや追肥などのお世話してきたことを肯定的に評価することで継続の意欲につなげる。</li> </ul>
あさがおさんのきもちになって、これからのお世わのしかたを		
展開	<p>2 これからの世話の仕方を話し合う。</p> <p>(1) 自分のあさがおに名前をつける。</p> <p>(2) あさがおが困っていることを出し合う。</p> <p>・たくさんめがでてきてせまいよ。 ・みずでおなかいっぱだよ。 ・むしがきてはっぱにあながあいたよ。</p> <p>(3) 適切な世話の仕方を話し合う。</p> <p>・みずやりすぎないようにしよう。 ・たかひきかいみずやりをしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分のあさがおに名前をつけることで、あさがおをより身近に感じられやすくなる。</li> <li>○ 種、双葉、本葉、虫食いなどの写真を提示することで、課題を共有できるようにする。</li> <li>○ <u>あさがおの気持ちを想像させ、発表したり、演技をしたりすることで、どんなことが困っているのかを考えさせる。</u></li> <li>○ 自分のあさがおが喜ぶ世話を考えさせることで、適切な世話の仕方について確認する。</li> </ul>
整理	<p>どんな世話をするのか声かけをさせ、本時学習をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>自分のあさがおに声かけをすることで、これからの世話に意欲が持てるようにする。</u></li> <li>○ <u>毎日世話していることを肯定的に評価することで、自分の成長にも気づかせる。</u></li> </ul>

表現方法を選択する機会を提供する。

「自分が必要とされている」という実感を持たせる。

この学習活動を通して、「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」を育成します。

教師自身が一人一人を大切に示す姿勢を示す。

協力的・参加的な学習

小学校

資料の共感的活用を通して、公共・公德心の価値を追究し、道徳的实践意欲・態度を養うとともに、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育成する学習。

想像力・共感力

○ 共感力、感受性、想像力

本時のねらい 【資料名「黄色いかさ」(出典:東京書籍) 4-(1)約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ】

- 自分たちの身の回りには、みんなが気持ちよく過ごせるようにきまりがあることに気付き、そのきまりを守ろうとする態度を育てる。
- 資料の共感的活用を通して、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 「学校のきまり」についてのアンケート結果を提示し、日常の生活を振り返らせ、本時のめあてをつかむ。	○ 日常の中にあるきまりについて想起させることによって、本時学習への方向づけをする。
	きまりを守ろうとする心をふくらませよう。	
展開	2 資料「黄色いかさ」を読み、主人公の心の動きについて話し合い、ねらいとする価値を追究する。 (1) 突然の雨に困って、駅の黄色いかさを借りて家に帰った時の主人公の気持ちを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">駅のかさをかりて帰る時、どんな気持ちだったでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも借りていいかさがあってよかった。</li> <li>・ぬれずに家に帰ることができてよかった。</li> </ul> (2) お母さんにかさを返すように注意された時の主人公の気持ちを心情図で表し、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">お母さんにかさを返すように注意された時、どんな気持ちだったでしょう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人くらい返さなくてもかまわないさ。</li> <li>・めんどくさいな。</li> </ul> (3) おばあさんから、かさが一本もないという話を聞き、急いで走り出した時の主人公の気持ちを心情図で表し、道徳ノートに書き発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">おばあさんから、黄色いかさが一本もないという話を聞き、急いで走り出した時、どんな気持ちだったでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくのせいだ。おばあさんごめんね。</li> <li>・早く返しておけばよかった。</li> <li>・自分勝手だった。</li> </ul> (4) 全体で交流する。	○ 主人公の行為に視点を向けるように指示をしてから読み聞かせをする。  ○ 本文中の「だれでもかりていいかさ」「突然の雨」ということを確認する。  ○ 場面絵の表情に着目させたり、言動を板書したりすることで、「かさを借りられてよかった」「助かった」という主人公の気持ちを想像させる。  ○ 本文の「何日もたちました」「おかれたままです」という言葉から、主人公の自分勝手な気持ちに気づかせ、心情図で表させる。
	きまりを守ると、自分も周りの人も気持ちよく過ごすことができる。 きまりを守ることは、自分にとっても周りの人にとっても大切である。	
整理	4 教師からメッセージを聞き、本時学習を振り返る。	○ 教師のきまりを守ってよかった経験を紹介することを通して、きまりを守ることで、みんなが気持ちよく生活できていることを実感させる。 ○ 道徳ノートに今日の振り返りを書かせる。

協力的・参加的な学習

小学校

資料の共感的活用を通して、公共・公德心の価値を追究し、道徳的実践意欲・態度を養うとともに、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育成する学習。

想像力・共感性

○ 共感性、感受性、想像力

本時のねらい 【資料名「黄色いかさ」(出典:東京書籍) 4-(1)約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ】

- 自分たちの身の回りには、みんなが気持ちよく過ごせるようにきまりがあることに気付き、そのきまりを守ろうとする態度を育てる。
- 資料の共感的活用を通して、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 「学校のきまり」についてのアンケート結果を提示し、日常の生活を振り返らせ、本時のめあてをつかむ。	○ 日常の中にあるきまりについて想起させること によって、本時学習への方向づけをする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">きまりを守ろうとする心をふくらませよう。</div>		
展開	<p>2 資料「黄色いかさ」を読み、主人公の心の動きについて話し合い、ねらいとする価値を追究する。</p> <p>(1) 突然の雨に困って、駅の黄色いかさを借りて家に帰った時の主人公の気持ちを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">駅のかさをかりて帰る時、どんな気持ちだったでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも借りていいかさがあってよかった。</li> <li>・ぬれずに家に帰ることができてよかった。</li> </ul> <p>(2) お母さんにかさを返すように注意された時の主人公の気持ちを心情図で表し、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">お母さんにかさを返すように注意された時、どんな気持ちだったでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人くらい返さなくてもかまわないさ。</li> <li>・めんどくさいな。</li> </ul> <p>(3) おばあさんから、かさが一本もないという話を聞き、急いで走り出した時の主人公の気持ちを心情図で表し、道徳ノートに書き発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">おばあさんから、黄色いかさが一本もないという話を聞き、急いで走り出した時、どんな気持ちだったでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくのせいだ。おばあさんごめんね。</li> <li>・早く返しておけばよかった。</li> <li>・自分勝手だった。</li> </ul> <p>(4) 全体で交流する。</p> <p>3 これまでの自分たちの生活を振り返り、きまりを守ることを再確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主人公の行為に視点を向けるように指示をしてから読み聞かせをする。</li> <li>○ 本文中の「だれでもかりていいかさ」「突然の雨」ということを確認する。</li> <li>○ 場面絵の表情に着目させたり、言動を板書したりすることで、「かさを借りられてよかった」「助かされた」という気持ちを想像させる。</li> <li>○ 「授業に参加している」という実感を持たせる。</li> <li>○ 「表現方法を選択する機会を提供する。」</li> <li>○ 反省している主人公の気持ちに共感させるため場面絵の表情に着目させ、主人公の気持ちを心情図で表し、文章で道徳ノートに書かせる。</li> <li>○ 全体交流し、主人公のきまりを守ろうという気持ちが大きくふくらんだことに気づかせる。</li> <li>○ 学校生活の中で「学校のきまり」を守っている自分の姿を想起させ、「きまりを守ってよかった」という経験を発表させる。</li> </ul>
整理	<p>これまでの自分たちの生活を振り返り、きまりを守ることを再確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。</li> <li>○ 道徳ノートに今日の振り返りを書かせる。</li> </ul>

この学習活動を通して、「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」を育成します。

「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。

「体験」を取り入れた学習

小学校

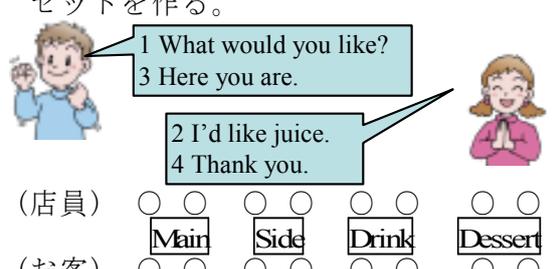
「オリジナルランチセット」を作る活動を通して、意欲的に欲しいものを尋ねたり答えたりする英語を用いたコミュニケーションを体験させることで、能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能を育成する取組。

コミュニケーション能力

- 傾聴、人間関係づくり、多様な表現方法

本時のねらい

- 3つのポイント (clear voice, eye contact, smile) を意識しながら、意欲的に欲しいものを尋ねたり答えたりできるようにする。
- 意欲的に欲しいものを尋ねたり答えたりする活動を通して、能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能を育成する。

	学 習 活 動	教師の支援・援助
導入	1 あいさつをする。 T: Hello everyone. How are you? S: I'm fine thank you. How about you? T: I'm fine. (sleepy, tired...) Thank you. 2 前時をふり返り、本時めあてをつかむ。	○ 今日の気分に応じて表現させる。 ○ 意欲が向上するように、表現しようとする姿をほめる。 ○ 各自でランチセットを作るという目標を想起させ、本時のめあてをつかませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">欲しい食べ物を買物して、オリジナルランチセットを作ろう。</div>		
展開	3 キーワードゲーム・スタンドアップゲームをする。 4 ランチセットの作り方のデモンストレーションを見て、やりとりの仕方でいいところを発表する。  【買い物をするときに気を付けること】 ・ clear voice (よく聞こえる声で) ・ eye contact (相手の目を見て) ・ smile (笑顔で)  5 店員とお客になってオリジナルランチセットを作る。  <p>(店員) ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>(お客) ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>【作成例】</p> 	【スタンドアップゲーム】 ① 児童が指導者に "What would you like?" と尋ねる。 ② 指導者は "I'd like juice." と欲しい物を答える。 ③ 児童は、指定された食べ物でなかったら発話を繰り返し、指定された食べ物の時は立つ。  ○ 声の大きさや表情を意識した場合と意識していない場合の指導者の話し方の様子を見せ、伝わりやすい話し方に気付かせる。 ○ あらかじめメニューにしたい料理を決めておき、ランチセットの名前を考えさせる。 ○ 他の教師が考えたランチセットを紹介するVTRを提示し、作成意欲を高める。  ○ 買い物を想定しているので、お金の模型のやりとりもさせる。  ○ 多くの児童同士でやりとりができるように、4つのコーナー (Main/Side/Drink/Dessert) を準備して、それぞれから1つ買い物をするようにさせる。 ○ 買った食べ物カードを自分の考えているランチセットのテーマに沿って詳しくさせる。 【例】 ピザ → トマトピザ パフェ → チョコレートパフェ 等 ○ 買い物したカードを台紙に貼らせ、作ったランチセットに英語でネーミングをさせる。 ○ 言いにくそうな児童に寄り添い一緒に言う等の支援を行う。  ○ 代表して2～3名の児童に発表させる。
整理	7 本時の活動を振り返る。 (1) 振り返りカードに記入し、発表する。 ○ めあての達成度、3つのポイント ○ 次の活動への意欲 (2) あいさつをする。 T: That's all for today. Thank you, everyone. S: Thank you, Fukuoka sensei.	○ 振り返りカードに記入した後、数名の児童に発表させ、交流し本時のまとめをする。 ○ 活動のよかったところを賞賛し、次時の意欲を高める。

「体験」を取り入れた学習

小学校

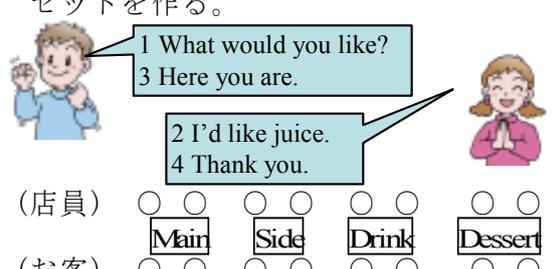
「オリジナルランチセット」を作る活動を通して、意欲的に欲しいものを尋ねたり答えたりする英語を用いたコミュニケーションを体験させることで、能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能を育成する取組。

コミュニケーション能力

- 傾聴、人間関係づくり
- 多様な表現方法

本時のねらい

- 3つのポイント (clear voice, eye contact, smile) を意識しながら、意欲的に欲しいものを尋ねたり答えたりできるようにする。
- 意欲的に欲しいものを尋ねたり答えたりする活動を通して、能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能を育成する。

	学 習 活 動	教師の支援・援助
導入	1 あいさつをする。 T: Hello everyone. How are you? S: I'm fine thank you. How about you? T: I'm fine. (sleepy, tired...) Thank you. 2 前時をふり返り、本時めあてをつかむ。	○ 今日の気分に応じて表現させる。 ○ 意欲が向上するように、表現しようとする姿をほめる。 ○ 各自でランチセットを作るという目標を想起させ、本時のめあてをつかませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">欲しい食べ物を買物して、オリジナルランチセットを作ろう。</div>		
展開	3 キーワードゲーム・スタンドアップゲームをする。 4 ランチセットの作り方のデモンストレーションを見て、やりとりの仕方でいいところを発表する。 【買物をするときに気を付けること】 ・ clear voice (よく聞こえる声で) ・ eye contact (相手の目を見て) ・ smile (笑顔で) 5 店員とお客になってオリジナルランチセットを作る。  (店員) ○ ○ ○ ○ ○ ○ (お客) ○ ○ ○ ○ ○ ○ 【作成例】 	【スタンドアップゲーム】 ① 児童が指導者に "What would you like?" と尋ねる。 ② 指導者は "I'd like juice." と欲しい物を答える。 ③ 児童は、指定された食べ物でなかったら発話を繰り返し、指定された食べ物の時は立つ。 ○ 声の大きさや表情を意識した場合と意識していない場合の指導者の話し方の様子を見せ、伝わりやすい話し方に気付かせる。 ○ あらかじめメニューにしたい料理を決めておき、ランチセットの名前を考えさせる。 ○ 児童の教師が考えたメニューを参考に、Rを提示し、... ○ 買物を想定して...で、お金の模型のやりとりもさせる。 ○ <u>多くの児童同士でやりとりができるように、4つのコーナー (Main/Side/Drink/Dessert) を準備して、それぞれから1つ買物をするようにさせる。</u> ○ <u>買った食べ物カードを自分の考えているランチセットのテーマに沿って詳しくさせる。</u> 【例】ピザ → トマトピザ パフェ → チョコレートパフェ 等 ○ 買物したカードを台紙に貼らせ、作ったランチセットに英語でネーミングをさせる。 ○ <u>言いにくそうな児童に寄り添い一緒に言う等の支援を行う。</u> ○ 代表して2～3名の児童に発表させる。
整理	7 本時の活動を振り返る。 (1) 振り返りカードに記入し、発表する。 ○ めあて ○ 次の (2) あ T: That's S: Thank you, Fukuoka sensei.	○ 振り返りカードに記入した後、数名の児童に発表させる。 ○ 活動の振り返りを通して、本時の意欲を高める。 ○ 教師自身が一人一人を大切にしている姿勢を示す。

表現方法を選択する機会を提供する。

「授業に参加している」という実感を持たせる。

この学習活動を通して、「能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能」を育成します。

教師自身が一人一人を大切にしている姿勢を示す。

協力的・参加的な学習

小学校

学級の旗のデザインについて合意形成を図る話し合い活動を通して、自発的、自治的に楽しい学級生活をつくろうとする態度の育成を図るとともに、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を育成する取組。

人間関係調整力・問題解決力

- 協力、建設的、調整、解決

本時のねらい

- 学級の旗のデザインについて話し合う活動を通して、それぞれの友だちや学級に対する思いや願いを交流し、そのデザインを決定することができるようにする。
- 合意形成を図る話し合い活動を通して、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 計画委員の提案をもとに、みんなの思いを取り入れた学級の旗のデザインを話し合うめあてをつかむ。</p> <p>――議題―― みんなのチームワークを深めるために学級のはたのデザインを決めよう。</p> <p>――提案理由―― みんなの心を一つにして、チームワークを深めるため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちの学級の状況を振り返ったアンケート結果を提示しチームワークを深めるため、心を一つにする旗づくりを行うことを確認し、本時のめあてをつかませる。</li> <li>○ 議題を確認し、計画委員に原案で提案した旗のデザインの概要について紹介してもらい話し合っ決めてほしいことと提案理由を述べさせる。</li> </ul>
	<p>学級のチームワークを深めるために、みんなの思いを取り入れた学級のはたのデザインを決めよう。</p>	
展開	<p>2 議題について話し合い、デザインを検討する。</p> <p>(1) 自分が考えてきた学級の旗のデザインを提示し、そのデザインにした理由を述べる。</p> <p>(2) 言葉を入れる、入れないについて話し合い決定する。 ・言葉を入れるのであれば、どの言葉がよいか話し合い決定する。</p> <p>(3) 他の絵を入れる、入れないについて話し合い、入れるのであればそのデザインについて決定する。</p> <p>(4) 決まったことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 司会者より「私はこのように○○のデザインにしました。ここに△△をかいたのは・・・と思ったからです。」と発表の仕方を例示させ、自分の考えてきた旗のデザインについて提示させる。</li> <li>○ まず言葉が書かれているか、否かについて分類し、全員の旗のデザインを黒板に分類して掲示させる。</li> <li>○ 言葉の挿入について理由を述べさせ、目的性、相互性の観点から、話し合わせる。</li> <li>○ 意見が採用されなかった児童には、計画委員が決定内容を確認し了承を得る。</li> <li>○ ここでも目的性、相互性の観点から、話し合わせる。</li> <li>○ 黒板のデザインを絵がある、ないに分類させ、それぞれの理由について述べさせ話し合わせる。</li> <li>○ 目的性、相互性、実現性の観点から絵を決定させる。</li> <li>○ 話し合ったデザインについて発表させ、決まったことを確認させる。</li> </ul>
整理	<p>3 教師から本時活動の評価を聞き、これまでの活動を振り返り、自己評価カードの目標に沿って振り返りを行う。</p> <p>4 振り返りを交流し、活動への意欲の高まりを実感させ、今後の活動に見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己評価カードの「話し合い活動」の目標に沿って、今日の活動を振り返らせ、次時の活動の目標を持たせる。</li> <li>○ 次時の活動の目標を中心に、振り返りを交流させる。</li> </ul>

協力的・参加的な学習

小学校

学級の旗のデザインについて合意形成を図る話し合い活動を通して、自発的、自治的に楽しい学級生活をつくろうとする態度の育成を図るとともに、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を育成する取組。

人間関係調整力・問題解決力

- 協力、建設的、調整、解決

本時のねらい

- 学級の旗のデザインについて話し合う活動を通して、それぞれの友だちや学級に対する思いや願いを交流し、そのデザインを決定することができるようにする。
- 合意形成を図る話し合い活動を通して、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 計画委員の提案をもとに、みんなの思いを取り入れた学級の旗のデザインを話し合うめあてをつかむ。</p> <p>議題 みんなのチームワークを深めるために学級のはたのデザインを決めよう。</p> <p>提案理由 みんなの心をつなげて、チームワークを深めるため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちの学級の状況を振り返ったアンケート結果を提示し、チームワークを深めるため、心をつなげる旗づくりを行うことを確認し、本時のめあてをつかませる。</li> <li>○ 議題を確認し、計画委員に原案で提案した旗のデザインの概要について紹介してもらい話し合ったいことと提案理由を述べさせる。</li> </ul>
<p>学級のチームワークを深めるために、みんなの思いを取り入れた学級のはたのデザインを決めよう。</p>		
展開	<p>2 議題について話し合い、デザインを検討する。</p> <p>(1) 自分が考えてきた学級の旗のデザインを提示し、そのデザインにした理由を述べる。</p> <p>(2) 言葉を入れる、入れないについて話し合い決定する。 ・言葉を入れるのであれば、どの言葉がよいか話し合い決定する。</p> <p>(3) 他の絵を入れる、入れないについて話し合い、入れるのであればそのデザインについて決定する。</p> <p>(4) 決まったことを確認する。</p>	<p>「授業に参加している」という実感を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 司会者より「私はこのように〇〇のデザインを決めました。ここに△△をかいたのは・・・と思ったからです。」発表の仕方を例示させ、自分の考えてきた旗のデザインについて提示させる。</li> <li>○ まず言葉が書かれているか、否かについて分類し、<u>全員の旗のデザインを黒板に分類して掲示させる。</u></li> <li>○ 言葉の挿入について理由を述べさせ、目的性、相互性の観点から、話し合わせる。</li> <li>○ <u>意見が採用されなかった児童には、計画委員が決定内容を確認し了承を得る。</u></li> <li>○ ここでも目的性、相互性の観点から、話し合わせる。</li> <li>○ 黒板のデザインを絵がある、ないに分類させ、それぞれの理由について述べさせ話し合わせる。</li> <li>○ <u>目的性、相互性、実現性の観点から絵を</u>させる。</li> <li>○ 話し合ったデザインについて発表させ、決まったことを確認させる。</li> </ul>
整理	<p>3 教師から本時活動の評価を聞き、これまでの活動を振り返り、自己評価カードに沿って振り返りを行う。</p> <p>4 振り返りを通して、活動への思いや願いを交流し、活動へのめあて、今後の活動のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己評価カードの「話し合い活動」の振り返りを通して、次時の活動の目標を確認させる。</li> <li>○ 次時の目標を中心に、振り返りを交流させる。</li> </ul>

この学習活動を通して、「協力的・建設的に問題解決に取り組む技能」を育成します。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。

協力的・参加的な学習

小学校

地域の農業や生産者に関する課題と食に関する指導を関連させて位置づけ、探究的な学習として体験活動や地域・家庭と連携した取組を展開していくことを通して、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を育成しようとする取組。

人間関係調整力・問題解決力

○ 協力、建設的、解決

本事例は、総合的な学習の時間の内容として、地域の農業や生産者に関する課題と食に関する指導を関連させ、栽培・加工活動や調査・追究活動を年間を通して探究的な学習として位置づけているプログラム例です。また、人権感覚を育成する「価値的・態度的側面」「技能的側面」と「食に関する指導の目標」を関連させ、探究的な学習の過程で、人権教育で育てたい資質・能力としての協力的・建設的に問題解決に取り組む技能の育成も目指しています。

ここでは、取組全体の学習プログラムと「食に関する指導の目標と人権感覚を育成する『価値的・態度的側面』『技能的側面』との関連表」を紹介しています。

この一連の学習活動を通して、「協力的・建設的に問題解決に取り組む技能」を育成します。

## 単元目標

問題解決能力	大豆と自分たちの食生活との関係を考え、多様な加工の仕方について体験を通して追究することができる。
学び方や考え方	問題解決のために4年生や家族、地域の人から話を聞き、分かったことや考えたことを、相手に分かるようにまとめたり、発表したりすることができる。
主体的・創造的・協同的な態度	自分から進んで大豆を育てたり、大豆の加工品を作る工程に興味をもちたりして、最後まで取り組むことができる。
自己の生き方	先人の知恵や工夫に気づき、そのよさを生かして、健康的な生活をしようとする。

### 本単元における食に関する指導目標

#### 【心身の健康】

- 健康に過ごすことを意識して色々な食べ物を好き嫌いせずに食べようとする。

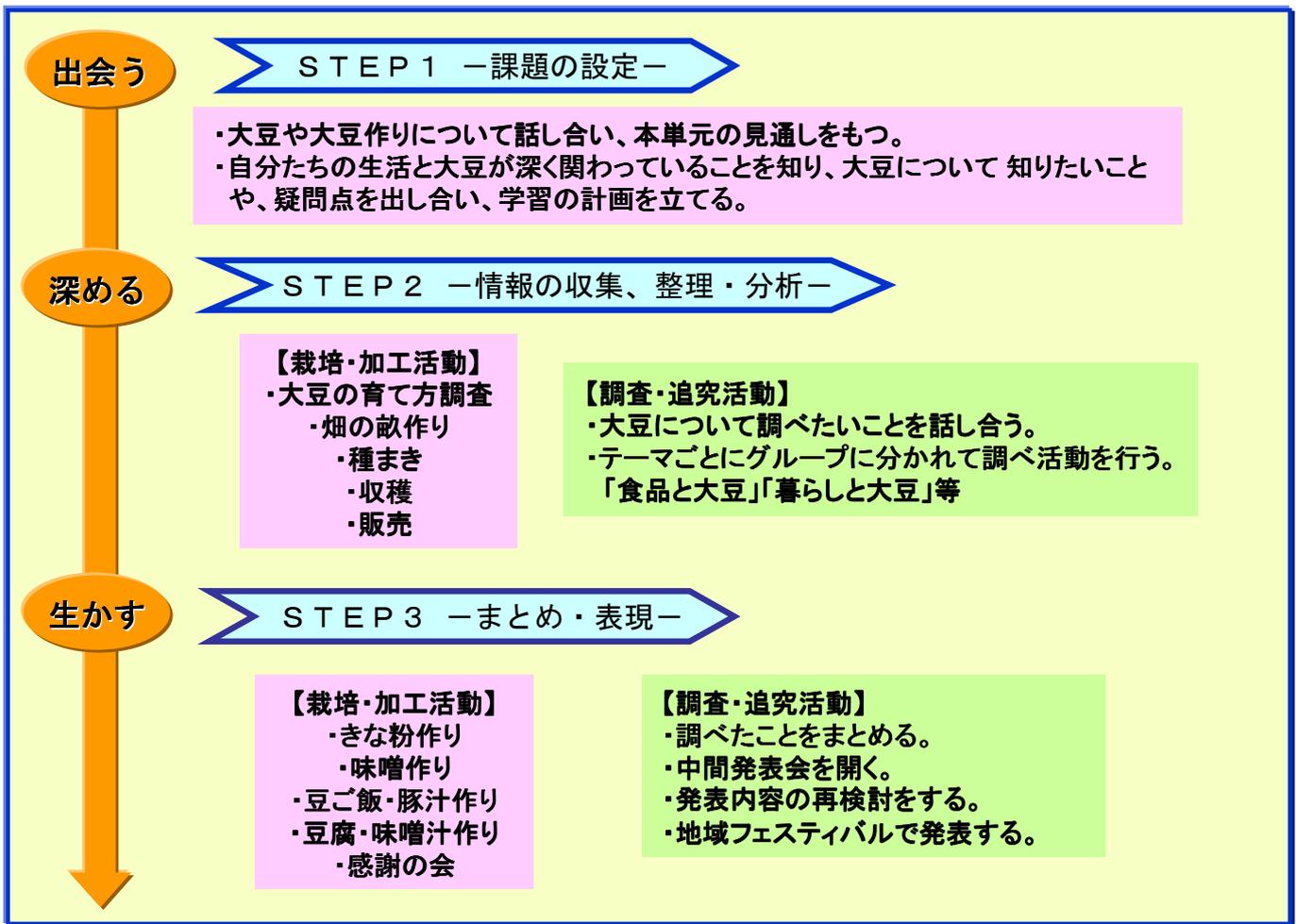
#### 【食文化】

- 地域の特産物に興味をもち、日常の食事と関連づけて考えることができる。
- 季節や行事にちなんだ料理があることが分かる。

#### 【感謝の心】

- 食事は多くの人の努力があって作られることを知り、感謝の気持ちをもって食べることができる。

# 単元計画



## 本校における食に関する指導の目標と人権感覚を育成する「価値的・態度的側面」「技能的側面」の関連表

	食に関する指導の目標	価値的・態度的側面	技能的側面
1	食事の重要性 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。	① 命の源である食に関心をもち、理解を深める。 (生命尊重)	④ 食べ物には命があることや規則正しい生活習慣の大切さを理解する。 (思考力、判断力)
2	心身の健康 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。	① 食事が体に及ぼす影響や食品をバランスよく組み合わせて食べる大切さを考え、食事する。 (生命尊重、自己理解) ③ 心身の成長や健康のために自分に必要なことを考え、実践しようとする。 (自立、自己決定)	④ 心身の成長や健康の保持増進のために望ましい栄養や食事のとり方を理解する。 (思考力、判断力、収集力) ④ 心身の成長に関心をもち、自分の生活を振り返り、よりよい食習慣・生活習慣の大切さを理解する。 (思考力、判断力、収集力)
3	食品を選択する能力 正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性について自ら判断して選択できる能力を身につける。	③ 食品の品質や衛生、安全性を考えて、自分の体のために良い食品を選択する。 (自立、自己決定)	④ 正しい知識をもち、食品の品質や安全性を判断する。 (判断力、収集力、分析力、調査力)
4	感謝の心 食事を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。	① 自然の恵みを感じ、食事を作ってくれた人や生産者に感謝して食べる。 (生命尊重、他者理解)	① 食事をいただくまでの過程を知り、食事を作ってくれた人や生産者に感謝する。(感受性、共感性)
5	社会性 食生活のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身につける。	② 食事中の会話を通して、他者に興味・関心をもち、人間関係を築こうとする。 (他者への関心) ④ 食事の準備や片付けなどの役割を自覚し、すすんで役割を果たそうとする。 (参加、行動)	② 楽しい会話をしながら食事をする。 (受容、傾聴、人間関係づくり) ③ 協力して食事の準備や片付けをすることの大切さを知る。 (協力)
6	食文化 各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。	② 地域の産物や食文化を学ぶことを通して、互いの違いを認め、尊重する態度を養う。 (異文化理解、多様性の尊重)	① 日本各地の特産物や外国の食文化を肯定的に受け入れ、尊重する。 (多様性の尊重)
価値的・態度的側面 技能的側面の系列		①人間の尊重・価値の尊重、自己尊重の感情 ②多様性の尊重・共生 ③権利と責任、公平・公正 ④参加・参画	①想像力・共感性 ②コミュニケーション能力 ③人間関係調整力・問題解決力 ④公平・公正な思考力・判断力

協力的・参加的な学習

小学校

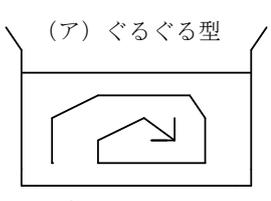
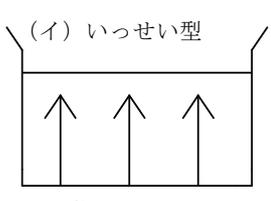
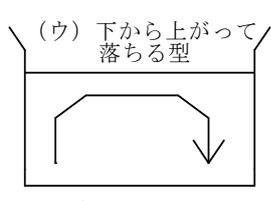
水のあたたまり方を既習事項や実験結果と関係付けながら調べる問題解決過程を通して、科学的な見方・考え方を養うとともに、合理的・分析的に思考する技能を育成する学習。

公正・公平な思考力・判断力

○ 思考力、分析力、論理的

本時のねらい

- 実験や班での交流活動を通して、水のあたたまり方を既習事項や実験結果と関係付けて考察できるようにする。
- 水のあたたまり方を既習事項や実験結果と関係付けながら調べることを通して、合理的・分析的に思考する技能を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時の学習内容を想起し、本時学習のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の実験で、試験管の上の方の水が温かかったことを想起させる。</li> <li>○ 「なぜ、炎に接していない試験管の上の方の水が温かかったか」と問いかけ、児童に、水の動きがあったのではないかという予想をさせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     あたたまった水の動きを調べ、水はどのようにあたたまっていくのか、確かめよう。                 </div>		
展開	2 実験方法を知り、温まった水がどのように移動するのかを調べる。 (1) 実験方法を知る。 (2) 予想をする。 (3) 班で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水の動きを見るための実験方法を提示し、実験の見通しを立てさせる。</li> <li>○ 前時学習を根拠にして、水の動き（こう茶の葉の動き）を予想し、図や文章で表させる。</li> <li>○ 自分の考えを班で発表し、友達の見解との相違を考えながら、班で意見をまとめさせる。</li> <li>○ 必ずしも、ひとつの意見にまとめる必要はなく、複数の意見も認める。</li> </ul>
<div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <p>児童の考えの予想</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> <p>(ア) ぐるぐる型</p>  <p>↑炎</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(イ) いっせい型</p>  <p>↑炎</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(ウ) 下から上がって落ちる型</p>  <p>↑炎</p> </div> </div> </div>		
	3 実験を行い、結果を考察する。 (1) 実験を行う。 (2) 結果を考察し、図や文章でノートにまとめる。 (3) 班で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アルコールランプの火気には、充分気をつけさせる。</li> <li>○ こう茶の葉の動きを記録させる。</li> <li>○ 前時学習の掲示を確認させたり、「下に降りてくる水は温められたものか」と助言したりすることで、実験結果を「水は上から温まる」と関係付けて考えさせる。</li> <li>○ 自分の考えを発表し、意見交流をさせ、班としての考察を小黒板にまとめる。</li> </ul>
整理	4 全体で発表し、本時学習をまとめる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     水は、あたためられた部分から上へ動き、上にある温度の低い水は下へ動く。これをくり返して、水全体があたたまる。                 </div>		
	5 次時の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次時は、空気の温まり方について学習することを知らせる。</li> </ul>

協力的・参加的な学習

小学校

水のあたたまり方を既習事項や実験結果と関係付けながら調べる問題解決過程を通して、科学的な見方・考え方を養うとともに、合理的・分析的に思考する技能を育成する学習。

公正・公平な思考力・判断力

○ 思考力、分析力、論理的

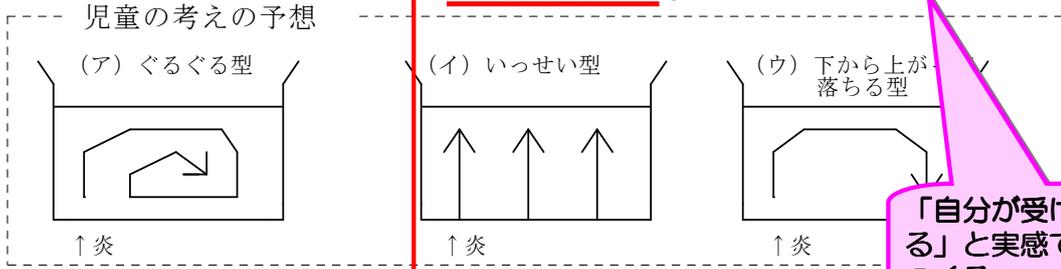
本時のねらい

- 実験や班での交流活動を通して、水のあたたまり方を既習事項や実験結果と関係付けて考察できるようにする。
- 水のあたたまり方を既習事項や実験結果と関係付けながら調べることを通して、合理的・分析的に思考する技能を育成する。

学習課題や計画を選択する機会を提供する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時の学習内容を想起し、本時学習のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の実験で、試験管の上の方の水が温かかったことを想起させる。</li> <li>○ 「なぜ、炎に接していない試験管の上の方の水が温かかったか」と問いかけ、児童に、<u>水の動きがあったのではないかという予想をさせる。</u></li> </ul>
<p>あたたまった水の動きを調べ、水はどのようにあたたまっていくのか、確かめよう。</p>		
展開	<p>2 実験方法を知り、温まった水がどのように移動するのかを調べる。</p> <p>(1) 実験方法を知る。</p> <p>(2) 予想をする。</p> <p>(3) 班で交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>児童の考えの予想</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(ア) ぐるぐる型</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(イ) いっせい型</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(ウ) 下から上が落ちる型</p> </div> </div> </div> <p>3 実験を行い、結果を考察する。</p> <p>(1) 実験を行う。</p> <p>(2) 結果を考察し、図や文章でノートにまとめる。</p> <p>(3) 班で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水の動きを見るための実験方法を提示し、実験の見通しを立てさせる。</li> <li>○ 前時学習を根拠にして、水の動き（こう茶の葉の動き）を予想し、図や文章で表させる。</li> <li>○ 自分の考えを班で発表し、友達の意見との相違を考えたながら、班で意見をまとめさせる。</li> <li>○ <u>必ずしも、ひとつの意見にまとめる必要はなく、複数の意見も認める。</u></li> </ul>
整理	全体で発表し、本時学習をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アルコールランプの火気には、<u>先ず、火気から離れた位置で観察させる。</u></li> <li>○ こう茶の葉の動きを記録させる。</li> <li>○ 前時学習の掲示を確認させたり、「下に降りてくる水は温められたものか」と助言したりすることで、実験結果を「水は上から温まる」と関係付けて考えさせる。</li> <li>○ <u>自分の考えを発表し、意見交流をさせ、班としての考察を小黒板にまとめる。</u></li> </ul>
	水は、あたためられた部分から上へ動き、上にある水は、冷たくなって下へ返して、水全体があたたまる。	<p>○ 次時は、空気の温まり方について学習することを知らせる。</p>

あたたまった水の動きを調べ、水はどのようにあたたまっていくのか、確かめよう。



「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

この学習活動を通して、「合理的・分析的に思考する技能」を育成します。

協力的・参加的な学習

小学校

四角形の四つの角の大きさの和が $360^\circ$ になることを演繹的に考え、説明する活動を「協力」「参加」「体験」の手法を位置づけ追究することで、合理的・分析的に思考する技能を育成する学習。

公正・公平な思考力・判断力

○ 分析力、論理的、思考力

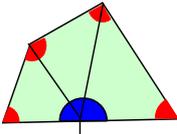
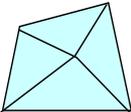
単元の計画（10時間）

段階	学 習 活 動	配時
感 じ 合 う	1 本単元の課題設定をするとともに、合同な図形について調べる。	<b>3</b>
	(1) 三角形や四角形の敷き詰めから、本単元の課題を設定する。	①
	(2) 合同な図形を対応する頂点，辺，角に着目して調べ、方眼紙にかく。	①
考 え 合 う	(3) 四角形を1つの対角線で分けてできる2つの三角形が合同かを調べる。	①
	2 合同な三角形や四角形を作図する方法を調べ、作図する。	<b>3</b>
	(1) 一般的な三角形と合同な三角形をかく方法を話し合う。	①
分 か ち 合 う	(2) 合同な三角形をかくために必要な辺と角の大きさに着目して作図する。	①
	(3) 合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形を作図する。	①
	3 三角形や四角形の性質を調べ、本単元の課題を解決する。	<b>4</b>
	(1) 三角形の三つの角の大きさの和が $180^\circ$ になるかを調べる。	①
合 う	(2) 四角形の四つの角の大きさの和が $360^\circ$ になるかを調べる。	①
	(3) 四角形の四つの角の大きさの和が $360^\circ$ になることを演繹的に考え説明する。	①本時
	(4) 自分が作った三角形や四角形を敷き詰めて模様をつくり発表し合う。	①

本時のねらい

- 自分の追究過程を図や式、言葉で表現したり、グループや全体で説明・評価しあう活動を通して、三角形のきまりを基に四角形の角の和が $360^\circ$ になることを、図と式の意味と関係付けて説明することができるようにする。
- 四角形の四つの角の大きさの和が $360^\circ$ になることを演繹的に考え、説明する活動を通して、解決の見通しをもち、筋道を立てて考えることで、合理的・分析的に思考する技能を育成する。

問題提示【参加】	具体的な操作活動【体験】	学び合い活動【協力】
○ 三角形のきまりを使って説明できることに興味を持つことができる問題の提示	○ 余分な角に着目し、考えを図や式、言葉で表現する活動の設定。	○ グループで説明・評価し合い、全体で考えをつなぎ合っ て高める学び合い活動の設定

	学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 援 助
導入	<p>1 前時の学習を振り返り、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>(1) 三角形のきまりを基に四角形の4つの角の和が <math>360^\circ</math> になるわけを話し合う。</p> <p>(2) 問題を読み、本時の学習のめあてについて話し合う。</p> <div data-bbox="236 539 786 674" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>太郎君は四角形を3つの三角形に分けても、三角形のきまりを使えば、四角形の四つの角の和が <math>360^\circ</math> になることを説明できました。いったいどのように説明したのでしょうか。</p> </div> <div data-bbox="240 685 1388 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 三角形のきまり（3つの角の和が <math>180^\circ</math>）を使って、四角形の4つの角の和が <math>360^\circ</math> になることを説明しよう。</p> </div>	<div data-bbox="858 237 1353 293" style="border: 2px solid red; padding: 2px;"> <p>三角形のきまり=3つの角の大きさの和は <math>180^\circ</math></p> </div> <p>○ 特に、四角形の4つの角の和は、三角形のきまり（3つの角の和は <math>180^\circ</math>）を使って説明できたことを強調する。</p> <p>○ 既習の理解をもとに、筋道立てて考えることに興味をもつことができるように、四角形を三角形3つに分割しても四角形の4つの角の和が <math>360^\circ</math> になる問題を提示し、本時のめあてについて話し合わせる。</p>
展開	<p>2 自力解決し、追究過程を話し合う。</p> <p>(1) 自力解決する。</p> <div data-bbox="228 927 786 1061" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p><math>180^\circ \times 3 - 180^\circ = 360^\circ</math></p> <p>三角形が三つあるので、<math>180^\circ \times 3</math>で <math>540^\circ</math> になります。そして、余分な <math>180^\circ</math> を引いて、<math>540^\circ - 180^\circ</math> で <math>360^\circ</math> になります。</p> </div> <p>→ 余分な角 (<math>180^\circ</math>) を引く</p> <p>(2) 個の追究過程について、グループや全体で話し合う。</p> <p>① グループで、追究過程を説明し合い、説明の良いところ、不十分なところを明らかにし付加・修正する。</p> <p>② 全体で代表児の発表を基に、よりよい説明の仕方について話し合う。</p>	<p>○ 自力解決が停滞している児童には、四角形の4つの角の大きさの和が <math>360^\circ</math> を導くために必要な4つの角に赤色を、余分な角に青色を塗らせ、視覚的に余分な角が存在することに気付かせる。</p> <div data-bbox="823 1133 1382 1503" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学び合い活動】</p> <p>※まず、4人グループを形成し、一人のノートを見ながら説明を聞かせる。</p> <p>※次に、相互評価させ「わかりやすいところ」「わかりにくいところ」を明確にさせる。</p> <p>※そして、説明に付加・修正させる。</p> <p>※最後に、全体で代表児の発表を基に、図と式を関連付けて説明させる。</p> </div>
整理	<p>3 適用問題を解き、本時学習のまとめについて話し合う。</p> <p>(1) 四角形を四つの三角形に分けた問題を解き <math>360^\circ</math> を導く方法を話し合う。</p> <p>(2) 本時のまとめについて話し合い、振り返りをする。</p> <div data-bbox="240 1895 1382 2007" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 四角形の四つの角の和が <math>360^\circ</math> になることは、三角形のきまりを使えば説明できる。</p> </div>	<div data-bbox="823 1559 1390 1682" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>四角形を4つの三角形に分けても四角形の四つの角の和が <math>360^\circ</math> になることを説明できますか。</p> </div> <p>○ 余分な角が、どこにあるのを確認した上で立式させ、式の意味を話し合わせる。</p> <p>○ 「三角形のきまり」という言葉を使ってまとめを書かせる。</p>

協力的・参加的な学習

小学校

四角形の四つの角の大きさの和が $360^\circ$ になることを演繹的に考え、説明する活動を「協力」「参加」「体験」の手法を位置づけ追究することで、合理的・分析的に思考する技能を育成する学習。

公正・公平な思考力・判断力

○ 分析力、論理的、思考力

単元の計画（10時間）

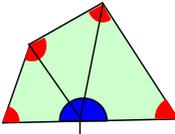
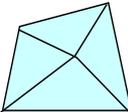
段階	学 習 活 動	配時
感 じ 合 う	1 本単元の課題設定をするとともに、合同な図形について調べる。	<b>3</b>
	(1) 三角形や四角形の敷き詰めから、本単元の課題を設定する。	①
	(2) 合同な図形を対応する頂点，辺，角に着目して調べ、方眼紙にかく。	①
考 え 合 う	(3) 四角形を1つの対角線で分けてできる2つの三角形が合同かを調べる。	①
	2 合同な三角形や四角形を作図する方法を調べ、作図する。	<b>3</b>
	(1) 一般的な三角形と合同な三角形をかく方法を話し合う。	①
分 か ち 合 う	(2) 合同な三角形をかくために必要な辺と角の大きさに着目して作図する。	①
	(3) 合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形を作図する。	①
	3 三角形や四角形の性質を調べ、本単元の課題を解決する。	<b>4</b>
	(1) 三角形の三つの角の大きさの和が $180^\circ$ になるかを調べる。	①
合 う	(2) 四角形の四つの角の大きさの和が $360^\circ$ になるかを調べる。	①
	(3) 四角形の四つの角の大きさの和が $360^\circ$ になることを演繹的に考え説明する。	①本時
	(4) 自分が作った三角形や四角形を敷き詰めて模様をつくり発表し合う。	①

本時のねらい

- 自分の追究過程を図や式、言葉で表現したり、グループや全体で説明・評価しあう活動を通して、三角形のきまりを基に四角形の角の和が $360^\circ$ になることを、図と式の意味と関係付けて説明することができるようにする。
- 四角形の四つの角の大きさの和が $360^\circ$ になることを演繹的に考え、説明する活動を通して、解決の見通しをもち、筋道を立てて考えることで、合理的・分析的に思考する技能を育成する。

問題提示【参加】	具体的な操作活動【体験】	学び合い活動【協力】
○ 三角形のきまりを使って説明できることに興味を持つことができる問題の提示	○ 余分な角に着目し、考えを図や式、言葉で表現する活動の設定。	○ グループで説明・評価し合い、全体で考えをつなぎ合っ て高める学び合い活動の設定

この学習活動を通して、「合理的・分析的に思考する技能」を育成します。

	学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 援 助
導入	<p>1 前時の学習を振り返り、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>(1) 三角形のきまりを基に四角形の4つの角の和が <math>360^\circ</math> になるわけを話し合う。</p> <p>(2) 問題を読み、本時の学習のめあてについて話し合う。</p> <div data-bbox="236 539 786 674" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>太郎君は四角形を3つの三角形に分けても、三角形のきまりを使えば、四角形の四つの角の和が <math>360^\circ</math> になることを説明できました。いったいどのように説明したのでしょうか。</p> </div> <div data-bbox="244 685 1390 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 三角形のきまり（3つの角の和が <math>180^\circ</math>）を使って、四角形の4つの角の和が <math>360^\circ</math> になることを説明しよう。</p> </div>	<div data-bbox="858 241 1353 286" style="border: 2px solid red; padding: 2px;"> <p>三角形のきまり=3つの角の大きさの和は <math>180^\circ</math></p> </div> <p>○ 特に、四角形のきまり（3つの角の大きさの和が <math>360^\circ</math>）を使って説明できたことを強調する。</p> <p>○ <u>既習の理解をもとに、筋道立てて考えることに興味をもつことができるように、四角形を三角形3つに分割しても四角形の四つの角の和が <math>360^\circ</math> になる問題を提示し、本時のめあてについて話し合わせる。</u></p> <div data-bbox="1086 297 1481 383" style="border: 2px solid purple; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>「授業に参加している」という実感を持たせる。</p> </div> <div data-bbox="730 734 1114 819" style="border: 2px solid purple; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>教師自身が一人一人を大切に する姿勢を示す。</p> </div>
展開	<p>2 自力解決し、追究過程を話し合う。</p> <p>(1) 自力解決する。</p> <div data-bbox="228 927 786 1061" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: center;"><math>180^\circ \times 3 - 180^\circ = 360^\circ</math></p> <p>三角形が三つあるので、<math>180^\circ \times 3</math>で <math>540^\circ</math> になります。そして、余分な <math>180^\circ</math> を引いて、<math>540^\circ - 180^\circ</math> で <math>360^\circ</math> になります。</p> </div> <p>→ 余分な角 (<math>180^\circ</math>) を引く</p> <p>(2) 個の追究過程について、グループや全体で話し合う。</p> <p>① グループで、追究過程を説明し合い、説明の良いところ、不十分なところを明らかにし付加・修正する。</p> <p>② 全体で代表児の発表を基に、よりよい説明の仕方について話し合う。</p>	<p>○ <u>自力解決が停滞している児童には、四角形の4つの角の大きさの和が <math>360^\circ</math> を導くために必要な4つの角に赤色を、余分な角に青色を塗らせ、視覚的に余分な角が存在することに気付かせる。</u></p> <div data-bbox="823 1133 1382 1503" style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>【学び合い活動】</p> <p>※まず、4人グループを形成し、一人のノートを見ながら説明を聞かせる。</p> <p>※次に、相互評価させ「わかりやすいところ」「わかりにくいところ」を明確にさせる。</p> <p>※そして、説明に付加・修正させる。</p> <p>※最後に、全体で代表児の発表を基に、図と式を関連付けて説明させる。</p> </div> <div data-bbox="1150 1473 1544 1559" style="border: 2px solid purple; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。</p> </div>
整理	<p>3 適用問題を解き、本時学習のまとめについて話し合う。</p> <p>(1) 四角形を四つの三角形に分けた問題を解き <math>360^\circ</math> を導く方法を話し合う。</p> <p>(2) 本時のまとめについて話し合い、振り返りをする。</p> <div data-bbox="244 1895 1382 2007" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 四角形の四つの角の和が <math>360^\circ</math> になることは、三角形のきまりを使えば説明できる。</p> </div>	<div data-bbox="823 1559 1390 1682" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>四角形を4つの三角形に分けても四角形の四つの角の和が <math>360^\circ</math> になることを説明できますか。</p> </div> <p>○ 余分な角が、どこにあるのを確認した上で立式させ、式の意味を話し合わせる。</p> <p>○ 「三角形のきまり」という言葉を使ってまとめを書かせる。</p>



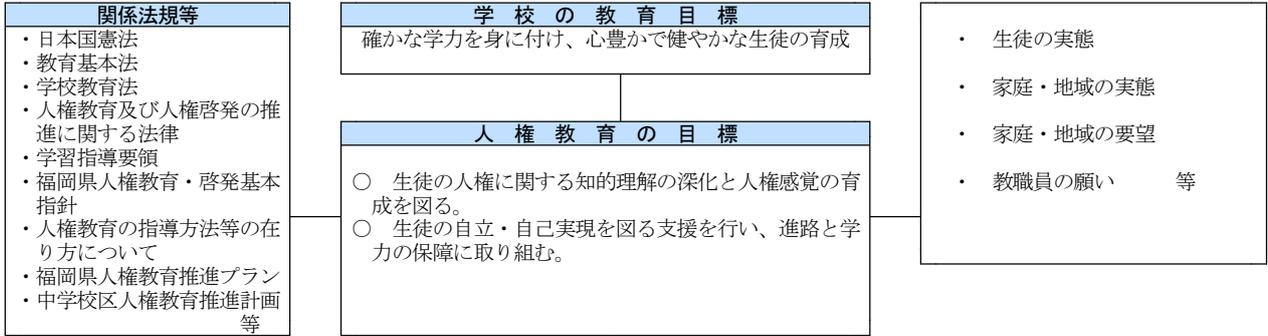
## 2 人権教育の全体計画例と学習活動例

### 中学校

掲載している学習活動例			
この時間に育てたい資質・能力	学年	教科等	単元名
人間の尊厳・価値の尊重、 自己尊重の感情	3年	保健体育科	器械運動
多様性の尊重・共生	1年	美術科	誰にでも分かる絵記号(ピクトグラム)をつくろう
権利と責任、 公平・公正	3年	道徳	法やきまり
	3年	社会科	暮らしとつながる政治 -裁判員制度について-
参加・参画	1年	学級活動	1組パワーアップ大作戦
想像力・共感力	2年	音楽科	リズム創作(ボディパーカッション)
コミュニケーション能力	2年	国語科	「四季の歌」短歌を味わい、「私の短歌集」を作ろう
	3年	国語科	友だちに話をする～スピーチ～
	3年	英語科	Do It Listen 4 ことばを学ぶ意義は？
人間関係調整力・問題解決力	3年	学級活動	とっておき情報を交換しよう -班別コースを見直す-
	2年	理科	化学変化と原子・分子
公平・公正な思考力・判断力	3年	国語科	主張文を書こう
	2年	数学科	一次関数



# ■ 人権教育の全体計画例（B中学校の例）



本年度の重点（努力点）
1 個に応じた指導の充実と学習意欲の向上に取り組むことを通して基礎学力の向上を図る。 2 人権教育で育てたい資質・能力との関連を明確にして、各教科等指導に取り組む。 3 教職員の人権尊重理念の理解・体得を図る研修を行う。 4 人権教育教材『かがやき』『あおぞら』の活用を図る。

	第1学年の目標と方策	第2学年の目標と方策	第3学年の目標と方策
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手の立場を理解し、思いやりの心と差別に対する科学的認識を育てる。</li> <li>○ 学習習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手を尊重し、他者を大切にす態度と身近に存在する人権課題に気づき問題提起できる力を育てる。</li> <li>○ 基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他を尊重し、信頼できる友人関係を築く力と様々な人権課題を解決していこうとする実践力を育てる。</li> <li>○ 希望する進路の実現に必要な学力の定着を図る。</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常の生活場面における不合理に気づき、改善していこうとする態度を計画的に育成していくように努める。</li> <li>○ 学び方の指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域との交流活動を通して、一人一人を尊重し、個人の存在価値を認め合い協力し合う集団を育成する。</li> <li>○ 個に応じた学習支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会や身近に存在する問題を教材化し、系統的な指導プログラムを作成する。</li> <li>○ 進路に対する展望を持たせるために進路指導を充実させる。</li> </ul>

各教科・領域等における具体的方策				
	「人権に関する知的理解・人権感覚」を高める観点から	基礎・基本の学力を保障する観点から	その他の観点から	
教 科	国語	○ 自他の表現を尊重し合う態度を育てる。	○ 対話能力および自分の考えを表現する力を育てる。	○ 互いの考えを交流したり、作品を評価し合うことで、多面的なものごとのとらえ方、表現の仕方があることを認め合えるような学習活動を取り入れる。
	社会	○ 社会的事象に対して様々な角度から物事を考え、社会的認識を身につけ、物事を公正に判断する能力や態度を育む。	○ 毎時間毎に学習プリントや小テストを行うことにより基礎・基本的な学習内容の定着を図る。	○ 自他の考察を交流させることで、さらに多面的な思考や公正な判断力の育成を図る。
	数学	○ 筋道を立てて物事を考える方を育てる。	○ 学習に意欲的に参加させ喜びや充実感をもたせる。	○ 資料の収集・選択、活用、図表や報告書の作成、発表や討論などの表現活動といった、作業的・体験的学習活動を取り入れる。
	理科	○ 筋道を立てて物事を考えていく態度を育てる。	○ 学方実態を把握、分析し、小集団での学習を取り入れ基礎基本の定着を図る。	○ 事象を論理的に判断し、考えを正確に伝える力を育てる。
	音楽	○ 実験や観察を通して、筋道を立てて物事を考えていく態度を育てる。	○ 小テスト等を行い、基礎・基本的な学習内容の定着を図る。	○ 交流活動によって自分の考えをわかりやすく説明したり、他者の説明を聞いて自分の考えを修正したり強化したりすることで、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を高める。
	美術	○ 日本や外国の歌などの音楽文化に親しませることによって、多様な文化に対する認識を深める。	○ 実験や観察を通して、互いに援助しあう学習集団づくりに努める。	○ 表現活動を通して自己表現する力を育てる。
	保健体育	○ 互いの美的価値を交流し合う体験を通して、自己の表現を吟味する力や表現者の気持ちをくみ取りながら味わおうとする鑑賞の能力を高める。	○ 合唱などの表現活動を通じて認め合い、高めあい、喜びを共有できる感性を持った集団づくりに努める。	○ 表現活動を通して、自己表現をする力を育てる。
	家庭	○ 実際の生活で生きて働く力を育成する。	○ 自信を持って自己を表現し、友だちの表現を共感的に味わうことのできるようにする。	○ 作品作りを通して、技能の大切さに気づかせる。
英語	○ 積極的に身体を動かし、仲間と協力して学習に取り組む生徒を育成する。	○ 自分の生活を見直し、課題を見いだす態度を育てる。	○ よりよい学習を身に付け、基礎・基本の徹底を図る。	
道 徳	○ 文化や考え方の違いを認識して、相手を受容し、自分の意思を伝えようとする態度を育てる。	○ 自分の課題解決に取り組むとともに集団に対する自己有用感が実感できる授業を創造する。	○ スキルテストの結果から自分の課題解決の方法を工夫させる	
特別活動	○ 文化や考え方の違いを認識して、相手を受容し、自分の意思を伝えようとする態度を育てる。	○ コミュニケーション能力を高めるために聞く力、話す力の育成に努める。	○ グループ構成を工夫し、意見交流の場面を設定する。	
総合的な学習の時間	人間としてのあるべき姿、自他の人権を尊重する精神を培い、よりよい人間関係を築くために共感的かつ民主的に生きようとする姿勢を育てる。	○ コミュニケーション能力を高めるために聞く力、話す力の育成に努める。	○ 他国の文化を知る過程において、自国の文化も尊重する態度を育てる。	
その他の教育活動	自己理解（セルフイメージ）の向上を常に図り、さまざまな体験を通して主体的・自主的に自らの進路開拓ができる力や姿勢を育てる。	生徒一人一人の個性を大切に、意欲・興味関心を生かした学習活動を工夫する。	学校の全教育活動を通して、共感的に理解する力、コミュニケーション能力、人間関係調整能力を培う。	
家庭地域との連携	学校の全教育活動の中で、『かがやき』『あおぞら』の活用を推進する。	学校の教育活動を公開し、開かれた学校づくりを推進しながら、人権教育に関する啓発を推進する。	人権通信を発行し、人権教育の啓発を推進する。	

協力的・参加的な学習

中学校

グループでの教え合い活動を通して、技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技ができるようにするとともに、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度の育成を図る学習。

人間の尊厳・価値の尊重

○ 自己理解、他者理解

単元計画（10時間）

- (1) オリエンテーション、個人課題の把握、グループ分け、学習活動計画の作成（2時間）
- (2) 課題解決に向けたグループ練習、VTRの活用（本時1 / 4時間）
- (3) できるようになった技の仕上げと難度の高い技のグループ練習、VTRの活用（2時間）
- (4) 学習成果の発表（2時間）

本時のねらい

- グループでの教え合い活動を通して、課題解決に向けて意欲的に楽しく練習に取り組むことができるようにする。
- グループでの教え合い活動を通して、お互いの進歩を喜び合い、認め合うことができるようにする。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 集合、あいさつ、出席確認を体育委員の指示で行う。 2 グループごとに準備運動を行う。 3 本時のめあてを確認する。	○ 欠席者、見学者を確認をする。  ○ 筋肉や腱を伸ばさせると共に、関節の可動域を広げさせる柔軟体操をしっかりと行わせる。 ○ 全体で「模範演技のVTR」を視聴させ、グループで教え合う際のポイントを押さえる。
<p>グループで教え合いをして、自分や班員の課題を解決できるように練習しよう。</p>		
展開	4 グループごとに活動を行う。 (1) 今日のグループ活動について話し合う。 ・前時までの各自の課題・今日のビデオ撮影係 ・今日のグループ目標 (2) グループで課題解決のための練習を行う。 ・開脚跳び      ・閉脚跳び ・台上前転      ・前方倒立回転跳び (3) ビデオに撮影した映像を観察しながら話し合う。 ・各自の課題分析・課題に対応した練習方法 (4) 話し合った内容を参考に練習を行う。 5 順番に試技をして、グループでお互いの進歩を確認し合う。	○ グループノートを活用させ、各自の課題等の共通理解を図らせる。  ○ 自分ができる技から始め、スモールステップで挑戦させる。  ○ スロー再生を有効に使わせ、課題に合った教え合いになるように助言する。  ○ 補助の必要な仲間への支援は、この時間で行わせる。 ○ 少しでも技が改善された場合を見逃さず、賞賛させる。 ○ 今日のグループ活動で、各自が進歩したところを見つけさせる。
整理	6 教師のまとめを聞き、本時の振り返りを行い、グループノートに解決できた課題と今後の課題を書き込む。	○ 振り返りのポイント示し、次時への意欲を喚起する。

協力的・参加的な学習

中学校

グループでの教え合い活動を通して、技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技ができるようにするとともに、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度の育成を図る学習。

人間の尊厳・価値の尊重

○ 自己理解、他者理解

単元計画（10時間）

- (1) オリエンテーション、個人課題の把握、グループ分け、学習活動計画の作成（2時間）
- (2) 課題解決に向けたグループ練習、VTRの活用（本時1 / 4時間）
- (3) できるようになった技の仕上げと難度の高い技のグループ練習、VTRの活用（2時間）
- (4) 学習成果の発表（2時間）

本時のねらい

- グループでの教え合い活動を通して、課題解決に向けて意欲的に楽しく練習に取り組むことができるようにする。
- グループでの教え合い活動を通して、お互いの進歩を喜び合い、認め合うことができるようにする。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 集合、あいさつ、出席確認を体育委員の指示で行う。 2 グループごとに準備運動を行う。 3 本時のめあてを確認する。	○ 欠席者、見学者を確認をする。 ○ 筋肉や腱を伸長させると共に、関節の可動域を広げさせる柔軟体操をしっかりと行わせる。 ○ 全体で「模範演技のVTR」を視聴させ、グループで教え合う際のポイントを押さえる。 「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。
展開	4 グループごとに活動を行う。 (1) 今日のグループ活動について話し合う。 ・前時までの各自の課題・今日のビデオ撮影係 ・今日のグループ目標 (2) グループで課題解決のための練習を行う。 ・開脚跳び ・閉脚跳び ・台上前転 ・前方倒立回転跳び (3) ビデオに撮影した映像を観察しながら話し合う。 ・各自の課題分析・課題に対応した練習方法 (4) 話し合った内容を参考に練習を行う。 5 順番に試技をして、グループでお互いの進歩を確認し合う。	○ <u>グループノートを活用させ、各自の課題等の共通理解を図らせる。</u> ○ 自分ができそうな技から練習を始める。 ○ <u>スロー再生を有効に使わせ、課題に合った教え合いになるように助言する。</u> ○ 補助の必要な仲間への支援は、この時間で行わせる。 ○ 少しでも技が改善された場合を見逃さず、賞賛させる。 ○ <u>今日のグループ活動で、各自が進歩したところを見つけさせる。</u>
整理	6 この学習活動を通して、「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」を育成します。	「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。

グループで教え合いをして、自分や班員の課題を解決できるように練習しよう。

学習課題や計画を選択する機会を提供する。

「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。

協力的・参加的な学習

中学校

アイデアスケッチの交流を通して、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、構想する能力や表現の技能を身に付けさせるとともに、多様な人たちの存在を知り、他者の立場に立って考えようとする態度の育成を図る学習。（『あおぞら』教材の活用）

多様性の尊重・共生

○ 他者への関心

本時のねらい

- 他者の立場に立って、より明確さ（分かりやすさ）と美しさを意識したアイデアスケッチに練り直すことができるようにする。
- アイデアスケッチの交流を通して、人の立場によって分かりやすさが異なることに気づき、相手の立場に立って考えようとする態度を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 ユニバーサルデザイングッズを見て、使い方やデザインの意味・役割について話し合う。	○ 一人一個ずつ配ったり、直接触って使用したりすることができるものを準備する。
	UD（ユニバーサルデザイン）の理念を生かして、アイデアスケッチを練り直そう。	
展開	<p>3 UD7原則について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公平性 ・自由度 ・かんたん</li> <li>・明確さ ・安全性 ・継続性</li> <li>・空間性</li> </ul> <p>4 明確さと美しさの視点で、前時に描いたアイデアスケッチの発想や構想を練り直す。</p> <p>(1) 各自で発想や構想を練り直す。</p> <p>(2) 各自のデザインのコンセプトを班で説明し合い、他者の助言等を構想や表現に生かす。</p>	<p>○ 人権教育学習教材集「あおぞら」を見せ、UDのイメージをつかませ、その考え方を理解させる。</p> <p>○ 「いつでも」「どこでも」「だれにでも」をキーワードに明確さを探究させ、デザインに取り入れさせる。</p> <p>○ デザインの意図や工夫したことなどを班で発表し合い、互いの表現のよさを尊重させるようにする。</p> <p>○ お互いのアイデアスケッチに対して出し合った意見や感想を基に、多くの人が共通に感じる形と色彩の効果に気付かせる。</p>
整理	5 本時の授業を振り返り、気付いたことや自分の意図する形や色彩について考えをまとめる。	○ 気付いたことをまとめ、修正しようとする構想のポイントや留意点を確かめることができる振り返りシートを準備する。

協力的・参加的な学習

中学校

アイデアスケッチの交流を通して、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、構想する能力や表現の技能を身に付けさせるとともに、多様な人たちの存在を知り、他者の立場に立って考えようとする態度の育成を図る学習。（『あおぞら』教材の活用）

多様性の尊重・共生

○ 他者への関心

本時のねらい

- 他者の立場に立って、より明確さ（分かりやすさ）と美しさを意識したアイデアスケッチに練り直すことができるようにする。
- アイデアスケッチの交流を通して、人の立場によって分かりやすさが異なることに気づき、相手の立場に立って考えようとする態度を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 ユニバーサルデザイングッズを見て、使い方やデザインの意味・役割について話し合う。	○ 一人一個ずつ配ったり、直接触って使用したりすることができるものを準備する。
	UD（ユニバーサルデザイン）の理念を生かして、アイデアスケッチを練り直そう。	
展開	<p>3 UD 7原則について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公平性 ・自由度 ・かんたん</li> <li>・明確さ ・安全性 ・継続性</li> <li>・空間性</li> </ul> <p>4 明確さと美しさの両方を意識したアイデアスケッチの作成。</p> <p>（1）各自で発想や構想を練り直す。</p> <p>（2）各自のデザインのコンセプトを班で説明し合い、他者の助言等を構想や表現に生かす。</p>	<p>○ 人権教育学習教材集「あおぞら」を見せ、UDのイメージを伝える。</p> <p>○ 「いつでも」「どこでも」「だれにでも」をキーワードに明確さを探究させ、デザインに取り入れさせる。</p> <p>○ デザインの意図や工夫したことなどを班で発表し合い、互いの表現のよさを尊重させるようにする。</p> <p>○ お互いのアイデアスケッチに対して出し合った意見や感想を基に、多くの人が共通に感じる形と色彩の効果に気付かせる。</p>
整理	5 本時の授業で考えた自分の意図する形や色彩について考えをまとめる。	○ 各々のまとめ、修正しようとする構想を確かめることができるよう振り返りシートを準備する。

「自分が必要とされている」と実感を持たせる。

この学習活動を通して、「相手の立場に立って考えようとする態度」を育成します。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

学習課題や計画を選択する機会を提供する。

# 第3学年道徳 主題名「法やきまり」

協力的・参加的な学習

中学校

資料の批判的活用としての対話活動を通して、法やきまりの遵守の価値を追究し、道徳的実践意欲・態度を養うとともに、正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度を育成する学習。

権利と責任

○ 法の尊重、善悪の判断

## 本時のねらい

- 法やきまりは、自分たちを守り、社会を発展させてくれるものであるという意義を理解し、法やきまりを守ろうとする実践意欲・態度を育てる。
- 正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 きまりについての事前アンケートの結果を提示し、本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">きまりについて考えよう。</div>	○ 事前アンケートの結果を提示することで、きまりについて考える動機づけを行う。
展開	2 資料「二通の手紙」の前半部分を読んで、話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">主人公は姉弟を入園させるべきかどうか考えよう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>【対話活動1】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 個人で考え、道徳ノートに記入する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉弟の気持ちをくみ取って入園させる</li> <li>・動物園の規則を守って姉弟を入園させない</li> </ul> </li> <li>② 黒板に名前カードを貼り、どちらの立場の考えかをはっきりさせる。</li> <li>③ 班で一人ずつ発表し、交流させ、その後全体交流する。</li> <li>④ 友だちの考えを聞いた後で、もう一度入園させるかどうか考える。</li> <li>⑤ 考えが変わった場合は、その理由を道徳ノートに記入し、黒板の名前カードを移動させる。</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;">                             《入園させるべき》                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉弟がかわいそうだから</li> <li>・姉弟にとって、今日は特別な日だから</li> <li>・入園終了時刻をちょっと過ぎただけだから</li> <li>・姉の弟を思う気持ちを大切にしたいから</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;">                             《入園させるべきではない》                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則を破るわけにはいかない</li> <li>・何かあったら大変だ</li> <li>・公平ではなくなる</li> <li>・大人がついていないと危ない</li> <li>・いろいろな人に迷惑がかかる</li> </ul> </div> </div> </div>	○ 自分が主人公だったらどうしていたか考えながら聞かせる。 ○ 入園時間を過ぎていたこと、保護者が同伴ではなかったことの二つの違反があったことをおさえる。 ○ 名前カードを黒板に貼付する位置で、自分の立場を表現させる ○ 全体交流では「入園させる」「入園させない」の異なる考えを発表させ、なぜそう考えるのか理由を明確にさせる。 ○ 相手の意見は否定せず、肯定的に受容するようにさせる。 ○ 迷っている時は、名前カードを中央よりに貼ってもいいことや、気持ちを道徳ノートに書いたり、友だちと話したりしていいことを知らせる。 ○ 考えが変わった場合は、友だちの考えのどのような部分に影響を受けたのかを考えさせる。 ○ 小さな規則違反が大きな事件につながったり、たくさんの人に迷惑がかかったりすることに気付かせる。 ○ 机間指導し、話合いが円滑にできていない班には、まず「はればれとした顔というのは、どのような心境のときに出来るものか」を考えさせ、次に、「解雇されるのに、そのような心境になれた原因は何か」を考えさせる。 ○ 満足感ばかり出てきた場合は、「姉弟が事故を起こしていたらどうなっていたか」を考えさせ、きまりが幼い子どもの安全のために決められていたことに気付かせる。 ○ 自分の経験を交流させ、教師の説話を聞かせることで、きまりの意義を確認させる。
	3 後半部分を読んで話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">解雇されるのに、主人公はなぜ、はればれとした顔で職場をさることができたのだろう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>【対話活動2】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 個人で考え、道徳ノートに記入する。</li> <li>② 班で、自分の考えを説明する。</li> <li>③ 班のメンバーの考えを聞き、その中でもっとも納得できるものを選び、ホワイトボードに書く。</li> <li>④ ホワイトボードを黒板に貼り、他の班の考えを聞く。</li> </ol> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                             ・姉弟や母親が喜んでくれたが、やっぱり自分が取った行動は間違っていたと分かった。                              ・自分の誤った判断が多くの人に迷惑をかけてしまい申し訳ない。                              ・規則を守ることの大切さに、あらためて気付くことができた。                              ・きまりを遵守することが、幼い姉弟を思いやることだったことに気づいた。                         </div> </div> 4 自分の生活場面を振り返り、主人公と同じような経験を話し合う。	○ 机間指導し、話合いが円滑にできていない班には、まず「はればれとした顔というのは、どのような心境のときに出来るものか」を考えさせ、次に、「解雇されるのに、そのような心境になれた原因は何か」を考えさせる。 ○ 満足感ばかり出てきた場合は、「姉弟が事故を起こしていたらどうなっていたか」を考えさせ、きまりが幼い子どもの安全のために決められていたことに気付かせる。 ○ 自分の経験を交流させ、教師の説話を聞かせることで、きまりの意義を確認させる。
整理	5 今日の学習を振り返る。	○ きまりについて考えたことや今後どうしていきたいかを道徳ノートに書かせる。

協力的・参加的な学習

中学校

権利と責任

○ 法の尊重、善悪の判断

資料の批判的活用としての対話活動を通して、法やきまりの遵守の価値を追究し、道徳的実践意欲・態度を養うとともに、正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度を育成する学習。

本時のねらい

この学習活動を通して、「正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度」を育成します。

資料「二通の手紙」を読み、社会を発展させてくれるものであるという意義を理解し、法やきまりを守る。この理想に向かって活動しようとする意欲や態度を育てる。

	対話活動	教師の支援・援助
	事前アンケートの結果を提示し、本時のねらいにつなぐ。	○ 事前アンケートの結果を提示することで、きまりについて考える動機づけを行う。
展開	2 資料「二通の手紙」の前半部分を読んで、話し合う。主人公は姉弟を入園させるべきかどうか考えよう。	○ きまりについて考えよう。
	<p>【対話活動1】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 個人で考え、道徳ノートに記入する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉弟の気持ちをくみ取って入園させる</li> <li>・動物園の規則を守って姉弟を入園させない</li> </ul> </li> <li>② 黒板に名前カードを貼り、どちらの立場の考えかをはっきりさせる。</li> <li>③ 班で一人ずつ発表し、交流させ、その後全体交流する。</li> <li>④ 友だちの考えを聞いた後で、もう一度入園させるかどうか考える。</li> <li>⑤ 考えが変わった場合は、黒板の名前カードを移動させる。</li> </ol> <p>《入園させるべき》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉弟がかわいそうだから</li> <li>・姉弟にとって、今日は特別な日だから</li> <li>・入園終了時刻をちょっと過ぎただけだから</li> <li>・姉の弟を思う気持ちを大切にしたいから</li> </ul> <p>《入園させるべきではない》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則を破るわけにはいかない</li> <li>・何かあったら大変だ</li> <li>・公平ではなくなる</li> <li>・大人がついていないと危ない</li> <li>・いろいろな人に迷惑がかかる</li> </ul>	<p>「授業に参加している」という実感を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分がしながら聞かせたいこと、保護者が同伴ではなかったこと、この二つの違反があったことをおさえる</li> <li>○ <u>名前カードを黒板に貼付する位置で、自分の立場を表現させる</u></li> <li>○ 全体交流では「入園させる」「入園させない」の異なる考えを発表させ、なぜそう考えるのか理由を明確にさせる。</li> <li>○ 相手の意見は否定せず、肯定的に受容するようにさせる。</li> <li>○ <u>迷っている時は、名前カードを中央よりに貼ってもいいことや、気持ちを道徳ノートに書いたり、友だちと話したりしていいことを知らせる。</u></li> <li>○ <u>考えが変わった場合は、友だちの考えのどのような部分に影響を受けたのかを考えさせる。</u></li> </ul>
	3 後半部分を読んで話し合う。解雇されるのに、主人公はなぜ、はればれとした顔で職場をさることができたのだろう。	○ 事件が起きたことにつなぐ。
	<p>【対話活動2】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 個人で考え、道徳ノートに記入する。</li> <li>② 班で、自分の考えを説明する。</li> <li>③ 班のメンバーの考えを聞き、その中でもっとも納得できるものを選び、ホワイトボードに書く。</li> <li>④ ホワイトボードを黒板に貼り、他の班の考えを聞く。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉弟や母親が喜んでくれたが、やっぱり自分が取った行動は間違っていたと分かった。</li> <li>・自分の誤った判断が多くの人に迷惑をかけてしまい申し訳ない。</li> <li>・規則を守ることの大切さに、あらためて気付くことができた。</li> <li>・きまりを遵守することが、幼い姉弟を思いやることだったことに気づいた。</li> </ul>	<p>「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 机間指導し、話し合いが円滑にできていない班には、まず「はればれとした顔というのは、どのような心境のときに出来るものか」を考えさせ、次に、「解雇されるのに、そのような心境になれた原因は何か」を考えさせる。</li> <li>○ 満足感ばかり出てきた場合は、「姉弟が事故を起こしていたらどうなっていたか」を考えさせ、きまりが幼い子どもの安全のために決められていたことに気付かせる。</li> <li>○ 自分の経験を交流させ、教師の説話を聞かせることで、きまりの意義を確認させる。</li> </ul>
整理	5 今日の学習を振り返る。	○ きまりについて考えたことや今後どうしていきたいかを道徳ノートに書かせる。

学習方法を選択する機会を提供する。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

「体験」を取り入れた学習

中学校

模擬裁判を体験することを通して、司法や裁判員制度に対する関心を高め、国民の司法参加の意義について考えさせるとともに、正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度を養う学習。

公平・公正

○ 正義感、自由、平等

本時のねらい

- 裁判員の立場になって、資料（模擬裁判シナリオ）から、根拠を明確にして公正な判断をすることで、国民の司法参加の意義について考えさせる。
- 模擬裁判の裁判員を体験することを通して、正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度を養う。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時までの学習を振り返る。 ・模擬裁判における1回目の判断 2 本時のめあてを確認する。	○ 前時に学習した模擬裁判のシナリオや事件の概要を振り返る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         模擬裁判を体験することで、国民の司法参加の意義について考えよう。                     </div>		
展開	3 各法廷（班）で評議を行う。 (1) 自分の考え（第1回目の評決）を紙コップの色で表す。 赤 - 有罪 青 - 無罪（有罪とは言い切れないを含む） (2) 互いの考えを出し合う。 (3) 評議や意見交流を踏まえて、個人の判決を考え、ワークシートに理由と判決を書き込む。 4 各法廷で最終評議及び評決を行う。 ・証拠や事実による決定 ・評決の結果（多数決）に従った判決 5 模擬裁判を体験して考えたことや感じたことをワークシートにまとめ、班ごとに発表する。 ・国民の意見が直接的に反映される。 ・司法（裁判）がより親しみやすいものになる。 ・より公正な判断につながる。	○ 事前にワークシートで生徒の意見（1回目の判断）を集約し、各班に異なる意見の生徒が入るよう班を組み替えておく。 ○ 班長が中心となって、話し合いを進めさせる。 ○ お互いの理由（根拠）を説明した後に質疑の時間をとらせる。 ○ 早く終わった班には、合意点と対立点を整理させる。 ○ 1回目の判断と異なってもよいことを伝える。 ○ 自分の考えを紙コップの色で表明した後、判断が変わった理由や付け加えたいことを中心に話させる。 ○ 各班の評決とその結論に至った経過を中心に発表させる。 ○ 班内の意見・感想を班長にまとめさせ、発表させる。
整理	6 教師のまとめを聞き、振り返りシートに記入する。	○ さらに気付いたことや自分の考えが深まったことを振り返りシートに記入させる。

「体験」を取り入れた学習

中学校

模擬裁判を体験することを通して、司法や裁判員制度に対する関心を高め、国民の司法参加の意義について考えさせるとともに、正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度を養う学習。

公平・公正

○ 正義感、自由、平等

本時のねらい

- 裁判員の立場になって、資料（模擬裁判シナリオ）から、根拠を明確にして公正な判断をすることで、国民の司法参加の意義について考えさせる。
- 模擬裁判の裁判員を体験することを通して、正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度を養う。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時までの学習を振り返る。 ・模擬裁判における1回目の判断 2 本時のめあてを確認する。 模擬裁判を体験することで、国民の司法参加の意義について考えよう。	○ 前時に学習した模擬裁判のシナリオや事件の
展開	3 各法廷（班）で評議を行う。 (1) 自分の考え（第1回目の評決）を紙コップの色で表す。 赤 - 有罪 青 - 無罪（有罪とは言い切れないを含む） (2) 互いの考えを出し合う。 (3) 評議や意見交流を踏まえて、個人の判決を考え、ワークシートに理由と判決を書き込む。 4 各法廷で最終評議及び評決を行う。 ・証拠や事実による決定 ・評決の結果（多数決）に従った判決 5 模擬裁判を体験して考えたことや感じたことをワークシートにまとめ、班ごとに発表する。 ・国民の意見が直接的に反映される。 ・司法（裁判）がより親しみやすいものになる。 ・より公正な判断につながる。	○ 事前にワークシートで生徒の意見（1回目の判断）を集約し、 <u>各班に異なる意見の生徒が入るよう班を組み替えておく。</u> ○ <u>班長が中心となって、話し合いを進めさせる。</u> ○ お互いの理由（色）を説明した後に質疑の時間をとらなす。 ○ 合意点と対立点を整理する。 ○ 1回目の判断と異なってもよいことを伝える。 ○ <u>自分の考えを紙コップの色で表明した後、判断が変わった理由や付け加えたいことを中心に話させる。</u> ○ 各班の評決し、議論に至った経過を中心に 「授業に参加している」とう実感を持たせる。 この学習活動を通して、「正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度」を育成します。
整理	6 教師のまとめを聞き、振り返りシートに記入する。	○ さらに気付いたことや自分の考えが深まったことを振り返りシートに記入させる。

学習方法を選択する機会を提供する。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

「授業に参加している」とう実感を持たせる。

この学習活動を通して、「正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度」を育成します。

# 第1学年学級活動 題材名「1組パワーアップ大作戦」

協力的・参加的な学習

中学校

学級の課題把握と課題解決を図る話し合い活動を通して、集団の一員としてよりよい学級の実現を目指し、他者と協同して積極的に学級活動に参加・参画してこうとする意欲や態度の育成を図る取組。

参加・参画

○ 参加、参画、行動

## 活動計画（2時間＋課外）

活動	内容	時間
○課題と目標の共有化を図るための評議員・班長会議をする。	・学級の現状を振り返り、問題点について話し合う。そして、学級目標を細分化したキーワードを設定しアンケートを作成する。	放課後
○学級の現状を振り返る学級生活アンケートを行う。	・評議員・班長会議で作成したアンケートに答え、学級での自分や学級の現状を振り返る。	朝の会
○課題を把握し、原案を作成するための評議員・班長会をする。	・アンケートを集約し、結果をレーダーチャートに表し、分析を基に原案を作成する。	放課後
○アンケートに基づく学級の現状報告と次回の学級活動の内容を知る。	・評議員がアンケート結果に基づく学級の課題を提起し、次回の学級会でよりよい学級にするための活動内容を決めることを予告する。	帰りの会
○原案「1組パワーアップ大作戦」について話し合い、活動内容を決定する。（本時）	・学級をよりよくするための活動内容とその根拠について話し合い、活動内容を決定する。	学級活動
○決定した活動を実践する。	・前時に話し合った活動内容を、それぞれの担当者が中心となって実践する。	放課後
○これまでの活動を振り返り、再び学級生活アンケートを行う。	・これまでの活動の中での、自分や友達の姿を想起し、アンケートに再び答える。	朝の会
○アンケートの結果を基に、成果を共有するための評議員・班長会議をする。	・学級目標を細分化したキーワードとアンケートの結果を基に、「1組パワーアップ大作戦」の成果をについて整理する。	放課後
○活動を振り返り、活動の成果と学級目標の達成度を共有する。	・「1組パワーアップ大作戦」の活動を振り返り、成果と今後の方向性を共有する。	学級活動

## 本時のねらい

- よりよい学級にするために、具体的な活動内容を決めることができるようにする。
- 学級の課題解決を図る話し合い活動を通して、他者と協同して積極的によりよい学級づくりに参加・参画していこうとする意欲や態度を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 話し合いの目的を理解し、本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">             学級への思いや願いを交流し、1組がパワーアップする「何でもオリンピック」の活動内容を決めよう。           </div>	○ 話し合いの目的を確認し、話し合いに対する意欲付けを行うために、評議員・班長会議で出し合った学級への思いや願いを評議員に紹介させる。
展開	2 議題を確認し、話し合う。 (1) 司会が議題を確認し、話し合いの進め方を説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             議題              ～1組パワーアップ大作戦～              1組がパワーアップする「何でもオリンピック」の活動内容を決めよう。           </div> (2) 班長会代表者が提案内容と提案理由を説明する。 (3) 提案者への質疑応答をする。 3 活動内容を班会議で検討する。 (1) 活動内容について各自の意見を理由と共に出し合う。 (2) 出された意見の中から班として結論を理由と共に絞る。 (3) 班会議の結果を発表する。 4 各班の意見を基に活動内容を決定し、運営担当者を決める。 (1) 意見交換をした後に、多数決で決定する。 (2) 決定した活動内容の運営担当者を決める。	○ 学級会運営係の司会で進行させる。 ○ 話し合いの流れ（提案→班会議→班発表→意見整理→決定）を司会に説明させる。 ○ 学活ノートに自分の意見をまとめ、一人一人の意見が出せるようにする。 ○ 3つの観点で活動内容を吟味させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級目標にあっているか（目的性）</li> <li>・お互いのためになるか（相互性）</li> <li>・みんなで協力してできるか（実現性）</li> </ul> ○ 修正案がある場合は、それも含めて決議させる。 ○ 決定した活動内容の趣旨に照らし、立候補や推薦できる雰囲気づくりに留意させる。
整理	5 教師の評価を聞き、活動への意欲を持つ。	○ 本時の話し合いの仕方、決定した活動の価値、今後の方向性について評価する。

本時のねらい

- よりよい学級にするために、具体的な活動内容を決めることができるようにする。
- 学級の課題解決を図る話し合い活動を通して、他者と協同して積極的によりよい学級づくりに参加・参画していこうとする意欲や態度を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 話し合いの目的を理解し、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○ 話し合いの目的を確認し、話し合いに対する意欲付けを行うために、評議員・班長会議で出し合った学級への思いや願いを評議員に紹介させる。</p>
<p>学級への思いや願いを交流し、1組がパワーアップする「何でもオリンピック」の活動内容を決めよう。</p>		
展開	<p>2 議題を確認し、話し合う。</p> <p>(1) 司会が議題を確認し、話し合いの進め方</p> <p>この学習活動を通して、「他者と協同して積極的によりよい学級づくりに参加・参画していこうとする意欲や態度」を育成します。</p> <p>パワーアップ大作戦～何でもオリンピックの活動内容を決めよう。</p> <p>(2) 班長会代表者が提案内容と提案理由を説明する。</p> <p>(3) 提案者への質疑応答をする。</p> <p>3 活動内容を班会議で検討する。</p> <p>(1) 活動内容について各自の意見を理由と共に出し合う。</p> <p>(2) 出された意見の中から班として結論を理由と共に絞る。</p> <p>(3) 班会議の結果を発表する。</p> <p>4 各班の意見を基に活動内容を決定し、運営担当者を決める。</p> <p>(1) 意見交換をした後に、多数決で決定する。</p> <p>(2) 決定した活動内容の運営担当者を決める。</p> <p>学習課題や計画を選択する機会を提供する。</p>	<p>○ 学級会運営係の司会で進行させる。</p> <p>○ 話し合いの流れ（提案→班会議→班発表→意見整理→決定）を司会に説明させる。</p> <p>「授業に参加している」という実感を持たせる。</p> <p>○ <u>学活ノートに自分の意見をまとめ、一人一人の意見が出せるようにする。</u></p> <p>○ <u>3つの観点で活動内容を吟味させる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級目標にあっているか（目的性）</li> <li>・お互いのためになるか（相互性）</li> <li>・みんなで協力してできるか（実現性）</li> </ul> <p>○ 修正案がある場合は、それも含めて決議させる。</p> <p>○ 決定した活動内容の趣旨に照らし、<u>立候補や推薦できる雰囲気づくりに留意させる。</u></p>
整理	<p>5 教師の評価を聞き、活動への意欲を</p> <p>「自分が受け入れられている」という実感できる雰囲気をつくる。</p>	<p>仕方、決定した活動の価値、について評価する。</p>

協力的・参加的な学習

中学校

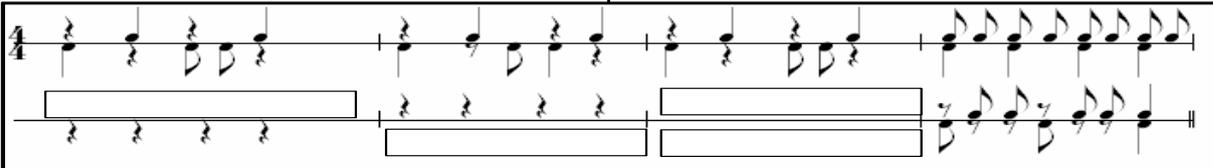
想像力・共感力

○ 想像力、感受性

自分たちが表現したいイメージに合うリズムを創作する体験活動を通して、イメージを具現化するための想像力や感受性を育成する学習。

本時のねらい

- 自分たちのグループが表現したいイメージに合うリズムを創作し、リズム譜に書き表すことができるようにする。
- 創作の活動を通して、旋律を作る楽しさや喜びを実感させることで、想像力や感受性を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 リズムドリル練習をし、本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>(1) 拍子を取りながら、リズム唱をする。</p> <p>(2) 新たなリズムパターンを練習する。</p>	<p>○ 正しいリズム表現ができるように、メトロノームを使用させる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分たちの表現したいイメージに合うリズムを創ろう。</div>	
展開	<p>2 自分の表現したいイメージに合うリズムを創り、演奏する。</p> <p>(1) 反復と変化という構造、リズムを創作する部分、音符カードの活用について知る。</p> <p>(2) イメージに合う1小節分の手のリズム・足のリズム・手足のリズムを創る。</p> <p>(3) リズム譜を作成する。</p>	<p>○ 反復と変化によるまとまりのある8小節のリズム創作ができるように、創作する部分を決めておく。</p> <p>○ リズム譜に書き表すことができるように音符カードを準備する。</p>
		
	<p>3 グループで個人リズムを紹介し合い、グループのリズムを創り上げる。</p> <p>(1) グループリーダーを中心に個人リズムを発表し合う。</p> <p>(2) グループのイメージに合うリズムを採用する。</p> <p>(3) リーダーが拍子を取りながら、リズムを演奏する。</p>	<p>○ グループでリズム創作するための手引きを準備しておく。</p> <p>○ 手引きの「採用の視点」にもとづき採用するように、机間指導しながらアドバイスを行う。</p>
整理	<p>4 本時を振り返り、次回の授業への意欲を高める。</p>	<p>○ 授業を通して気付いたことや分かったことを振り返り用紙に書かせる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">イメージとリズムの関係、反復と変化という形式、足と手の音の重なり工夫によって、様々なリズムを創作することができる。</div>	

協力的・参加的な学習

中学校

想像力・共感力

○ 想像力、感受性

自分たちが表現したいイメージに合うリズムを創作する体験活動を通して、イメージを具現化するための想像力や感受性を育成する学習。

本時のねらい

- 自分たちのグループが表現したいイメージに合うリズムを創作し、リズム譜に書き表すことができるようにする。
- 創作の活動を通して、旋律を作る楽しさや喜びを実感させることで、想像力や感受性を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 リズムドリル練習をし、本時のめあてと学習の流れを確認する。 (1) 拍子を取りながら、リズム唱をする。 (2) 新たなリズムパターンを練習する。	○ 正しいリズム表現ができるように、メトロノームを使用させる。
	自分たちの表現したいイメージに合うリズムを創ろう。	
展開	2 自分の表現したいイメージに合うリズムを創り、演奏する。 (1) 反復と変化という構造、リズムを創作する部分、音符カードの活用について知る。 (2) イメージに合う1小節分の手のリズム・足のリズム・手足のリズムを創る。 (3) リズム譜を作成する。	○ 反復と変化に、まとまりのある8小節のリズム創作ができるように、創作する部分を決めておく。 ○ <u>リズム譜に書き表すことができるように音符カードを準備する。</u>
		
	3 グループで個人リズムを紹介し合い、グループのリズムを創り上げる。 (1) グループリーダーを中心に個人リズムを発表し合う。 (2) グループのイメージに合うリズムを採用する。 (3) リーダーが拍子を取りながら、リズムを演奏する。	○ <u>グループでリズム創作するための手引きを準備しておく。</u> ○ 手引きの「採用の視点」にもとづき採用するように、机間指導しながらアドバイスを行う。
整理	4 本時を振り返り、次回の授業への意欲を高める。	○ <u>授業を通して気付いたことや分かったことを振り返り用紙に書かせる。</u>
	イメージを創作す	いろいろな形式、足と手を使った様々なリズム

「授業に参加している」という実感を持たせる。

表現方法を選択する機会を提供する。

この学習活動を通して、「共感的に受容できるための想像力や感受性」を育成します。

振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。

協力的・参加的な学習

中学校

年間を通した単元として短歌作りに取り組むことで、鑑賞と表現の力を身に付けさせるとともに、他者と意見を交流し相互評価を行うことを通して、コミュニケーション能力の育成を図る学習。

コミュニケーション能力

○ コミュニケーション技能

単元計画（14時間）

	配時	学習活動・内容	評価の規準
課題把握	1	○短歌三首を鑑賞し、短歌の味わい方と作り方についてイメージを持つ。 ○短歌作りについての説明を聞き、イメージを持つ。	◎ヒントを参考に、表現からイメージしたことを書くことができる。
課題追究①	4	○「俵万智」の短歌15首を音読し、好きな歌を三首選び、鑑賞文を書く。 ○「寺山修司」の短歌15首を音読し、好きな歌を三首選び、鑑賞文を書く。 ○「石川啄木」の短歌15首を音読し、好きな歌を三首選び、鑑賞文を書く。 ○「斎藤茂吉」の「死にたまふ母」の連作より短歌十首を音読し、好きな歌を三首選び、鑑賞文を書く。	◎短歌のどの表現からどんなイメージを広げたかが分かるように鑑賞文を書くことができる。
課題追究②	4	○「春・新学期」というお題で学級歌会をする。 ○「ゴールドデンウィーク」というお題で学級歌会をする。 ○「夏休み」というお題で学級歌会をする。 ○「秋」というお題で学級歌会をする。（本時） ※ 学級歌会の流れについて ・前時まで、お題に従って、三首以上を目標に短歌を作らせておく。 ・作者名を伏せた作品一覧表（歌会ワークシート）を配布し、全員で読みを確認させる。 ・得票が多かった短歌に、松竹梅の賞を与える。 ・次点となった短歌について、どのように添削したらさらに良くなるか、考えさせる。 ・教師の選を発表する。	◎歌会プリントの短歌から五首選び、どの表現がどのようによいかを分かるように鑑賞文に書くことができる。 ◎班の話し合いの中で、自分の選んだ歌のよさを説明しながら発表することができる。 ◎次点の短歌の添削案を出し合い、対象のとらえ方や効果的な表現の工夫について考えを深め合うことができる。
課題達成	4	○これまでの歌会に自分が出した短歌や選んだ短歌、鑑賞の学習で学んだ歌人の短歌の中から好きな短歌を選んで、「私の短歌集」を作成する。	◎これまでの短歌学習を踏まえて、構成のルールに従って「私の短歌集」を仕上げるができる。
まとめ・課題発展	1	○「私の短歌集」を読み合い、相互評価し合う。	◎五人以上の作品を読み、評価シートに書き込むことができる。 ◎他者の作品を読むことで、自分の作品を振り返り、課題点を書くことができる。

## 本時のねらい

- 歌会で、短歌を選出する観点をもとに、的確に選の理由を書いたり、発表したりすることができるようにする。
- 班での意見交流を通して、的確に伝え、分かり合うためのコミュニケーション技能を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 歌会の進め方について確認する。 2 本時のめあてを確認する。	○ お題と今日の学習のポイントについて 確認させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             「秋」というお題で歌会をし、よりよい短歌の表現について考えを深めよう。           </div>		
展開	3 学級歌会をする。 (1) 歌会ワークシートに挙げられた短歌の読みを確認しながら、順番に、一人一首ずつ読み上げる。 (2) いいと思った短歌四首を選び、その表現のいい点について鑑賞文を書く。 (3) 書いたコメントを4人グループで発表し合い、2人以上が投票した歌を班の選として決める。 (4) 班の選を発表し合い、賞を決める。 (5) 披講する。 (6) 次点の歌を一首取り上げ、添削について考える。	○ 短歌の意味や歌心を工夫して表現しているのはどんなところかを考えさせるために、ワークシートを書かせる。 ○ 句切れを意識して音読するように指導する。 ○ 机間指導をして、ワークシートに書き込めていない生徒に、選ぶ観点をアドバイスする。 ・場面の切り取り方の良さ ・視点の良さ、表現の良さ 等 ○ 発表し合う際に、他者の選ぶ観点到に学ぶことに留意させる。 ○ 得票の多かった歌から、松竹梅の賞を与える。 ○ どこを添削したら、よりよくなるかのヒントを提示する。
整理	4 教師の選を聞き、効果的な場面の切り取り方や視点の良さ、効果的な比喩や擬人法の使い方についてまとめる。	○ 既習事項にもとづいてまとめているか、机間指導をする。

本時のねらい

- 歌会で、短歌を選出する観点をもとに、的確に選の理由を書いたり、発表したりすることができるようにする。
- 班での意見交流を通して、的確に伝え、分かり合うためのコミュニケーション技能を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 歌会の進め方について確認する。 2 本時のめあてを確認する。  「秋」というお題で歌会をし、よりよい短歌の表現について考えを深めよう。	○ お題と今日の学習のポイントについて 確認させる。  表現方法を選択する機会を提供する。
展開	3 学級歌会をする。 (1) 歌会ワークシートに挙げられた短歌の読みを確認しながら、順番に、一人一首ずつ読み上げる。 (2) いいと思った短歌四首を選び、その表現のいい点について鑑賞文を書く。  (3) 書いたコメントを4人グループで発表し合い、2人以上が投票した歌を班の選として決める。 (4) 班の選を発表し合い、賞を決める。 (5) 披講する。 (6) 次点の歌を <sup>1</sup> 読み上げ、添削について	○ <u>短歌の意味や歌心を工夫して表現しているのはどんなところかを考えさせるために、ワークシートを書かせる。</u> ○ 句切れを意識して音読するように指導する。 ○ <u>机間指導をして、ワークシートに書き込めていない生徒に、選ぶ観点をアドバイスする。</u> ・場面の切り取り方の良さ ・視点の良さ、表現の良さ 等  教師自身が一人一人を大切に選ぶ観点に学ぶ姿勢を示す。  ○ 得票の多かった歌から、松竹梅の賞を与える。  ○ どこを添削したら、よりよくなるかのヒントを提示する。
整理	効果的な場面の切り取り方や視点の良さ、効果的な比喻や擬人法の使い方についてまとめる。	○ 既習事項にもとづいてまとめているか、机間指導をする。

この学習活動を通して、「的確に伝え、分かり合うためのコミュニケーション技能」を育成します。

協力的・参加的な学習

中学校

自分の思いや考えを明確にし、スピーチの構成表を作成するという活動を通して、聞き手に分かりやすいスピーチを作成するための論理的・合理的な表現力を身に付けさせる学習。

コミュニケーション能力

○ 論理的・合理的表現

単元計画（8時間）

- (1) 「進路実現に向けて」をテーマにした弁論大会に向けて、何が必要かを考え、自己課題を挙げる。（1時間：課題把握）
- (2) 課題を踏まえ、目的を達成するためのスピーチの構成を行う。（本時3 / 3時間：課題追求）
- (3) 自己課題を意識しながら、弁論大会を行う。（3時間：課題解決）
- (4) 大会での相互評価を参考に、自己評価を行う。（1時間：まとめ）

本時のねらい

- 話の構想表の作成を通して、相手に伝わりやすいスピーチを構想することができるようにする。
- 構想表作成を通して、自分の思いや考えを明確にして、論理的・合理的に表現できる力を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 自分のスピーチの主張内容や話材カードの内容を確認する。	○ 自分の主張したい内容と前時までに作成した話材カードの内容との関連を確認させる。
	魅力的なスピーチにするために、話材カードを使って話の構想表を作成しよう。	
展開	2 話材カードを、起承転結の枠に従って、話の構想表上に並べる。 ・話材カードを、論の展開を考えながら並べる。	○ 黒板に構想表のモデルを提示する。
	3 構想表をもとに、グループ内で意見交流を行う。 論点 ・話材カードの精選 ・話材カードの並び	○ 意見交流がすすむように、グループごとにアドバイスをを行う。 ○ 自己評価の観点を明示し、どんな意見が参考になったかに着目させる。
整理	4 構想表の作成を通して工夫したことや学んだことを発表し、自己評価する。	○ 本時の学習活動への達成感を味わわせ、次時への学習意欲を高めさせる。

協力的・参加的な学習

中学校

自分の思いや考えを明確にし、スピーチの構成表を作成するという活動を通して、聞き手に分かりやすいスピーチを作成するための論理的・合理的な表現力を身に付けさせる学習。

コミュニケーション能力

○ 論理的・合理的表現

単元計画（8時間）

- (1) 「進路実現に向けて」をテーマにした弁論大会に向けて、何が必要かを考え、自己課題を挙げる。（1時間：課題把握）
- (2) 課題を踏まえ、目的を達成するためのスピーチの構成を行う。（本時3 / 3時間：課題追求）
- (3) 自己課題を意識しながら、弁論大会を行う。（3時間：課題解決）
- (4) 大会での相互評価を参考に、自己評価を行う。（1時間：まとめ）

本時のねらい

- 話の構想表の作成を通して、相手に伝わりやすいスピーチを構想することができるようにする。
- 構想表作成を通して、自分の思いや考えを明確にして、論理的・合理的に表現できる力を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 自分のスピーチの主張内容や話材カードの内容を確認する。 この学習活動を通して、「論理的・合理的な表現力」を育成します。	○ 自分の主張したい内容と前時までに作成した話材カードの内容との関連を確認させる。 学習課題や計画を選択する機会を提供する。
展開	2 話材カードを、起承転結の枠に従って、話の構想表上に並べる。 ・話材カードを、論の展開を考えながら並べる。 3 構想表をもとに、グループ内で意見交流を行う。 論点 ・話材カードの精選 ・話材カードの並び	○ <u>黒板に構想表のモデルを提示する。</u> 【起】「問いかけ」 「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。 【結】「自己主張（伝えたいこと）から構成させる。 ○ <u>意見交流がすすむように、グループごとにアドバイスをを行う。</u> ○ 自己評価の観点を明示し、どんな意見が参考になったかに着目させる。
整理	4 構想表の作成を通して工夫したことや学んだことを発表し、自己評価する。	○ 本時の学習活動への達成感を味わわせ、次時への学習意欲を高めさせる。

協力的・参加的な学習

中学校

ディベート大会において、自分の考えを相手に正しく伝えることを身に付けるとともに、能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能の育成を図る学習。

コミュニケーション能力

- 論理的・合理的な表現、多様な表現方法

本時のねらい

- ディベートのスピーチにおいて、間と速さに注意しながら相手の意見に対して反論する活動を通して、自分の主張を相手に分かりやすく伝えることができるようにする。
- グループによるディベートを通して、的確に伝え、分かり合うためのコミュニケーションの技能を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 英語であいさつし、本時のめあてを確認する。	
	<p>「Which is better, the city life or the country life?」について、間と速さに注意して、相手の意見に対して反論しよう。</p>	
	2 前時の学習を振り返り、班で音読練習をする。	○ 前時に作成した想定議論を、間と速さを意識させながらチームで音読練習させる。
展開	3 ディベート大会をする。 (1) ディベート大会の説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習プリントを使って、ディベートやジャッジの方法を説明する。</li> <li>○ 生徒にジャッジをさせることで、全員が参加しているという意識を持たせる。</li> <li>○ 討論中は相手の言ったことをしっかり聞き取らせ、必ずメモを取らせる。</li> <li>○ ジャッジする視点を確認させておく。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・間と速さに注意して、自分の意見を述べようとしているか。</li> <li>・相手の意見を聞いて、反論できているか。</li> </ul> </li> </ul>
	(2) Aチームが3分以内でスピーチ(立論)を行う。 (3) Bチームとジャッジで、Aチームと質疑応答を行う。(4分) (4) Bチームが3分以内でスピーチ(立論)を行う。 (5) Aチームとジャッジで、Bチームと質疑応答を行う。(4分) (6) Aチームがスピーチ(反論)を行う。(2分) (7) Bチームがスピーチ(反論)を行う。(2分) (8) ジャッジが審査用シートに記入する。	
整理	4 教師のまとめを聞き、次回の内容を知る。 (1) 本時のまとめを聞く。 (2) 自己評価をする。	○ 自己評価を通して、自分の課題や仲間の良い点に気付かせる。

協力的・参加的な学習

中学校

ディベート大会において、自分の考えを相手に正しく伝えることを身に付けるとともに、能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能の育成を図る学習。

コミュニケーション能力

○ 論理的・合理的な表現、多様な表現方法

本時のねらい

- ディベートのスピーチにおいて、間と速さに注意しながら相手の意見に対して反論する活動を通して、自分の主張を相手に分かりやすく伝えることができるようにする。
- グループによるディベートを通して、的確に伝え、分かり合うためのコミュニケーションの技能を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 英語であいさつし、本時のめあてを確認する。</p> <p>「Which is better, the city life or the country life?」に間と速さに注意して、相手の意見に対して反論しよう。</p> <p>2 前時の学習を振り返り、班で音読練習をする。</p>	<p>○ 前時に作成した想定議論を、間と速さを意識させながら<u>チームで音読練習させる。</u></p>
展開	<p>この学習活動を通して、「多様に表現する力」を育成します。</p> <p>(2) <u>Aチームが3分以内でスピーチ(立論)を行う。</u></p> <p>(3) Bチームとジャッジで、Aチームと質疑応答を行う。(4分)</p> <p>(4) Bチームが3分以内でスピーチ(立論)を行う。</p> <p>(5) <u>Aチームとジャッジで、Bチームと質疑応答を行う。(4分)</u></p> <p>(6) Aチームがスピーチ(反論)を行う。(2分)</p> <p>(7) Bチームがスピーチ(反論)を行う。(2分)</p> <p>(8) ジャッジの査用シートに記入する。</p>	<p>○ 学習プリントを使って、ディベートやジャッジの方法を説明する。</p> <p>○ <u>生徒にジャッジをさせることで、全員が参加しているという意識を持たせる。</u></p> <p>○ 討論中は相手の言ったことをしっかり聞き取らせ、必ずメモを取らせよう。</p> <p>○ ジャッジする視点を決めておく。</p> <p>・間と速さに注意しながら自分の意見を述べよう</p> <p>「授業に参加している」という実感を持たせる。</p> <p>「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。</p>
整理	<p>4 教師のまとめをする。</p> <p>(1) 本時のまとめをする。</p> <p>(2) 自己評価をする。</p> <p>この学習活動を通して、「論理的・合理的に表現する力」を育成します。</p>	<p>○ 自己評価を通して、自分の課題や仲間の良い点に気付かせる。</p>

協力的・参加的な学習

中学校

修学旅行の事前事後の活動を通して、自他の個性を尊重し合い、集団の一員として役割と責任を果たそうとする意欲や態度を育成するとともに、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能の育成を図る取組。

人間関係調整力・問題解決力

○ 協力、建設的、解決

## 活動計画

### 事前の学習活動

- 1 「先輩の修学旅行の話进行こう」
  - ・修学旅行を成功させる苦劳や喜びを知る。
- 2 「実行委員を選出しよう」
  - ・学級毎に実行委員を選出する。
- 3 「修学旅行の学年・学級・班の目標を決めよう」
  - ・実行委員会より提案された内容を各学級で検討する。
  - ・学年目標を具体化した学級目標、班目標を決める。
- 4 「学級コース、班別コースを決めよう」
  - ・各目標を意識してコース選択をする。
- 5 「とっておき情報を交換しよう」・・・本時（100分）
  - ・班別コースを見直す。
- 6 「役割分担を決めよう」
  - ・実行委員会提案の役割を学級や班で決める。

## 修学旅行の実施

### 事後の学習活動

- 7 「修学旅行を振り返ろう」
  - ・各班の目標達成度や旅行中のエピソードを交流する。
  - ・学年、学級目標の達成度を吟味する。

- 各班から提供された情報を基に話し合うことで、お互いの意見を尊重し合いながら班別コースを見直すことができるようにする。
- 班での話し合い等の交流活動で、協力的・建設的に課題解決に取り組む技能を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>各班のとおき情報を聞いて、班別コースを見直そう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 修学旅行実行委員に、今日の学級活動の内容と趣旨を説明させる。</li> </ul>
展開	<p>2 各班で是非行きたいと考えている場所を紹介し合う。</p> <p>&lt; 1 班 &gt;                      ミッション：「〇〇大学の学食でランチ」                      ・京都にある大学について</p> <p>&lt; 2 班 &gt;                      ミッション：「15個の石を数えるまで帰れません」                      ・竜安寺の石庭をはじめとする庭造りに技術を発揮した人々について</p> <p>&lt; 3 班 &gt;                      ミッション：「岡崎公会堂を探せ」                      ・「全国水平社創立の地」の碑について</p> <p>&lt; 4 班 &gt;                      ミッション：「養源院の血天井を見よう」                      ・血天井の由来と俵屋宗達の絵について</p> <p>&lt; 5 班 &gt;                      ミッション：「お土産とお店をとことん紹介」                      ・京都の特産物について</p> <p>&lt; 6 班 &gt;                      ミッション：「This is cool Japan」                      ・京都国際マンガミュージアムについて</p> <p>3 各班が紹介した場所について検討し、自分たちの班の見学地を見直す。                      (1) 行ってみたいところを出し合う。                      (2) 前時に決めたコースに、新たな見学地が入れられるかどうか検討する。                      (3) 各班の班長より見直したコースを発表をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実行委員の司会で進行する。</li> <li>○ 各班の説明の際には、プレゼンテーションソフト等を利用させ、自分たちの伝えたい内容が分かりやすいような工夫をさせる。</li> <li>○ 発表する際の役割分担を事前にさせておく。</li> <li>○ 参考にしたい内容や質問したい事項等をメモしながら聞き取らせる。</li> <li>○ 各班の発表ごとに質疑応答の時間を保障させる。</li> <li>○ すぐには答えきれない内容については、できるだけ、班に任せて後日答えさせるようにする。</li> <li>○ 検討に当たっては、以下の点を留意させる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の目標に合致するか。</li> <li>・各見学地に見合う滞在時間がとれ、決められた時間までに帰着できるか。</li> <li>・決められた予算を超えないか。</li> <li>・班員の体力等を考慮したか。</li> </ul> </li> </ul>
整理	<p>4 教師の話聞くことで、次時への見通しと意欲を持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各班の発表やその後の各班の話し合いのよかった点を中心に評価し、次時につながる課題を絞って伝える。</li> </ul>

- 各班から提供された情報を基に話し合うことで、お互いの意見を尊重し合いながら班別コースを見直すことができるようにする。
- 班での話し合い等の交流活動で、協力的・建設的に課題解決に取り組む技能を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○ 修学旅行実行委員に、今日の学級活動の内容と趣旨を説明させる。</p>
	<p>各班のとおき情報を聞いて、班別コースを見直そう。</p>	<p><b>表現方法を選択する機会を提供する。</b></p>
展開	<p>2 各班で是非行きたいと考えている場所を紹介し合う。</p> <p>&lt; 1 班 &gt;                      ミッション：「〇〇大学の学食でランチ」                      ・京都にある大学について</p> <p>&lt; 2 班 &gt;                      ミッション：「15個の石を数えるまで帰れません」                      ・竜安寺の石庭をはじめ、                      参考にした内容や質問したい事項等をメモしながら聞き取らせる。                      を発揮した人々について</p> <p>&lt; 3 班 &gt;                      ミッション：「岡崎公会堂を探せ」                      ・「全国水平社創立の地」の碑について</p> <p>&lt; 4 班 &gt;                      ミッション：「養源院の血天井を見よう」                      ・血天井の由来と俵屋宗達の絵について</p> <p>&lt; 5 班 &gt;                      ミッション：「This is cool Japan」                      ・京都国際マンガミュージアムについて</p>	<p>○ 実行委員の司会進行する。</p> <p>○ <u>各班の説明の際には、プレゼンテーションソフト等を利用させ、自分たちの伝えたい内容が分かりやすいような工夫をさせる。</u></p> <p>○ <u>発表する際の役割分担を事前にさせておく。</u></p> <p>○ 各班の発表ごとに質疑応答の時間を保障させる。</p> <p>○ すぐには答えきれない内容については、できるだけ、班に任せて後日答えさせるようにする。</p>
	<p>この学習活動を通して、「協力的・建設的に課題解決に取り組む技能」を育成します。</p>	<p><b>「自分が必要とされている」という実感を持たせる。</b></p>
	<p>3 各班が紹介した場所について検討し、自分たちの班の見学地を見直す。</p> <p>(1) 行ってみたいところを出し合う。                      (2) 前時に決めたコースに、新たな見学地が入れられるかどうか検討する。                      (3) 各班の班長より見直したコースを発表をする。</p>	<p><b>「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。</b></p> <p>○ <u>検討に当たっては、以下の点を留意させる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の目標に合致するか。</li> <li>・各見学地に見合う滞在時間がとれ、決められた時間までに到着できるか。</li> <li>・決められた予算を超えないか。</li> <li>・班員の体力等を考慮したか。</li> </ul>
整理	<p>4 教師の話聞くことで、次時への見通しと意欲を持つ。</p>	<p>○ 各班の発表やその後の各班の話し合いのよかった点を中心に評価し、次時につながる課題を絞って伝える。</p>

協力的・参加的な学習

中学校

班で仮説を立てたり、実験を行ったりすることを通して、科学的な思考力・表現力を育成するとともに、課題解決に向けて、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能の育成を図る学習。

人間関係調整力・問題解決力

○ 協力、建設的、解決

本時のねらい

- 推測と実験を通して、身近な現象を科学的に説明できるようにする。
- 交流活動を通して、協力的・建設的に課題解決に取り組む技能を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時の実験結果を確認する。 2 本時のめあてを確認する。	○ ふくらし粉の有無によるホットケーキのふくらみ方や気泡の有無の違いを想起させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         ホットケーキの気泡の正体を、根拠をもって説明できるようになろう。                     </div>		
展開	3 仮説を出し合う。 (1) 自分の考えをまとめる。 ・交流活動で自分の考えが説明しやすいように学習プリントを活用する。 (2) 班で交流する。 (3) 学級で交流する。 4 実験で確かめる。 (1) できた物質の同定方法を出し合う。 (2) 炭酸水素ナトリウムを熱分解する。 (3) 熱分解でできた物質で、次の2つについて同定する。 ・試験管の口にできた物質 ・発生した気体	○ 熱分解でできる物質を予想しやすくするために、粒子モデルを準備する。 ○ 自由に出し合える雰囲気づくりに留意させる。 ○ 根拠のある交流活動ができるように、粒子モデルを活用させる。 ○ 各班の考えが見とれるよう、粒子モデルを黒板にはらせる。 ○ 二酸化炭素⇒石灰水、水⇒塩化コバルト紙を使って同定することを確認させる。 ○ 事故がないよう、安全に配慮させる。 ○ 試験管に残った物質については、次時に確かめさせる。
整理	5 まとめる。 (1) 実験結果をまとめる。 (2) 本時を振り返り、自己評価する。	○ ホットケーキの気泡の正体について、根拠をもって説明できるように机間指導を行い、学習プリントにまとめさせる。

協力的・参加的な学習

中学校

班で仮説を立てたり、実験を行ったりすることを通して、科学的な思考力・表現力を育成するとともに、課題解決に向けて、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能の育成を図る学習。

人間関係調整力・問題解決力

○ 協力、建設的、解決

本時のねらい

- 推測と実験を通して、身近な現象を科学的に説明できるようにする。
- 交流活動を通して、協力的・建設的に課題解決に取り組む技能を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時の実験結果を確認する。 2 本時のめあてを確認する。 「自分が受け入れられている」という実感できる雰囲気をつくる。	○ ふくらし粉の有無によるホットケーキのふくらみ方や気泡の有無の違いを想起させる。 「授業に参加している」という実感を持たせる。 根拠をもって説明できるようにする。
展開	3 仮説を出し合う。 (1) 自分の考えをまとめる。 ・交流活動で自分の考えが説明しやすいように学習プリントを活用する。 (2) 班で交流する。 (3) 学級で交流する。 4 実験で確かめる。 (1) できた物質の同定方法を出し合う。 (2) 炭酸水素ナトリウムを熱分解する。 (3) 熱分解でできた物質で、次の2つについて同定する。 ・試験管の口にできた物質 ・発生した気体	○ <u>熱分解でできる物質を予想しやすくするために、粒子モデルを準備する。</u> ○ <u>自由に出し合える雰囲気づくりに留意させる。</u> ○ 根拠のある交流活動ができるように、粒子モデルを活用させる。 ○ <u>各班の考えが見とれるよう、粒子モデルを黒板にはらせる。</u> ○ 二酸化炭素→ <u>表現方法を選択する機会を提供する。</u> 使って同定する。 ○ 事故がないよう、安全に配慮させる。 ○ 試験管に残った物質については、次時に確かめさせる。
整理	5 まとめ この学習活動を通して、「協力的・建設的に問題解決に取り組む技能」を育成します。	○ ホットケーキの気泡の正体について、根拠をもって説明できるように机間指導を行い、学習プリントにまとめさせる。

協力的・参加的な学習

中学校

主張文の構成を図式化したものをもとに班で交流することを通して、主張文に対する反論のポイントを明確にさせるとともに、合理的・分析的に思考する技能を身に付けさせる学習。

公平・公正な思考力・判断力

○ 合理的・分析的に思考する技能

本時のねらい

- 主張文を図式化することを通して、相手の意見を正確に理解させ、反論文の構成を考えさせる。
- 説得力のある文章を書かせることで、論理の展開や表現の仕方を工夫し、合理的・分析的に思考する技能を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時までの学習を振り返るとともに、学習課題、学習計画を確認し、本時の見通しをもつ。	○ 図式化を用いた主張文の分析の仕方を確認し、本時は反論文の構成まで考えることを知らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     主張文を整理し、それに対する反論文の構成を工夫しよう。                 </div>		
展開	2 自分が反論文を書く主張文について、書き手の「主張」「根拠」「理由付け」を図式化し、相手の主張を正確に理解する。 3 図式化について間違いがないか、班で確認し合う。 4 反論についての議論の柱を付箋に書き、その順番を並べ替え、分かりやすい反論文にするための構成を工夫する。	○ もとになる主張文は、新聞記事等から反論できそうな文を事前に準備しておく。 ○ 緑の付箋に「根拠」、青の付箋に「理由付け」を記入させる。 ○ 根拠が適切であるか、論に飛躍がないかなどに注目させる。 ○ 2色の付箋を配布し、「根拠への反論」(黄)、「理由付けへの反論」(桃)を記入させる。 ○ 班に適宜入り、反論のヒントを与える。 ○ 「反論文の書き方」を振り返らせ、説得力のある文章になるよう付箋を操作させ、構成を工夫させる。 ○ 本時の授業で身に付いた力を確認し、どのような場面で使えるか想定させる。
整理	5 本時の学習を振り返り、自己評価をする。	○ 本時のめあてが達成できたかを振り返らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     まとめ                      相手の主張を正確に読み取り、根拠、理由付けを見出せば反論のポイントを捉えることができる。構成を工夫することで説得力のある文章を書くことができる。                 </div>		

協力的・参加的な学習

中学校

主張文の構成を図式化したものをもとに班で交流することを通して、主張文に対する反論のポイントを明確にさせるとともに、合理的・分析的に思考する技能を身に付けさせる学習。

公平・公正な思考力・判断力

○ 合理的・分析的に思考する技能

本時のねらい

- 主張文を図式化することを通して、相手の意見を正確に理解させ、反論文の構成を考えさせる。
- 説得力のある文章を書かせることで、論理の展開や表現の仕方を工夫し、合理的・分析的に思考する技能を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 前時までの学習を振り返るとともに、学習課題、学習計画を確認し、本時の見通し	○ 図式化を用いた主張文の分析の仕方を確認し、本時は反論文の構成まで考えることを知らせる。
	この学習活動を通して、「合理的・分析的に思考する技能」を育成します。	
	主張文を整理し、それに対する反論文の構成を工夫しよう。	
展開	<p>2 自分が反論文を書く主張文について、書き手の「主張」「根拠」「理由付け」を図式化し、相手の主張を正確に理解する。</p> <p>3 図式化について間違いがないか、班で確認し合う。</p> <p>4 反論についての議論の柱を付箋に書き、その順番を並べ替え、分かりやすい反論文にするための構成を工夫する。</p>	<p>○ もとになる主張文は、新聞記事等から反論できそうな文を事前に準備しておく。</p> <p>○ 緑の付箋に「根拠」、青の付箋に「理由付け」を記入させる。</p> <p>○ 根拠が適切であるか、論に飛躍がないかなどに注目させる。</p> <p>○ 2色の付箋を配布し、「根拠」(黄)、「理由付け」(桃)を記入させる。</p> <p>○ <u>班に適宜入り、反論のヒントを与える。</u></p> <p>○ <u>「反論文の書き方」を振り返らせ、説得力のある文章になるよう付箋を操作させ、構成を工夫させる。</u></p> <p>○ <u>本時の授業で身に付いた力を確認し、どのような場面で使えるか想定させる。</u></p>
	教師が自身が一人一人を大切に示す姿勢を示す。	
	学習方法を選択する機会を提供する。	
整理	5 本時の学習を振り返り、自己評価をする	○ 本時の学習が達成できたかを振り返らせる。
	<p>「授業に参加している」という実感を持たせる。</p> <p>まとめ 相手の主張を正確に読み取り、根拠、理由付けを見出せば反論のポイントを捉えることができる。構成を工夫することで説得力のある文章を書くことができる。</p>	

協力的・参加的な学習

中学校

身近な事象について一次関数を活用し説明する能力を身に付けることを通して、論理的・合理的な表現を用いて、相手に分かりやすく説明できる力を身に付ける学習。

公平・公正な思考力・判断力

○ 論理的・合理的な表現

本時のねらい

- 通話時間と電話料金の関係を理解し、一次関数の表とグラフを根拠として、相手に分かりやすく説明できるようにする。
- 意見交流する場面を設定し、自分の考えを、関数的な見方や考え方をもとに論理的・合理的に表現する力を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 本時の学習内容とめあてを確認する。	○補助黒板を使って本時学習の流れを確認させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     通話時間と電話料金の関係を理解し、おすすめ料金プランを説明できるようになろう。                 </div>	
展開	2 学習課題をつかみ、プランの内容を説明する。 (1) 2つのプランの違いに着目し、プランAについて気付いたことを学習プリントに記入する。 ・Aの基本料金と通話料金  (2) 自分だったらどちらのプランを選ぶかを考え、学習プリントに自分の考えをまとめる。 ・たくさん話すならプランB ・あまり話さないならプランA (3) おすすめ料金プランを明確に説明するには、どのような表現方法を用いればよいのか、班内で考えを交流し、班としての考えをまとめる。 ・300分話したときの電話料金は、プランAが10円お得になる 等 3 各班の考えを発表する。	<課題> あなたは携帯会社のショップ店員をしています。お客さんのAさんは、仕事で月300分以上通話をするそうです。Aさんは2つのプランのうち、どちらにしようか迷っています。その2つのプランは A：1ヵ月の基本料金1590円、通話料1分10円 B：1ヵ月の基本料金2500円、通話料1分7円です。あなたは、店員としてお客さんに契約してもらうために説明しなければなりません。どちらをすすめますか。  ○ 基本料金と通話料金から電話料金が成り立っていることを理解させる。 ○ 通話時間と電話料金が一次関数の関係になっていることを表やグラフを書かせることで、理解させる。 ○ 変化の割合や切片の関係について理解できていない生徒にはヒントカードを用いて式を求めさせる。 ○ 生徒の気づきを評価し、表やグラフを使って解くことのよさを感じさせる。  ○ 自分の班の考えと同じところや違うところ、説明の方法などに留意させる。
整理	4 本時の学習内容のまとめを行う。 (1) 本時の学習を生かして取り組める課題を見つけ、学習プリントに記入する。 (2) 本時のまとめを学習プリントに記入し、自己評価を行う。	○ 生徒が思いつかない場合は、教師から関数的な見方考え方が利用されている場面を、本時と関連させて想起させる。

協力的・参加的な学習

中学校

身近な事象について一次関数を活用し説明する能力を身に付けることを通して、論理的・合理的な表現を用いて、相手に分かりやすく説明できる力を身に付ける学習。

公平・公正な思考力・判断力

○ 論理的・合理的な表現

本時のねらい

- 通話時間と電話料金の関係を理解し、一次関数の表とグラフを根拠として、相手に分かりやすく説明できるようにする。
- 意見交流する場面を設定し、自分の考えを、関数的な見方や考え方をもとに論理的・合理的に表現する力を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 本時の学習内容とめあてを確認する。	○補助黒板を使って本時学習の流れを確認させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     通話時間と電話料金の関係を理解し、おすすめ料金プランを説明できるようになる。                 </div>		
展開	2 学習課題をつかみ、プランの内容を説明する。 (1) 2つのプランの違いに着目し、プランAについて気付いたことを学習プリントに記入する。 ・Aの基本料金と通話料金  (2) 自分だったらどちらのプランを選ぶかを考え、学習プリントに自分の考えをまとめる。 ・たくさん話すならプランB ・あまり話さないならプランA  (3) おすすめ料金プランを明確に説明するには、どのような表現方法を用いればよいか、班内で考えを交流し、班としての考えをまとめる。 ・300分話したときの電話料金は、プランAが10円お得になる。等 3 各班の考えを発表	<課題> あなたは携帯会社のショップ店員をしています。お客さんのAさんは、仕事で月300分以上通話をするそうです。Aさんは2つのプランのうち、どちらにしようか迷っています。その2つのプランは A：1ヵ月の基本料金1590円、通話料1分10円 B：1ヵ月の基本料金2500円、通話料1分7円です。あなたは、店員としてお客さんに契約してもらうために説明しなければなりません。どちらをすすめますか。  ○ 「授業に参加している」という実感を持たせる。 ○ 通話時間と電話料金の関係を一次関数の関係になっていることを表やグラフを言明することで、理解させる。 ○ 変化の割合や切片の関係について理解できていない生徒にはヒントカードを用いて式を求めさせる。 ○ 生徒の気づきを評価し、表やグラフを使って気づくことのよさを感じさせる。 ○ 自分の班の考えと同じところや違うところ、説明の方法などに留意させる。
整理	4 本時の学習内容のまとめを行う。 (1) 本時の学習内容をつかみ、振り返る課題を見直し、自分の考えをまとめる。 (2) 本時の学習内容を学習プリントに記入し、自己評価を行う。	○ 生徒が思い浮かばない場面では、教師から関数的な見方考え方が利用される場面を、本時と関連づけて振り返る。 ○ 表現方法を選択する機会を提供する。

この学習活動を通して、「論理的・合理的に表現する力」を育成します。

「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。

表現方法を選択する機会を提供する。



### 3 人権教育の全体計画例と学習活動例

#### 高等学校

掲載している学習活動例			
この時間に育てたい資質・能力	学年	教科(科目)等	単元名
人間の尊厳・価値の尊重、 自己尊重の感情	1年	国語科(国語総合)	短歌を読み味わおう
	1年	芸術科(美術Ⅰ)	絵画制作(油彩)
	2年	英語科 (コミュニケーション英語Ⅱ)	Universal Design
多様性の尊重・共生	1年	家庭科(家庭基礎)	幼児と一緒におやつをつくろう
	1年	英語科 (コミュニケーション英語Ⅰ)	Shopping
権利と責任、公平・公正	1年	ホームルーム活動	ネット掲示板での誹謗・中傷の解決方法を考えよう
参加・参画	2年	総合的な学習の時間	我ら町のお助け隊
	2年	公民科(現代社会)	犯罪被害者の抱える諸問題について理解し、どのような支援が必要か考えよう
想像力・共感力	2年	福祉科 (コミュニケーション技術)	サービス利用者の状況に応じたコミュニケーション技術を身に付けよう
コミュニケーション能力	1年	地理歴史科(世界史A)	自分たちの住む身近な地域と世界との関係や交流について調べ考察しよう
人間関係調整力・問題解決力	3年	保健体育科(体育)	球技(卓球)
公平・公正な思考力・判断力	2年	数学科(数学B)	数列
	1年	商業科(簿記)	会計帳簿と帳簿組織



# ■ 人権教育の全体計画例（C高等学校の例）

<b>関係法規等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法</li> <li>・教育基本法</li> <li>・学校教育法</li> <li>・学習指導要領</li> <li>・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律</li> <li>・人権教育の指導方法等の在り方について</li> <li>・福岡県の教育施策</li> <li>・福岡の教育ビジョン</li> <li>・福岡県人権教育・啓発基本指針</li> <li>・福岡県人権教育推進プラン</li> <li>・地区高等学校人権教育推進中長期プラン</li> </ul>	<b>学校の教育目標</b> 人権感覚豊かで、生きる力や実践力を身に付け、未来に大志を抱き、社会に貢献できる生徒を育成する。	<b>校訓</b> 創造・友愛・自立 ～賢く、優しく、逞しく～
	<b>人権教育の目標</b> 人権や人権擁護に関する基本的な知識を理解するとともに、人権がもつ価値や重要性を共感的に受けとめる感性や感覚を身に付けた生徒を育成する。	<b>地域や生徒の実態、教職員の願い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の実態</li> <li>○生徒の実態</li> <li>○教職員の願い</li> <li>・未来に向かって夢や志を持ち、意欲的に学び、活動できる。</li> <li>・互いの個性を尊重し、相違を認め受容できる。</li> <li>・自分の気持ちや考えを率直に相手に伝えることができる。</li> </ul>

<b>本年度の指導の重点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の主体的関与を促すような学習や体験的な学習の機会を提供する。</li> <li>○自己についての肯定的態度、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能や、人間関係調整力の育成を図る。</li> <li>○人権教育学習教材『かがやき』『あおぞら』の積極的な活用を図る。</li> <li>○人権が尊重される授業づくりの視点を活用した学習活動づくりに取り組み、学力と進路を保障する。</li> </ul>
---

<b>各学年の重点目標</b>		
<b>第1学年：肯定的な自己他者理解</b> ○自分や他者の考えや行動の良さがわかり、それを生かして自他を尊重しようとする。 ○学ぶことの意義を理解し、自ら進んで学習に取り組むことができる。	<b>第2学年：自己他者理解の深化・受容</b> ○多様な他者の考えを理解しながら、自分の思いや意見を適切に伝えることができる。 ○職業的な能力・適性について理解を深め、進路情報を活用できる。	<b>第3学年：参加・参画</b> ○よりよい社会の実現を目指し、他者と協力・協働して社会に参加・参画しようとする。 ○夢や志を持ち、自分にふさわしい進路を選択決定できる。

<b>各教科等における</b>		<b>具体的な取組内容</b>	
<b>国語</b>	○様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすることを通して、伝え合う力を高めさせる。	<b>家庭</b>	○子どもや高齢者などとの触れ合いや交流など他者とかかわる力を高める活動を充実させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を育てる。
<b>地歴</b>	○資料を収集・選択し、解釈することや、調査・研究したことを報告書にまとめることなどの学習活動を取り入れ、歴史的思考力や地理的な見方や考え方を培う。	<b>情報</b>	○情報の信憑性への配慮について自己評価する活動や生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う活動を通して、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
<b>公民</b>	○持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。	<b>英語</b>	○ペア・ワーク、グループ・ワークやネイティブ・スピーカーの協力を得て行うティーム・ティーチングなど積極的に取り入れ、英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
<b>数学</b>	○自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり、議論したりすることを通して、数学のよさを認識させ、数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。	<b>総合的な学習の時間</b>	○ボランティア活動などの社会体験活動や、調査・研究、発表・討論などの学習活動を通じて、問題の解決に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。
<b>理科</b>	○観察、実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出し、それを表現する学習活動を充実させることで、自然の事物・事象についての理解を深めさせる。	<b>特別活動</b>	○集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や人間関係を形成する力を養う活動を充実させ、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする実践的な態度を育てる。
<b>保健体育</b>	○筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、運動の楽しさや喜びを深く味わせる。	<b>道徳教育</b>	○様々な場面や機会を活かして自他の価値を尊重しようとする意欲や態度や、人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度等を育成する。
<b>芸術</b>	○作品について互いに批評し合う活動などを取り入れ、自他の著作物等を尊重する態度を育てるとともに、芸術文化についての理解を深めさせる。		
<b>その他の教育活動</b>	○教育活動全体を通して、人権課題についての理解と認識を深めさせるとともに、その人権課題を自分の問題としてとらえ、自分の生き方を考えようとする態度を育てる。 ○地域社会のよさや課題についての理解と認識を深めさせ、他者と協力しながら地域社会の課題解決に主体的に参画し、その発展に貢献しようとする態度を育てる。		

<b>家庭・地域、関係機関及び校種間の連携</b>
○家庭・地域との連携 ホームページ・学校だより・学級通信・PTA広報紙等による情報発信。人権学習の公開と意見交換会の開催。点検・評価のための保護者アンケートの実施。 ○関係機関等との連携 生徒の人権意識調査の分析や教材開発に関する関係機関等の専門家からの助言。生徒の関係機関等への取材。発達障害者支援センター・大学学習支援サポーター等との連携。 ○校種間連携 校種間連絡会議の定期的開催。系統的な指導プログラムの共同開発。相互の授業公開・合同研修会の開催。

<b>教職員研修</b>
○生徒理解に関すること 生徒の現状と課題の共通理解（人権意識調査の分析等）。配慮を要する生徒の理解のための情報交流。 ○指導の改善・充実に関すること 人権が尊重される学習活動づくりの実践交流。『かがやき』『あおぞら』を活用した授業実践に基づく研究協議。 ○教職員の人権尊重の理念に対する理解・体得に関すること 人権に関する法令及び人権課題にかかわる当事者等の理解。 ○家庭・地域との相互理解に関すること 連携方策・留意点の共通理解。取組事例の交流。人権学習公開授業・意見交換会の総括。保護者アンケートの分析。

協力的・参加的な学習

高等学校

短歌を再構成し、元歌と比較して読み比べ、表現効果について話し合うこと通して、短歌に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうとともに、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる学習。

人間の尊厳・価値の尊重

○ 自己受容、他者理解

本時のねらい

- 句ごとに切られた三種の短歌を再構成し、元歌と比較して読み比べ、表現効果について話し合うこと通して、短歌に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができるようにする。
- 自己価値及び他者の価値を感知し、それを尊重しようとする意欲や態度を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいや進め方をつかむ。	○ 学習のねらいと言語活動の内容を流れ図で掲示し、学習の見通しを持たせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     句ごとに切られた短歌を再構成し、元歌と比較して読み比べ、表現効果について話し合い、短歌に描かれた人物、情景、心情を読み味わおう。                 </div>	
展開	2 自分の考えをまとめる。 ・句ごとに切られた三首の短歌を再構成し、その解説をワークシートに書く。  3 進行の仕方を工夫し、他の人の考えを尊重しながら班で話し合い、短歌の再構成について班の考えをまとめる。 ・司会、発表者、記録係を決める。 ・手順に沿って話し合い、班の意見をまとめる。  4 再構成した三首のうち一首を取り上げ、元歌と読み比べ、元歌の表現効果について話し合う。 ・配布資料で元歌を確認する。 ・取り上げる短歌を決める。 ・元歌の表現と構成から想像できる作者の考えについて、着眼点に沿って感想を出し合う。	○ 各句を情景描写、人物描写、心理描写に分類させ、短歌の再構成ができるようにする。 ○ 解説の着眼点（再構成した短歌からどのような様子・場面・行動・心情が想像できるか）を示し、自分の考えが持てるようにする。 ○ 他の人の考えの要点や、自分の考えとの共通点・相違点を整理させ、自分の考えを深め、相手の考えを尊重しながら話し合いを進めることができるようにする。  ○ 作者の略年譜や作品系列など作品成立の背景がわかる配布資料を準備する。 ○ 再構成するのが難しかった短歌を一首選定させる。 ○ 「作者はどのような心情を情景描写に反映・象徴させようとしたのか」、「作者はなぜこのような構成にしたのか」という着眼点を示すことで、表現と構成に即して感想が出し合えるようにする。
整理	5 本時の学習を振り返り、次時の確認をする。 ・本時の学習で気付いたこと ・次時の予告	○ 自分の考えの深まりと読み味わったことを確かめることができる振り返りシートを準備する。 ○ 次時は感想を出し合った短歌の批評を書くことを伝える。

協力的・参加的な学習

高等学校

短歌を再構成し、元歌と比較して読み比べ、表現効果について話し合うこと通して、短歌に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうとともに、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる学習。

人間の尊厳・価値の尊重

○ 自己受容、他者理解

本時のねらい

- 句ごとに切られた三種の短歌を再構成し、元歌と比較して読み比べ、表現効果について話し合うこと通して、短歌に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができるようにする。
- 自己価値及び他者の価値を感知し、それを尊重しようとする意欲や態度を育てる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいや進め方をつかむ。	○ 学習のねらいと言語活動の内容の流れ図で掲示し、学習の見通しを持たせる。
	句ごとに切られた短歌を再構成し、元歌と比較して読み比べ、表現効果について話し合い、短歌に描かれた人物、情景、心情を読み味わおう。	
展開	<p>2 自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・句ごとに切られた三首の短歌を再構成し、その解説をワークシートに書く。</li> </ul> <p>3 進行の仕方を工夫し、他の人の考えを尊重しながら班で話し合い、短歌の再構成について班の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会、発表者、記録係を決める。</li> <li>・手順に沿って話し合い、班の意見をまとめる。</li> </ul> <p>4 再構成した三首のうち一首を取り上げ、元歌と読み比べ、元歌の表現効果について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料で元歌を確認する。</li> <li>・取り上げる短歌を決める。</li> <li>・元歌の表現と構成から想像できる作者の考えについて、着眼点に沿って感想を出し合う。</li> </ul>	<p>○ 各句を情景描写、人物描写、心理描写に分類させ、短歌の再構成ができるようにする。</p> <p>○ <u>解説の着眼点（再構成した短歌からどのような様子・場面・行動・心情が想像できるか）を示し、自分の考えが持てるようにする。</u></p> <p>○ <u>他の人の考えの要点や、自分の考えとの共通点・相違点を整理させ、自分の考えを深め、相手の考えを尊重しながら話し合いを進めることができるようにする。</u></p> <p>○ 作者の短歌成立の背景がわかる配布資料を準備する。</p> <p>○ 再構成するのが難しかった短歌を一首選定させる。</p> <p>○ 「作者はどのような心情を情景描写に反映・象徴させようとしたのか」、「作者はなぜこのような構成にしたのか」という着眼点を示すことで、<u>表現と構成に即して感想が出し合えるようにする。</u></p>
整理	5 本時の学習内容を振り返る。	○ 自分の学習内容を振り返る。

教師が一人一人を大切にす  
る姿勢を示す。

「自分が受け入れられてい  
る」と実感できる雰囲気をつくる。

この学習活動を通して、「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」を育成します。

振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。

「体験」を取り入れた学習

高等学校

試行錯誤しながら作品を制作していく過程を通して、自己の生成した主題を効果的に表現する能力を伸ばすとともに、自己についての肯定的態度を育成する学習。

自己尊重の感情

- 自己についての肯定的態度

本時のねらい

- 試行錯誤できる画材（油絵の具）の特性を活かし、描き込みと修正を繰り返す活動を通して、自分の表現したいイメージに近づけさせる。
- 試行錯誤しながら表現方法を工夫し、作品が自分の表現したいイメージに近づく体験を通して、自己肯定感を高めさせる。

	学習活動（100分）	教師の支援・援助
導入	1 前時までの制作途上の生徒作品のうち、数点を鑑賞し、各自の本時の課題や目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 色彩や絵の具の濃度、塗り方等、表現方法の違いがわかるような作品を選んでおく。</li> <li>○ 「描き込み→修正」の繰り返しが可能な画材の特性を活かし、表現したいことを追求するよう助言する。</li> </ul>
	描き込みと修正を繰り返し、自分の表現したいイメージに近づけよう。	
展開	2 用具の準備を行う。  3 制作活動を行う。 ・自分の表現したいイメージを持って、描く対象や空間を描き込む。 ・自分の作品を離れて観たり、製作中の他者の作品を鑑賞したりして、自分の作品を見直す。 ・描き込みと修正を繰り返す。  4 用具を片付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自の個性を活かして、個に応じた助言や支援を行う。</li> <li>○ 必要に応じて全体やグループごとに、お互いの作品を鑑賞させ、構想を練り直す手だてについて交流させる。</li> <li>○ 自分に合った表現を見出したり、表現を見直して深めたりできたところは、承認・賞賛の言葉をかける。</li> <li>○ ルールに基づいた片付け方をさせる。</li> </ul>
整理	5 本時の制作を振り返り、次時に向けて課題を整理し、自己評価シートに記録する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 努力できたことに着目させる。</li> <li>○ 次時の目標設定につながるよう助言する。</li> </ul>

「体験」を取り入れた学習

高等学校

試行錯誤しながら作品を制作していく過程を通して、自己の生成した主題を効果的に表現する能力を伸ばすとともに、自己についての肯定的態度を育成する学習。

自己尊重の感情

- 自己についての肯定的態度

本時のねらい

- 試行錯誤できる画材（油絵の具）の特性を活かし、描き込みと修正を繰り返す活動を通して、自分の表現したいイメージに近づけさせる。
- 試行錯誤しながら表現方法を工夫し、作品が自分の表現したいイメージに近づく体験を通して、自己肯定感を高めさせる。

	学習活動（100分）	教師の支援・援助
導入	<p>1 前時までの制作途上の生徒作品のうち、数点を鑑賞し、各自の本時の課題や目標を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>色彩や絵の具の濃度、塗り方等、表現方法の違いがわかるような作品を選んでおく。</u></li> <li>○ 「描き込みと修正」の繰り返しが可能な画材の特性を活かし、適切な助言を行うよう助言する。</li> </ul>
	描き込みと修正を繰り返し、自分の表現したいイメージに近づけよう。	
展開	<p>2 用具の準備を行う。</p> <p>3 制作活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の表現したいイメージを持って、描く対象や空間を描き込む。</li> <li>・自分の作品を離れて観たり、製作中の他者の作品を鑑賞したりして、自分の作品を見直す。</li> <li>・描き込みと修正を繰り返す。</li> </ul> <p>4 用具を片付け、片付けながら制作を続ける。</p>	<p>教師自身が、一人一人の生徒を大切に示す姿勢を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自の個性を活かして、<u>個に応じた助言や支援を行う。</u></li> <li>○ <u>必要に応じて全体やグループごとに、お互いの作品を鑑賞させ、構想を練り直す手だてについて交流させる。</u></li> <li>○ 自分に合った表現を見出し、表現を見直して深めたりできたところへ承認・賞賛の言葉をかける。</li> </ul> <p>「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。</p>
整理	<p>5 本時の制作を振り返り、次時に向けて課題を整理し、自己評価シートに記録する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 努力できたことに着目させる。</li> <li>○ 次時の目標設定につながるよう助言する。</li> </ul>

学習課題や計画を選択する機会を提供する。

教師自身が、一人一人の生徒を大切に示す姿勢を示す。

この学習活動を通して、「自己についての肯定的態度」を育成します。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

協力的・参加的な学習

高等学校

ユニバーサルデザイン（UD）についての英文を読み、学んだことや経験したことについてまとまりのある文章を書き、それを交流・発表することで自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育成する学習。

人間の尊厳・価値の尊重

○ 自己理解、他者理解

本時のねらい

- 英文を読み、書いてある情報を要約し、その内容について経験を踏まえた意見を、まとまりのある文章として書くことができるようにする。
- ユニバーサルデザインについての考え方を理解するとともに、他の人の意見を取り入れ自分の考えをまとめることで自他の価値を尊重する意欲を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 宿題とされていた日本語での本文要約を指名により発表し、聴く。	○ まとめ方のよい点に着目させる。
ユニバーサルデザインについての英文を読み、自分の意見や感想を英語で書こう。		
展開	2 本文に出てきた製品をユニバーサルデザインの視点から整理する。 ワークシートに記入する。  3 本文演習の英作文を行う。 各自で本文の要約と自分の意見・感想を取り入れて、英作文をする。  4 ペアになり、英作文を発表し合う。  5 発表を聴き、分からなかった点について質問し、お互いの考えを知るとともに参考にする点があれば、取り入れて英作文を完成させる。  6 数名の生徒が英作文を読む。 他の生徒は発表を聞き、「参考メモ」にチェックをする。	○ UDの7つの視点を説明する。 (公平性、自由度、簡単、明確さ、安全性、継続性、空間性) ○ 英文の内容を確認しながら記入し、理解を深めさせる。  ○ 自分の意見を表現するよう指示する。 ○ 文の構成について説明をする。  ○ 相手の発表を傾聴し、参考になる点を記録するために、参考にする観点を提示する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ UDの考え方の説明</li> <li>・ UDの事例</li> <li>・ 自分の意見・感想</li> <li>・ 英文の構成 等</li> </ul> ○ 「参考メモ」には気付いた点を簡単に書くよう指示する。
整理	7 教師のまとめを聞く。	○ 4の発表の内容と構成について、教師が肯定的評価をする。

<ワークシートの例>

本文に出てきた製品をユニバーサルデザインの視点から整理してみよう。

箇所・機能	箇所・機能	公平性	自由度	かんたん	明確さ	安全性	継続性	空間性
自動販売機	硬貨投入口	○		○		○		

<参考メモの例>

項目

参考にする点

英文の読み方	
例の示し方	
自分の意見	
文の構成	

協力的・参加的な学習

高等学校

ユニバーサルデザイン（UD）についての英文を読み、学んだことや経験したことについてまとまりのある文章を書き、それを交流・発表することで自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育成する学習。

人間の尊厳・価値の尊重

○ 自己理解、他者理解

本時のねらい

- 英文を読み、書いてある情報を要約し、その内容について経験を踏まえた意見を、まとまりのある文章として書くことができるようにする。
- ユニバーサルデザインについての考え方を理解するとともに、他の人の意見を取り入れ自分の考えをまとめることで自他の価値を尊重する意欲を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 宿題とされていた日本語での本文要約を指名により発表し、聴く。	○ まとめ方のよい点に着目させる。
ユニバーサルデザインについての英文を読み、自分の意見や感想を英語で書こう。		
展開	<p>2 本文に出てきた製品をユニバーサルデザインの視点から整理する。 ワークシートにまとめる。</p> <p>3 本文演習の英作文を行う。 各自で本文の要約と自分の意見・感想を取り入れて、英作文をする。</p> <p>4 ペアになり、英作文を発表し合う。</p> <p>5 発表を聴き、分からなかった点について質問し、お互いの考えを知るとともに参考にする点があれば、取り入れて英作文を完成させる。</p> <p>6 数名の生徒が英作文を読む。 他の生徒は発表を聞き、「参考メモ」にチェックをする。</p>	<p>○ UDの7つの視点を（公平性、自由度、簡便性、安全性、アクセシビリティ、多機能性、女性性、継続性、空間性）</p> <p>○ <u>英文の内容を確認しながら記入し、理解を深めさせる。</u></p> <p>○ 自分の意見を表現するよう指示する。</p> <p>○ 文の構成について説明をする。</p> <p>○ <u>相手の発表を傾聴し、参考になる点を記録するために、参考にする観点を提示する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ UDの考え方の説明</li> <li>・ UDの事例</li> <li>・ 自分の意見・感想</li> <li>・ 英文の構成</li> </ul> <p>○ 「参考メモ」には気付いた点を簡単に書くよう指示する。</p>
整理	7 教師のまとめを聞く。	○ 4の発表の内容と構成について、教師が肯定的評価をする。

この学習活動を通して、「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」を育成します。

「授業に参加している」という実感を持たせる。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

「体験」を取り入れた学習

高等学校

幼児と一緒におやつを作り交流する実践的・体験的な学習活動を通して、乳幼児の心身の発達と食生活の大切さを理解させるとともに、他者に関心を持ち、よき人間関係を築きながら生活しようとする態度を身に付けさせる学習。

多様性の尊重・共生

○ 他者への関心、協力

単元計画（10時間）

- (1) 乳幼児の心身の発達と生活について理解する。 . . . . . 2時間
- (2) 乳幼児を持つ親が子どもとかかわる姿を観察し、親の役割と保育について考える。 . . . . . 2時間
- (3) 幼児の食生活の大切さを理解し、幼児に適したおやつについて考える。（本時2/2） . . . . . 2時間
- (4) 幼児に適したおやつのレシピを作る。 . . . . . 2時間
- (5) 幼児と一緒におやつを作り交流する。 . . . . . 2時間

本時のねらい

- 複数の市販の幼児用菓子を比較・検討することを通して、幼児にふさわしい手作りおやつについて考えさせる。
- 幼児の食生活に興味・関心をもち、幼児と適切にかかわろうとする実践的な態度の育成を図る。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいや進め方をつかむ。	○ 前時のワークシートで幼児期における間食の意義について確認し、本時の学習の見通しを持たせる。
	市販の幼児用菓子を比較・検討して、幼児に適した手作りおやつについて考えよう。	
展開	<p>2 各班で、市販のスナック菓子と同じ商品の幼児用菓子を食べ比べ、感想を出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ・形状が小さい。・口のなかでもろい。・油が少ない。                      ・食塩相当量が少ない。                      ・ビタミンやミネラルの含有量が少ない。                      ・水分を同時にとる必要がある。                 </div> <p>3 各班の発表を聞いて、4種類の幼児用菓子に共通していることを各自でワークシートにまとめる。</p> <p>4 各班で、幼児に適した手作りおやつについて話し合い、全体で交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ・栄養的な偏りが少ないもの                      ・薄味で甘味、塩味の強くないもの                      ・消化のよいもの                      ・ある程度の容積を持ち、満足感を与えられるもの                      ・脂肪や糖質の多すぎないもの                 </div>	<p>○ 「見た目、食感、味、油の量」という食べ比べる時の視点を示したり、包装袋の栄養成分表示に注目させたりして、班の意見をまとめることができるようにする。</p> <p>○ 黒板に掲示した4種類の幼児用菓子の栄養成分表示一覧を参考にし、「エネルギー・栄養素・水分の補給」という間食の意義を踏まえ、まとめるよう指示する。</p> <p>○ 「栄養素の種類と機能」「食品の栄養的特質と調理上の性質」などの既習事項を想起させ、自分の考えが持てるようにする。</p> <p>○ 他の人の考えの根拠を確かめる質問をさせ、互いを尊重しながら、話し合いを進めることができるようにする。</p>
整理	5 本時の学習を振り返り、次時の確認をする。 ・本時の学習で気付いたこと ・次時の予告	<p>○ 振り返りシートに気付いたことを記入させる。</p> <p>○ 次時は、幼児用手作りおやつのレシピを作ることを伝える。</p>

「体験」を取り入れた学習

高等学校

幼児と一緒におやつを作り交流する実践的・体験的な学習活動を通して、乳幼児の心身の発達と食生活の大切さを理解させるとともに、他者に関心を持ち、よき人間関係を築きながら生活しようとする態度を身に付けさせる学習。

多様性の尊重・共生

○ 他者への関心、協力

単元計画（10時間）

- (1) 乳幼児の心身の発達と生活について理解する。 . . . . . 2時間
- (2) 乳幼児を持つ親が子どもとかかわる姿を観察し、親の役割と保育について考える。 . . . . . 2時間
- (3) 幼児の食生活の大切さを理解し、幼児に適したおやつについて考える。（本時2/2） . . . . . 2時間
- (4) 幼児に適したおやつのレシピを作る。 . . . . . 2時間
- (5) 幼児と一緒におやつを作り交流する。 . . . . . 2時間

本時のねらい

- 複数の市販の幼児用菓子を比較・検討することを通して、幼児にふさわしい手作りおやつについて考えさせる。
- 幼児の食生活に興味・関心をもち、幼児と適切にかかわろうとする実践的な態度の育成を図る。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいや進め方をつかむ。	○ 前時のワークシートで幼児期における間食の意義について確認し、本時の学習の見通しを持たせる。
	市販の幼児用菓子を比較・検討して、幼児に適した手作りおやつをつくる。	
展開	<p>2 各班で、市販のスナック菓子と同じ商品の幼児用菓子を食べ比べ、感想を出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形状が小さい。・口のなかでもろい。・油が少ない。</li> <li>・食塩相当量が少ない。</li> <li>・ビタミンやミネラルの含有量が少ない。</li> <li>・水分を同時にとる必要がある。</li> </ul> </div> <p>3 各班の発表を聞いて、4種類の幼児用菓子に共通していることを各自でワークシートにまとめる。</p> <p>4 各班で、幼児に適した手作りおやつについて話し合い、全体で交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養的な偏りが少ないもの。</li> <li>・薄味で甘味、塩味の強くないもの。</li> <li>・消化のよいもの。</li> <li>・ある程度の容積を持ち、満足感を与えられるもの。</li> <li>・脂肪や糖質の多すぎないもの。</li> </ul> </div>	<p>○ 「見た目、食感、味、油の量」という食べ比べる時の視点を示したり、包装等の栄養成分表示に注目させたりして、<u>班の意見をまとめる</u>ことができるようにする。</p> <p>○ 黒板に掲示した4種類の幼児用菓子の栄養成分表示一覧を参考にし、「エネルギー・栄養素・水分の補給」という観点から、<u>まとめるようにする。</u></p> <p>○ 「栄養素の種類と機能」「食品の栄養的特質と調理上の性質」などの既習事項を想起させ、<u>自分の考えが持てるようにする。</u></p> <p>○ <u>他の人の考えの根拠を確かめる質問をさせ、互いを尊重しながら、話し合いを進めることができるようにする。</u></p>
整理	5 この学習活動を通して、「他者に関心を持ち、よき人間関係を築きながら生活しようとする態度」を育成します。	<p>○ 振り返りシートを作成し、振り返りさせる。</p> <p>○ 次時は、<u>互いの学びを交流する機会</u>を提供する。</p>

「体験」を取り入れた学習

高等学校

買物の場面でのロールプレイングを行うことで、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに異文化理解を図る学習。

多様性の尊重・共生

○ 異文化理解

本時のねらい

- ロールプレイングを通して、買物の場面で用いられる特有の英語表現を、的確に理解したり適切に伝えたりすることができるようにする。
- ALTとのロールプレイングを通して、英語での買物の仕方を学習することで、文化や習慣には多様性があることを知る。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 ペアで挨拶を行う。	○ 相手に対する配慮を促す。
	英語で買物ができるようになろう。	
展開	2 洋服を買う際の英語表現を理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Can I help you?</li> <li>・ I'm looking for ~.</li> <li>・ What color do you want?</li> <li>・ I'd like a (red) one.</li> <li>・ What size do you wear?</li> <li>・ Medium, please.</li> <li>・ I'd like to try~on.</li> <li>・ Do you have~?</li> <li>・ How much~?</li> <li>・ I'll take it.</li> </ul> <p style="text-align: center;">等</p> </div> 3 2の英語表現を対話練習する。 4 ALTが店員役となった店に何組かのペアまたはグループが買物をする。 それぞれ、前もって与えられた100ドルの中から支払う。 おつりを確かめる。	○ JTEとALTがデモンストレーションをする。その際に、リズムやイントネーションなどの英語の音声的特徴、話す速度、声の大きさなどに注意させる。  ○ ペア、グループ、授業者との練習などの学習形態をとり、個に応じた支援を行う。  ○ 積極的な参加ができるよう具体的な買物の場面を設定する。(ジーンズ、Tシャツ等の写真や絵で作った「商品」、「紙幣」、「硬貨」等を準備する。) ○ 場合によっては、おつりを故意に間違える。

	学習活動	教師の支援・援助
展開	5 4の買物で、気付いた点やもっと知りたい英語表現を日本語で発表する。	<p>○ 生徒の気付いた点やもっと知りたい英語表現について、JTEとALTが英語で対話をする。</p> <p>○ おつりの渡し方について説明を加え、買い物の際の習慣の違いなどの補足説明をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【例】</b>  35ドル75セントの商品を50ドル紙幣で支払った場合には、店員は次のように言いながら、おつりを渡すことが多い。</p> <p>① 商品の値段「35ドル75セント」  ② 25セント渡し、「36ドル」  ③ 4ドル渡し、「40ドル」  ④ 10ドル渡し、「50ドル」</p> <p>客の手元に計14ドル25セントが渡る。つまり、商品の金額におつりを足して行って、客が渡した金額にする。</p> </div>
整理	6 教師のまとめを聞く。	<p>○ 本時、学習した英語表現を確認する。</p> <p>○ 文化や店舗によって多様な習慣があることを、例を紹介しながら話す。</p>

「体験」を取り入れた学習

高等学校

買物の場面でのロールプレイングを行うことで、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに異文化理解を図る学習。

多様性の尊重・共生

○ 異文化理解

本時のねらい

- ロールプレイングを通して、買物の場面で用いられる特有の英語表現を、的確に理解したり適切に伝えたりすることができるようにする。
- ALTとのロールプレイングを通して、英語での買物の仕方を学習することで、文化や習慣には多様性があることを知る。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 ペアで挨拶を行う。	○ 相手に対する配慮を促す。
	英語で買物ができるようになろう。	
展開	2 洋服を買う際の英語表現を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Can I help you?</li> <li>・ I'm looking for ~.</li> <li>・ What color do you want?</li> <li>・ I'd like a (red) one.</li> <li>・ What size do you wear?</li> <li>・ Medium, please.</li> <li>・ I'd like to try~on.</li> <li>・ Do you have~?</li> <li>・ How much~?</li> <li>・ I'll take it.</li> </ul> 等	○ JTEとALTがデモンストレーションをする。その際に、リズムやイントネーションなどの英語の音声的特徴、話す速度、声の大きさなどに注意させる。
	3 2の英語表現を対話練習する、 4 ALTが店員役となった店に何組かのペアまたはグループが買物をする。 それぞれ、前もって与えられた100ドルの中から支払う。 おつりを確かめる。	○ ペア、グループ、授業者との練習などの学習形態をとり、個に応じた支援を行う。 ○ <u>積極的な参加ができるよう具体的な買物の場面を設定する。</u> （ジーンズ、Tシャツ等の写真や絵で作った「商品」、「紙幣」、「硬貨」等を準備する。） ○ 場合によっては、おつりを故意に間違える。
	この学習活動を通して、「文化や習慣には多様性があることを知り、互いに違いを認め合いながら、共に生きようとする態度」を育成します。	

表現方法を選択する機会を提供する。

	学習活動	教師の支援・援助
展開	<p>5 4の買物で、気付いた点やもっと知りたい英語表現を日本語で発表する。</p> <p>この学習活動を通して、「他者に興味・関心を持ち、よき人間関係を築きながら生活しようとする態度」を育成します。</p>	<p>○ <u>生徒の気付いた点やもっと知りたい英語表現について、JTEとALTが英語で対話をする。</u></p> <p>○ おつりの渡し方について説明を加え、買い物の際の習慣の違いなどの補足説明をする。</p> <p>教師が一人一人を大切にする姿勢を示す。</p> <p>【例】  35ドル75セントの商品を50ドル紙幣で支払った場合には、店員は次のように言いながら、おつりを渡すことが多い。  ① 商品の値段「35ドル75セント」  ② 25セント渡し、「36ドル」  ③ 4ドル渡し、「40ドル」  ④ 10ドル渡し、「50ドル」  客の手元に計14ドル25セントが渡る。つまり、商品の金額におつりを足して行って、客が渡した金額にする。</p>
整理	6 教師のまとめを聞く。	<p>○ 本時、学習した英語表現を確認する。</p> <p>○ 文化や店舗によって多様な習慣があることを、例を紹介しながら話す。</p>

# 第1学年ホームルーム活動

## 題材名「ネット掲示板での誹謗・中傷の解決方法を考えよう」

協力的・参加的な学習

高等学校

ネット掲示板での誹謗・中傷の具体的事例についての話し合いを通して、解決方法を考えさせるとともに、人権の観点から自己自身の行為に責任を負おうとする実践的な態度を身に付けさせる取組。  
(『あおぞら』教材の活用)

権利と責任

○ 責任、自己決定

### 本時のねらい

- ネット掲示板での誹謗・中傷の具体的事例についての話し合いを通して、解決方法を考えさせる。
- 人権の観点から自己自身の行為に責任を負おうとする実践的な態度を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいや進め方をつかむ。 ○ ネット掲示板についての生徒アンケートの集約結果を見て、課題意識を持つ。	○ 事前にアンケートを実施し、その集約結果を示すことで、課題が把握できるようにする。 ○ 教師によるネットパトロールの取組を個人情報に配慮しながら紹介する。
ネット掲示板での誹謗・中傷の具体的事例についての話し合い、解決方法を考えよう。		
展開	2 『あおぞら』教材「ぶつけられた言葉」より、自分の悪口を書き込まれた生徒の思い【エピソード2：ある日、突然】を見て、解決方法を探る。 ○ 自分の考えを付箋紙に書く。  3 グループでランキングを行い、解決方法を整理・統合して発表用シートに書く。  4 グループで話し合った内容を発表する。 ○ 他グループの発表を聞いて気付いたことをホームルーム活動カードに記入する。	○ 書き込まれた生徒の心理の推移を洞察させることで、課題解決への意欲を高めさせる。 ○ 「私が友だちのアヤだったら、きっとこうするだろう」というテーマを与え、付箋紙に解決方法を記入させる。  ○ 「実現可能で責任ある対処の仕方」という視点を示し、優先順位をつけることができるようにする。 ○ プロセスが重要であり、グループとして一つの結果を出していくことが必ずしも一番の目的ではないことを伝え、自分の考えを大切にするとともに、他者の考えを受け入れられるようにする。 ○ ランキングの結果だけではなく、合意形成を行っていく中で気付いたことについても発表するよう助言する。 ○ 発表用シートを黒板に掲示し、全体で共有できるようにする。
整理	5 人権の観点から果たすべき役割や行動を自己決定し、本時の活動をまとめる。 ○ 教師の話を聞く。 ○ 本時学習で気付いたことを踏まえ、「これから実行・実践したいこと」をホームルーム活動カードに記入する。	○ 資料「一年生の皆さんへ」（福岡県高等学校人権・同和教育研究協議会発行『ネット掲示板と人権』より一部改変）を配布し、実践への意欲を高める。

# 第1学年ホームルーム活動

## 題材名「ネット掲示板での誹謗・中傷の解決方法を考えよう」

**協力的・参加的な学習**  
 高等学校

ネット掲示板での誹謗・中傷の具体的事例についての話し合いを通して、解決方法を考えさせるとともに、人権の観点から自己自身の行為に責任を負おうとする実践的な態度を身に付けさせる取組。  
 (『あおぞら』教材の活用)

**権利と責任**  
 ○ 責任、自己決定

### 本時のねらい

- ネット掲示板での誹謗・中傷の具体的事例についての話し合いを通して、解決方法を考えさせる。
- 人権の観点から自己自身の行為に責任を負おうとする実践的な態度を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいや進め方をつかむ。 ○ ネット掲示板についての生徒アンケートの集約結果を見て、課題意識を持つ。	○ 事前にアンケートを実施し、その集約結果を示すことで、課題が把握できるようにする。 ○ 教師によるネットパトロールの取組を個人情報に配慮しながら紹介する。
ネット掲示板での誹謗・中傷の具体的事例についての話し合い、解決方法を考えよう。		
展開	2 『あおぞら』教材「ぶつけられた言葉」より、自分の悪口を書き込まれた生徒の思い【エピソード2：ある日、突然】を見て、解決方法を探る。 ○ 自分の考えを付箋紙に書く。  3 グループでランキングを行い、解決方法を整理・統合して発表用シートに書く。  4 グループで話し合った内容を発表する。 ○ 他グループの発表を聞いて気付いたことをホームルーム活動カードに記入する。	○ 書き込まれた生徒の心理の推移を洞察させることで、課題解決への意欲を高めさせる。 ○ 「私が友だちのアヤだったら、きっとこうするだろう」というテーマを与え、付箋紙に解決方法を記入させる。  ○ 「 <b>授業に参加している」という実感を持たせる。</b> ○ 「 <b>共に学ぶ仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。</b> ○ 「 <b>実現可能な責任ある対処の仕方</b> 」という視点を示すことができるようにする。 ○ フロントが重要で、グループとして一つの結果を出していくことが必ずしも一番の目的ではないことを伝え、 <b>自分の考えを大切にするとともに、他者の考えを受け入れられるようにする。</b> ○ <b>ランキングの結果だけではなく、合意形成を行っていく中で気付いたことについても発表するよう</b> 助言する。 ○ 発表用シートを黒板に掲示し、全体で共有できるようにする。
整理	5 人権の観点から果たすべき役割や行動を自己決定し、本時の活動をまとめる。 ○ 教師の話を聞く。 ○ 本時学習で気付いたことを踏まえ、「これから実行・実践したいこと」をホームルーム活動カードに記入する。	○ 資料「一年生の皆さんへ」（福岡県高等学校人権・同和教育研究協議会発行『ネット掲示板と人権』より一部改変）を配布し、実践への意欲を高める。 ○ <b>この学習活動を通して、「人権の観点から自己自身の行為に責任を負おうとする実践的な態度」を育成します。</b>

「体験」を取り入れた学習

高等学校

地域社会の課題把握と課題解決を図るボランティア活動を通して、探究活動に当事者意識をもって取り組む能力と態度や、他者と協同して積極的に地域社会に参加・参画していこうとする意欲や態度の育成を図る取組。

参加・参画

○ 連携、参画、行動

【「体験的な学習」に関する学習サイクルに基づく総合的な学習プログラム例】

この事例は、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動を問題の解決や探究活動の過程に位置付けることで、よりよい社会の実現を目指し、積極的に社会参加・参画していこうとする意欲や態度を身に付けることをねらった、総合的な学習の時間のプログラム例です。

学校における人権教育全体の中での意義を明確にしなが、地域の人との意見交換、交流活動や、調査・研究、発表などの学習活動の工夫を図っています。これにより、「体験」、「話し合い」、「反省」、「現実生活と関連させた思考」の段階を経て、それぞれの「自己の行動や態度への適用」へと進んでいくよう、取組が系統的に展開されています。

ここでは、取組全体の学習プログラム例を紹介しています。

（「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」参照）

単元の目標

問題解決能力	自ら見付けた地域社会の課題に関して主体的に学習活動を繰り広げ、自分なりに納得のできる答えを探し求めることができる。
学び方や考え方	各教科等で身に付けた知識、技能を総合的に活用してボランティア活動計画を立て、「課題解決の提言リーフレット」を作成することができる。
主体的・創造的・協同的な態度	友達と一緒に活動したり話し合ったりしながら、自己を振り返り自分の考えや意見を再構築できる。
自己の在り方生き方	地域社会とのかかわりにおいて、自らの生活や行動について考え、学習の成果から達成感を持ち、自分のよさや可能性に気付くことができる。

単元計画

この一連の学習活動を通して、「他者と協同して積極的に地域社会に参加・参画していこうとする意欲や態度」を育成します。

事前の学習活動

1 「地域社会を見つめ、課題を設定しよう！」

- 単元ガイダンスでねらいを知り、学習の見通しをもつ。
- 地域講師による講話や調査活動によって情報を収集し、地域社会への問題意識を高める。
- 情報を整理・分類して個人課題を設定する。
  - ・個人で仮設定 → 類似グループで検討 → 教師との課題設定面談 → 決定
- 類似課題グループ（伝統、環境、観光、文化、産業、福祉）で課題探求計画を立てる。

## 2 「調査活動により地域社会の現状を知り、課題解決のヒントをつかもう！」

- 各グループの課題研究計画を基に協同的な調査活動を行い、情報を収集・整理・分析して課題解決のヒントをつかむ。
  - ・ 町づくりや社会福祉に取り組むNPO、観光協会や、商工会議所、行政担当者等、様々な立場の人へのインタビューやアンケート調査
  - ・ 商店街の消費動向の推移、販売戦略、地場産業など地域の経済活動に関する実態調査
  - ・ 地域の歴史、伝統、文化、産業、経済などに関する文献調査
- 個人で、調査結果の妥当性を考えたり、自己の在り方生き方を見直したりして、課題解決シートをまとめる。

## 3 「我ら町のお助け隊の活動計画をつくろう！」

- 各自の課題解決シートを基に、類似グループごとに「我ら町のお助け隊」の活動計画（活動内容とねらい）を立てる。

活動名	活動内容とねらい
地域おこしクラブ	各種地域おこし推進団体と連携した地域おこし事業に取り組むことで、地域を活性化させようとする意欲を高める。
落書き消し隊	落書き消しや壁画制作など地域の環境美化に協力することで、地域の発展に努め、安全・安心なまちづくりへの参画意識を高める。
動物園支援事業	動物園関係者等との交流や動物園の各種イベントに携わることで、社会性を身に付け、企画運営力を高める。
食の祭典	スローフードフェスタにおいて本校で生産した農産物の販売、他の出展者の補助をすることで、地域で意欲的に活動する態度を養う。
地域交流	幼稚園児に農業体験を指導し、交流を図ることで、地域や他者のために行動しようとする態度を身に付ける。
生き生きサロン	高齢者との交流や、趣味・リハビリの提供を通して、地域社会に貢献しようとする態度を身に付ける。

# 我ら町のお助け隊の実施

## 事後の学習活動

## 4 「地域の課題解決策を提言しよう！」

- 我ら町のお助け隊の活動を振り返り、新たな発見や気づきを整理し、追究課題の答えを考える。
- 各グループで「課題解決の提言リーフレット」を作成し、提言を日常的に実践し始める。
- 地域講話、調査活動、ボランティア活動でお世話になった方を招いてリーフレット説明会を開催する。

## 5 「学習を振り返り、成果と課題を確認しよう！」

- 自己評価カードで活動を振り返り、教師との成果面談で成果と課題を確認する。

## 第2学年公民科・「現代社会」

単元名「犯罪被害者等の抱える諸問題について理解し、どのような支援が必要か考えよう。」

協力的・参加的な学習

高等学校

犯罪被害者等の抱える諸問題について理解し、支援策を考察することを通して、他者の人格を尊重し、他者に対して公正な配慮を行うことの重要性について自覚を深めさせるとともに、社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度を身に付けさせる学習。

参加・参画

○ 連携、参画

### 本時のねらい

- 犯罪被害者等の抱える諸問題について理解し、支援策を考察することを通して、他者の人格を尊重し、他者に対して公正な配慮を行うことの重要性について自覚を深めさせる。
- 積極的に社会に参加・参画し、社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 学習の見通しを持ち、本時学習のめあてを確認する。</p>	<p>○ 犯罪被害者等基本法の前文を配布し、めあてをつかませる。</p>
	<p>犯罪被害者等の抱える諸問題について理解し、どのような支援が必要か考えよう。</p>	
展開	<p>2 犯罪被害者等の抱える諸問題について理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣やマスコミなどから二次的被害に会うこともある。</li> <li>・家族もショックを受けて、お互いを支え合うという精神的な余裕を失いがちになる。</li> <li>・転居や自宅以外に居場所が必要になることがある。</li> <li>・捜査や裁判などの負担がある。</li> <li>・弁護士費用など予期しない出費が必要となる。</li> </ul> </div> <p>3 犯罪被害者と家族に必要な支援策について、「国や地方公共団体が行うこと」、「私たちにできること（もし自分の友だちが犯罪被害者等だったら）」という二つの視点から考える。</p> <p>(1) 自分の考えをワークシートに記入する。</p> <p>(2) 班で話し合い、全体で交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国や地方公共団体が行うこと</li> <li>・犯罪被害者等が抱える問題を多くの国民に理解させる。</li> <li>・犯罪被害者等を専門的にケアする医療関係者を育成する。</li> <li>・公営住宅へ優先的に入居できるようにする。</li> <li>・弁護士費用を国が出すようにする。</li> <li>○私たちにできること</li> <li>・裁判所や病院へ付き添う。</li> <li>・いつも通りに接する。</li> <li>・意見をはさまずに話を聞く。</li> <li>・家事など周りのことする。</li> </ul> </div> <p>(3) 全体交流で気付いたことを踏まえ、自分の考えを付加修正する。</p>	<p>○ 内閣府「犯罪被害者等に関する国民意識調査」（平成21年）、福岡県「犯罪被害者等支援の手引き」（平成23年）の一部を資料として提示し、資料から読み取れる事実を基に自分の考えを深めさせる。</p> <p>○ 第2次犯罪被害者等基本計画（平成23年）の4つの基本方針を示し、支援策が考えられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・4つの基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 尊厳にふさわしい処遇を権利として保障すること</li> <li>② 個々の事情に応じて適切に行われること</li> <li>③ 途切れなく行われること</li> <li>④ 国民の総意を形成しながら展開される</li> </ol> </div> <p>○ 第2次犯罪被害者等基本計画の5つの重点課題を示し、話し合いが行えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・5つの重点課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 損害回復・経済的支援等の取組</li> <li>② 精神的・身体的被害の回復・防止への取組</li> <li>③ 刑事手続への関与の取組</li> <li>④ 支援等のための体制整備への取組</li> <li>⑤ 国民の理解の増進と配慮・協力の確保の取組</li> </ol> </div>
整理	<p>4 本時の学習を振り返り、振り返りシートに記入する。</p>	<p>○ グループ交流や全体交流を通して、気付いたこと振り返りシートに記入させる。</p>

## 第2学年公民科・「現代社会」

単元名「犯罪被害者等の抱える諸問題について理解し、どのような支援が必要か考えよう。」

協力的・参加的な学習

高等学校

犯罪被害者等の抱える諸問題について理解し、支援策を考察することを通して、他者の人格を尊重し、他者に対して公正な配慮を行うことの重要性について自覚を深めさせるとともに、社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度を身に付けさせる学習。

参加・参画

○ 連携、参画

### 本時のねらい

- 犯罪被害者等の抱える諸問題について理解し、支援策を考察することを通して、他者の人格を尊重し、他者に対して公正な配慮を行うことの重要性について自覚を深めさせる。
- 積極的に社会に参加・参画し、社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習の見通しを持ち、本時学習のめあてを確認する。	○ 犯罪被害者等基本法の前文を配布し、めあてをつかませる。
	犯罪被害者等の抱える諸問題について理解し、どのような支援が必要か考えよう。	
展開	<p>2 犯罪被害者等の抱える諸問題について理解する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣やマスコミなどから二次的被害に会うこともある。</li> <li>・家族もショックを受けて、お互いを支え合うという精神的な余裕を失いがちになる。</li> <li>・転居や自宅以外に居場所</li> <li>・捜査や裁判などの負担が</li> <li>・弁護士費用など予期しない</li> </ul> <p>3 犯罪被害者と家族に必要な支援策について、「国や地方公共団体が行うこと」、「私たちにできること（もし自分の友だちが犯罪被害者等だったら）」という二つの視点から考える。</p> <p>(1) 自分の考えをワークシートに記入する。</p> <p>(2) 班で話し合い、全体で交流する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国や地方公共団体が行うこと</li> <li>・犯罪被害者等が抱える問題を多くの国民に理解させる。</li> <li>・犯罪被害者等を専門的にケアする医療関係者を育成する。</li> <li>・公営住宅へ優先的に入居できるようにする。</li> <li>・弁護士費用を国が出すようにする。</li> <li>○私たちにできること</li> <li>・裁判所や病院へ付き添う。</li> <li>・いつも通りに接する。</li> <li>・意見をはさまずに話を聞く。</li> <li>・家事など周りのことする。</li> </ul> <p>(3) 全体交流で気付いたことを踏まえ、自分の考えを付加修正する。</p>	<p>○ 内閣府「国民意識調査」（平成23年）、「福岡県「犯罪被害者等支援の手引き」（平成23年）の一部を資料として提示し、資料から読み取れる事実を基に自分の考えを深めさせる。</p> <p>○ <u>第2次犯罪被害者等基本計画（平成23年）の4つの基本方針を示し、支援策が考えられるようにする。</u></p> <p>・4つの基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 尊厳にふさわしい処遇を権利として保障すること</li> <li>② 個々の事情に応じて適切に行われること</li> <li>③ 途切れなく行われること</li> <li>④ 国民の総意を形成しながら展開される</li> </ol> <p>○ 第2次犯罪被害者等基本計画の5つの重点課題を示し、話し合いが行えるようにする。</p> <p>5つの重点課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 被害回復・経済的支援等の取組</li> <li>② 精神的・身体的被害の回復・防止への取組</li> <li>③ 刑事手続への関与の取組</li> <li>④ 支援等のための体制整備への取組</li> <li>⑤ 国民の理解の増進と配慮・協力の確保の取組</li> </ol>
整理	4 本時の学習を振り返り、振り返りシートに記入する。	○ この学習活動を通して、「社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度」を育成します。

「授業に参加している」という実感を持たせる。

学習方法を選択する機会を提供する。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

この学習活動を通して、「社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度」を育成します。

## 第2学年福祉科・「コミュニケーション技術」

単元名「サービス利用者の状況に応じたコミュニケーション技術を身に付けよう」

「体験」を取り入れた学習

高等学校

具体的な援助場面を設定したロールプレイングのシナリオ作成と発表を通して、サービス利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションに関する基本的な知識と技術を習得させるとともに、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育成する学習。

想像力・共感力

○ 想像力、共感力

### 本時のねらい

- ロールプレイングのシナリオ作成や発表を通して、認知症のある高齢者の状況や状態に応じたコミュニケーションに関する基本的な知識と技術を習得させる。
- 認知症のある高齢者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいや進め方をつかむ。	○ 介護施設実習ノートより、利用者とのコミュニケーションの難しさについての記述をいくつか紹介し、学習のねらいをつかませる。
	認知症のある高齢者の状況や状態に応じたコミュニケーションに関する基本的な知識と技術を身に付けよう。	
展開	2 各班で、認知症のある高齢者とのコミュニケーションの留意点について話し合う。 3 認知症のある高齢者の援助に関するロールプレイングのシナリオを作成する。 4 ロールプレイングによる発表を行い、相互評価する。 〈シナリオ例〉 ・「ウメさん、今日の服はリーバーシブルなんですね。私は、裏側の赤い色の方がウメさんにはお似合いだと思いますよ。裏返しで着てみてはどうでしょうか。」（不快感を与える言葉や、子ども扱いなど、自尊心を傷つけるような言動は避ける。） ・「お家に帰りたいですよね。そのお気持ちわかりますよ。施設に入所されて1カ月になりますし、家の方が落ち着きますもんね。」（「帰りたい」という気持ちを否定せず受け入れる。） ・「今日は、もう、こんなに暗くなりましたので、帰る途中で何かあったら大変だと心配しています。明日、家に帰れるよう、息子さんにも相談してみますので、とりあえず今日は施設に泊まりましょうか。」（スキンシップを取り入れ、孤独感をやわらげながら、今がどういう状況をゆっくり丁寧に説明する。）	○ 前時に学んだ言語と非言語による両面通行のコミュニケーション技法を活用することで、スムーズに話し合えるようにする。 ○ 具体的な場面設定を行う。 ○ 「コミュニケーションの流れ」と「援助の留意点」について話し合わせ、シナリオシートに記入させる。 福岡ウメさん（83歳）は、施設に入所して1カ月になります。認知症の症状が見られます。今日は久しぶりに息子さんが面会に来てくれて、日中は気分も穏やかでした。しかし、夜になると「家に帰りたい」と言って騒ぎます。今も上着を裏返しに着て自宅に帰る支度をし、廊下を歩いています。上着を直し、福岡さんの気持ちが落ち着くよう援助してみましよう。 ○ 「サービス利用者の感情表現の察し方」「納得と同意の得方」「質問の仕方」「意欲の引き出し方」という視点を示すことで、相互評価が行えるようにする。 ○ 良かった点と改善すべき点を相互評価シートに記入させ、全体交流ができるようにする。
整理	5 本時の学習を振り返り、次時の確認をする。 ・本時の学習で気付いたこと ・次時の予告	○ 自己評価シートに記入させる。 ○ 次時はサービス利用者と家族の意向を調整する技法を学ぶことを伝える。

## 第2学年福祉科・「コミュニケーション技術」

単元名「サービス利用者の状況に応じたコミュニケーション技術を身に付けよう」

「体験」を取り入れた学習

高等学校

具体的な援助場面を設定したロールプレイングのシナリオ作成と発表を通して、サービス利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションに関する基本的な知識と技術を習得させるとともに、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育成する学習。

想像力・共感力

○ 想像力、共感力

### 本時のねらい

- ロールプレイングのシナリオ作成や発表を通して、認知症のある高齢者の状況や状態に応じたコミュニケーションに関する基本的な知識と技術を習得させる。
- 認知症のある高齢者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいや進め方をつかむ。	○ 介護施設実習ノートより、利用者とのコミュニケーションの難しさについての記述をいくつか紹介し、学習のねらいをつかませる。
	認知症のある高齢者の状況や状態に応じたコミュニケーションに関する基本的な知識と技術を身に付けよう。	
展開	<p>2 各班で、認知症のある高齢者とのコミュニケーションの留意点について話し合う。</p> <p>3 認知症のある高齢者の援助に関するロールプレイングのシナリオを作成する。</p> <p>4 ロールプレイングによる発表を行い、相互評価する。</p> <p>〈シナリオ例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウメさん、今日の服はリーバーシブルなんですね。私は、裏側の赤い色の方がウメさんにはお似合いだと思いますよ。裏返しで着てみてはどうでしょうか。」（不快感を与える言葉や、子ども扱いなど、自尊心を傷つけるような言動は避ける。）</li> <li>・「お家に帰りたくて施設に入所されて1カ月になりますし、家のことを心配しますもんね。」（「帰りたくて」という気持ちを否定せず受け入れる。）</li> <li>・「今日は、もう、こんなに暗くなりましたので、帰る途中で何かあったら大変だと心配しています。明日、家に帰れるよう、息子さんにも相談してみますので、とりあえず今日は施設に泊まりましょうか。」（スキンシップを取り入れ、孤独感をやわらげながら、今がどういう状況をゆっくり丁寧に説明する。）</li> </ul>	<p>○ 前時に学んだ言語による両面通行のコミュニケーションを活用することで、スムーズに話し合えるようにする。</p> <p>○ 具体的な場面設定を行う。</p> <p>○ 「<u>コミュニケーションの流れ</u>」と「<u>援助の留意点</u>」について話し合わせ、シナリオシートに記入させる。</p> <p>福岡ウメさん（83歳）は、施設に入所して1カ月になります。認知症の症状が見られます。今日は久しぶりに息子さんが面会に来てくれて、日中は気分も穏やかでした。しかし、夜になると「家に帰りたい」と言って騒ぎます。今も上着を裏返しに着て自宅に帰る支度をし、廊下を歩いています。上着を直し、福岡さんの気持ちが落ち着くよう援助してみましょう。</p> <p>○ 「<u>サービス利用者の感情表現の察し方</u>」「<u>納得と同意の得方</u>」「<u>質問の仕方</u>」「<u>意欲の引き出し方</u>」という視点を示すことで、相互評価が行えるようにする。</p> <p>○ <u>良かった点と改善すべき点を相互評価シートに記入させ、全体交流ができるようにする。</u></p>
整理	5 この学習活動を通して、「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」を育成します。	<p>○ 「<u>共に学び合う仲間だ</u>」と実感できる雰囲気をつくる。</p> <p>○ 他者の意向を調整する技法を学ぶことを伝える。</p>

「自分が必要とされている」という実感を持たせる。

学習方法を選択する機会を提供する。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

# 第1学年地理歴史科・「世界史A」

単元名「自分たちの住む身近な地域と世界との関係や交流について調べ考察しよう」

協力的・参加的な学習

高等学校

身近な地域と世界の歴史のつながりにかかわる主題を設定し考察する活動を通して、世界史学習の基本的技能に触れ、世界史への興味・関心を高めさせるとともに、他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能を身に付けさせる学習。

コミュニケーション能力

○ 人間関係づくり

単元計画（10時間）

- (1) 学習課題を設定し、調査計画を立てる。（本時2/2）・・・2時間
- (2) 学習課題についての情報を収集・整理し、イメージマップにまとめる。・・・2時間
- (3) 収集・整理した情報を考察し、年表や地図に表現する。・・・2時間
- (4) 学習成果を発表し合う。・・・2時間

## 本時のねらい

- 自分たちの住む身近な地域と世界との関係や交流について学習課題を設定し、適切に役割分担しながら調査計画を立てることができる。
- 学習課題の決定・選択や共同調査に関する話し合いを通して、他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習の見通しをもち、単元目標をつかむ。 (1) 調査研究の進め方について「調査研究のしおり」で確認する。	○ 前時学習を振り返り、学習課題の設定、資料の収集・読取り、考察・まとめという調査研究の進め方を確認させる。
自分たちの住む身近な地域と世界との関係や交流について学習課題を設定し、適切に役割分担しながら調査計画を立てよう。		
展開	2 グループで学習課題を設定する。 (1) 教師が提示した学習課題の中から自己決定・自己選択する。 ○「カナダの英字新聞『The New Canadian』の社主梅月高市」 ○「ドジャース球団オーナー補佐・アイク・生原」 ○「古代の環日本海交易～秋田犬をてがかりに～」 ○「三毛門カボチャが来た道」 ○「香春神社～新羅の神自ら渡り来る～」 ○「日常生活の中のイスラーム文明」 ○「おいべっさん・七福神の謎」	○ 生徒のこれまでの生活経験や中学校での学習経験を踏まえた学習課題と調査研究の視点を提示し、学習意欲を高めさせる。 ○ 自分の考えを的確に表現し、相手の考えを的確に理解しながら合意を形成させ、グループでの決定・選択ができるようにする。 ○ 文献、インタビュー、現場に行つての観察や聞き取りなどの調査方法を示し、調査計画が立てられるようにする。 ○ 「調査研究のしおり」に学校図書館や公共図書館等が所蔵する文献一覧や、遺跡・遺物・博物館・資料館等の一覧を記載し、適切な役割分担が行えるようにする。 ○ 調査方法の不適切な部分や、研究計画の実現可能性について助言し、調査計画書を読み直させる。
整理	4 本時の学習を振り返り、振り返りシートに記入する。	○ 気付いたことや自分の考えが深まったことを振り返りシートに記入させる。

# 第1学年地理歴史科・「世界史A」

単元名「自分たちの住む身近な地域と世界との関係や交流について調べ考察しよう」

協力的・参加的な学習

高等学校

身近な地域と世界の歴史のつながりにかかわる主題を設定し考察する活動を通して、世界史学習の基本的技能に触れ、世界史への興味・関心を高めさせるとともに、他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能を身に付けさせる学習。

コミュニケーション能力

○ 人間関係づくり

単元計画（10時間）

- (1) 学習課題を設定し、調査計画を立てる。（本時2/2）・・・2時間
- (2) 学習課題についての情報を収集・整理し、イメージマップにまとめる。・・・2時間
- (3) 収集・整理した情報を考察し、年表や地図に表現する。・・・2時間
- (4) 学習成果を発表し合う。・・・2時間

## 本時のねらい

- 自分たちの住む身近な地域と世界との関係や交流について学習課題を設定し、適切に役割分担しながら調査計画を立てることができる。
- 学習課題の決定・選択や共同調査に関する話し合いを通して、他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習の見通しをもち、単元目標をつかむ。 (1) 調査研究の進め方について「調査研究のしおり」で確認する。	○ 前時学習を振り返り、学習課題の設定、資料の収集・読取り、考察・まとめという調査研究の進め方を確認させる。
	自分たちの住む身近な地域と世界との関係や交流について学習課題を設定し、適切に役割分担しながら調査計画を立てよう。	
展開	2 グループで学習課題を設定する。 (1) 教師が提示した学習課題の中から自己決定・自己選択する。 ○「カナダの英字新聞『The New Canadian』の社主梅月高市」 ○「ドジャース球団オーナー補佐・アイク・生原」 ○「古代の環日本海交易～秋田犬をてがかりに～」 ○「三毛門カボチャが来た道」 ○「香春神社～新羅の神自ら渡り来る～」 ○「日常生活の中のイスラーム文明」 ○「おいべっさん・七福神の謎」 3 調査計画を立て、役割分担する。 (1) 調査計画を立てる。 (2) 役割分担をする。 (3) 調査計画書に記入する。 ・作成した調査計画書を読み直して、設定した課題についてきちんと調査できるものになっているかをグループ全員で確認して提出する。	○ 生徒の学習経験や興味・関心などから、本単元での学習経験や興味・関心などから、調査研究の視点を提示し、学習意欲を高める。 ○ 自分の考えを的確に表現し、相手の考えを的確に理解しながら合意を形成させ、 <u>グループでの決定・選択</u> ができるようにする。 ○ <u>文献、インタビュー、現場に行つての観察や聞き取りなどの調査方法を示し、調査計画を立てられるようにする。</u> ○ 「調査研究のしおり」に学校図書館や公共図書館等が所蔵する文献一覧や、遺跡・遺物・博物館・資料館等の一覧を記載し、 <u>適切な役割分担</u> が行えるようにする。 ○ 調査方法の不適切な部分や、研究計画の実現可能性について助言し、調査計画書を読み直させる。
整理	4 本時の学習を振り返り、学習成果を発表し合う。	○ 気付いたことや自分の考えが深まったことを振り返りシートに記入させる。

学習課題や計画を選択する機会を提供する。

学習形態や場を選択する機会を提供する。

この学習活動を通して、「他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能」を育成します。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

協力的・参加的な学習

高等学校

球技（卓球）に主体的に取り組むことを通して、個人や集団の技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、合意形成に貢献しようとする態度や、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を身に付けさせる学習。

人間関係調整力・問題解決力

○ 協力、建設的、解決

本時のねらい

- グループの作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。
- グループの課題を解決する練習に主体的に参加し、練習やゲームの仕方を見直すことを通して、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 準備運動・補強運動をする。	○生徒の健康状態を確認する。
	個人やグループの課題を解決するための効果的な練習を行い、作戦に応じ仲間と連携したゲームが展開できるようになろう。	
展開	2 グループごとに課題を設定し、課題を解決する練習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・カットサーブができるようになる。</li> <li>・スマッシュが打てるようになる。</li> <li>・カットサーブとカット打ちとドライブができるようになる。</li> </ul> 3 前時に立てた作戦に応じ、グループ対抗のダブルスのゲームを行い、学習成果を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・回転など変化をつけてねらった場所へサーブを打ち、相手が返球しにくいようにする。</li> <li>・サーブで得点しやすい空間を作りだし、3球目攻撃ができるようにする。</li> <li>・ラリーのなかで守備のバランスを維持する動きをし、できるだけミスを少なくする。</li> </ul>	○ 練習方法を選択・決定する場を提供することで、グループの課題を解決する効果的な練習を行い、集団的の技能を高めることができるようにする。  ○ 各班の目標・戦術の一覧表を掲示することで、対戦相手の特色を把握し、仲間と連携して楽しくゲームが展開できるようにする。
整理	4 今日のゲームについてグループごとに話し合い、練習やゲームの仕方を見直す。  5 教師のまとめを聞き、学習ノートに記入する。	○ 振り返りの視点を与え、筋道を立てて話し合えるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに身に付けた技術で攻防を展開できたか。</li> <li>・グループにおける自分の役割を果たすことができたか。</li> <li>・他グループとの比較から、グループや自分の課題を見つけることができたか。</li> <li>・次の試合に向け何ができるか。</li> </ul>

協力的・参加的な学習

高等学校

球技（卓球）に主体的に取り組むことを通して、個人や集団の技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、合意形成に貢献しようとする態度や、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を身に付けさせる学習。

人間関係調整力・問題解決力

○ 協力、建設的、解決

本時のねらい

- グループの作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。
- グループの課題を解決する練習に主体的に参加し、練習やゲームの仕方を見直すことを通して、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 準備運動・補強運動をする。	○生徒の健康状態を確認する。
	個人やグループの課題を解決するための効果的な練習を行い、作戦に応じ仲間と連携したゲームが展開できるようになる。	
展開	<p>2 グループごとに課題を設定し、課題を解決する練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カットサーブができるようになる。</li> <li>・スマッシュが打てるようになる。</li> <li>・カットサーブとカット打ちとドライブができるようになる。</li> </ul> <p>3 前時に立てた作戦に応じ、グループ対抗のダブルスのゲームを行い、学習成果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回転など変化をつけてねらった場所へサーブを打ち、相手が返球しにくいようにする。</li> <li>・サーブで得点しやすい空間を作りだし、3球目攻撃ができるようにする。</li> <li>・ラリーのなかで守備のバランスを維持する動きをし、できるだけミスを少なくする。</li> </ul>	<p>○ <u>練習方法を選択・決定する場を提供することで、グループの課題を解決する効果的な練習を行い、集団的スキルを高めることができるようにする。</u></p> <p>「共に学び合う仲間」だと実感できる雰囲気をつくる。</p> <p>○ <u>各班の目標・戦術の一覧表を掲示することで、対戦相手の特色を把握し、仲間と連携して楽しくゲームが展開できるようにする。</u></p> <p>振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。</p>
整理	<p>4 今日のゲームについてグループごとに話し合い、練習やゲームの仕方を見直す。</p> <p>5 教師のまとめを聞き、学習ノートに記入する。</p>	<p>○ <u>振り返りの視点を与え、共通の道を立てて話し合えるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに身に付けた技術で攻防を展開できたか。</li> <li>・グループにおける自分の役割を果たすことができたか。</li> <li>・他グループとの比較から、グループや自分の課題を見つけることができたか。</li> <li>・次の試合に向け何ができるか。</li> </ul>

この学習活動を通して、「協力的・建設的に問題解決に取り組む技能」を育成します。

協力的・参加的な学習

高等学校

預貯金についての課題を解決する活動を通して、数列を事象の考察に活用し、表現し処理する方法を身に付けさせるとともに、合理的・分析的に思考する技能を育成する学習。

公正・公平な思考力・判断力

○ 合理的・分析的に思考する技能

本時のねらい

- 預貯金についての課題を解決する活動を通して、数列を事象の考察に活用し、それを表現することができるようにする。
- 自らの考え方を数学的に表現し、説明したり、議論したりする交流活動を取り入れ、合理的・分析的に思考する技能を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいと進め方をつかむ。	○ 「預貯金やローンについて興味をもてること」のアンケート結果を提示し、めあてをつかませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     定期預金Aと定期預金Bではどちらが元利合計が多くなるかを調べ、75歳の福岡さんにわかりやすく説明しよう。                 </div>		
展開	2 課題を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 金利、利息、元利などの概念や、単利法、複利法の仕組みについて各自が事前に調査をしたことを班で交流する。</li> <li>○ 各自で予想を立て、考え方をワークシートに記入する。</li> </ul> 3 課題を追究する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートをもとに課題の解決方法について話し合い、班の考えをまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ・利息、元利合計の計算は、どのような式で表すことができるのか。                          ・福岡さんにわかりやすく説明するために、どのような表やグラフ、説明メモを準備すればよいか。                     </div> 4 課題を達成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福岡さんへのわかりやすい説明の仕方について全体で交流する。</li> </ul>	(課題) 野球ファンである75歳の福岡さんは、応援している球団が日本シリーズで優勝した場合、店頭表示金利0.25%に2.5%が上乗せされる1年もの定期預金(定期預金A)に10万円を預金をするか、それとも、金利0.5%の5年定期預金(定期預金B)に10万円を預金をするか迷っています。応援している球団がその年に優勝したと仮定し、5年後、どちらの元利合計が多くなるか、福岡さんにわかりやすく説明しましょう。
整理	5 本時の学習を振り返り、振り返りシートに記入する。	○ 全体交流で気付いたことを記入させる。

協力的・参加的な学習

高等学校

預貯金についての課題を解決する活動を通して、数列を事象の考察に活用し、表現し処理する方法を身に付けさせるとともに、合理的・分析的に思考する技能を育成する学習。

公正・公平な思考力・判断力

○ 合理的・分析的に思考する技能

本時のねらい

- 預貯金についての課題を解決する活動を通して、数列を事象の考察に活用し、それを表現することができるようにする。
- 自らの考え方を数学的に表現し、説明したり、議論したりする交流活動を取り入れ、合理的・分析的に思考する技能を育成する。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいと進め方をつかむ。	○ 「預貯金やローンについて興味をもてること」のアンケート結果を提示し、めあてをつかませる。
	定期預金Aと定期預金Bではどちらが元利合計が多くなるかを調べ、75歳の福岡さんにわかりやすく説明しよう。	
展開	<p>2 課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 金利、利息、元利などの概念や、単利法、複利法の仕組みについて各自が事前に調査をしたことを班で交流する。</li> <li>○ 各自で予想を立て、考え方をワークシートに記入する。</li> </ul> <p>3 課題を追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートをもとに、解決方法について話し合い、班の考えをまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ・利息、元利合計の計算は、どのような式で表すことができるのか。                      ・福岡さんにわかりやすく説明するために、どのような表やグラフ、説明メモを準備すればよいか。                 </div> <p>4 課題を達成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福岡さんへのわかりやすい説明の仕方について全体で交流する。</li> </ul>	<p>○ 「預貯金やローンについて興味をもてること」のアンケート結果を提示し、めあてをつかませる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈課題〉                      野球ファンである75歳の福岡さんは、応援している球団が日本シリーズで優勝した場合、店頭表示金利0.25%に2.5%が上乗せされる1年もの定期預金（定期預金A）に10万円を預金をするか、それとも、金利0.5%の5年定期預金（定期預金B）に10万円を預金をするか迷っています。応援している球団がその年に優勝したと仮定し、5年後どちらの元利合計が多く明しましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利息の元金への繰り入れに注目させ、定期預金（複利法）の元利合計の計算に等比数列が利用できることに気付かせる。</li> <li>○ <u>言葉と式、言葉と表やグラフを関連付け、簡潔性や明瞭性の視点から班の考えをまとめさせる。</u></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「授業に参加している」という実感を持たせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「共に学び合う仲間だ」とい実感できる雰囲気をつくる。</p> </div> <p>○ 福岡さんへの説明の仕方とともに「<u>数列が有効に活用されているところ</u>」や「<u>数列を学んでよかったと思うこと、気付いたこと</u>」についても発表させる。</p>
整理	5 本時に記入	○ 全体交流で気付いたことを記入させる。

表現方法を選択する機会を提供する。

この学習活動を通して、「合理的・分析的に思考する技能」を育成します。

協力的・参加的な学習

高等学校

5伝票の作成方法及び集計、転記の方法を習得させるとともに、複式簿記のよさに気づき、適切に処理することを通して、合理的・分析的に思考する技能を身に付けさせる学習。

公平・公正な思考力・判断力

○ 合理的・分析的に思考する技能

本時のねらい

- 入金伝票、出金伝票、振替伝票の3伝票と、これらに仕入伝票、売上伝票を加えた5伝票の作成方法を習得させる。
- 5伝票の構造を理解し、適切に処理することを通して、合理的・分析的に思考する技能を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 学習のねらいや進め方をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 会計処理の流れ図を掲示し、学習の見通しをもたせる。</li> </ul>
5伝票の起票について理解し、合理的な会計処理の方法を習得しよう。		
展開	<p>2 5伝票の起票について理解する。</p> <p>(1) 仕入伝票と売上伝票の特徴を知る。 ・仕入取引、売上取引は、いったん掛けとする。</p> <p>(2) 仕入取引、売上取引が発生した場合の仕訳と起票について各自で考え、ペアで交流する。</p> <p>(3) 値引き、返品取引の場合の仕訳と起票について各自で考え、ペアで交流する。 ・値引き、返品は赤で起票する。</p> <p>3 ペアで練習問題に取り組み、5伝票の起票方法を習得する。</p> <p>(1) 仕入担当と売上担当を決める。</p> <p>(2) それぞれ仕訳を行い、伝票に起票する。</p> <p>(3) 互いに伝票の起票が正しくできているか確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取引発生から仕訳、伝票選択までの基本的な仕組みが理解できるワークシートを準備する。</li> <li>○ 相手の考えの根拠を確かめる質問をさせペアで交流することで、理解を深めさせる。</li> <li>○ ペアで連携、協力することで能率的に業務が行えることに気付かせるとともに、自分の業務が役に立っているという実感を持たせる。</li> </ul>
整理	4 本時の学習を振り返り、振り返りシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペア交流で気付いたことを振り返りシートに記入させる。</li> </ul>

協力的・参加的な学習

高等学校

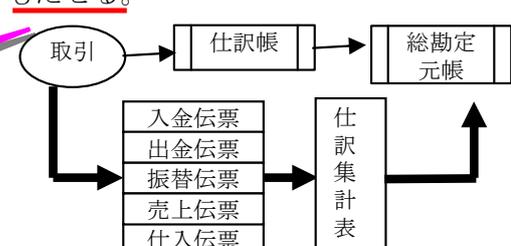
5伝票の作成方法及び集計、転記の方法を習得させるとともに、複式簿記のよさに気づき、適切に処理することを通して、合理的・分析的に思考する技能を身に付けさせる学習。

公平・公正な思考力・判断力

○ 合理的・分析的に思考する技能

本時のねらい

- 入金伝票、出金伝票、振替伝票の3伝票と、これらに仕入伝票、売上伝票を加えた5伝票の作成方法を習得させる。
- 5伝票の構造を理解し、適切に処理することを通して、合理的・分析的に思考する技能を身に付けさせる。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	<p>1 学習のねらいや進め方をつかむ。</p>	<p>○ <u>会計処理の流れ図を掲示し、学習の見通しをもたせる。</u></p>  <p>「授業に参加している」という実感を持たせる。</p> <p>5伝票の起票について理解し、合理的な会計処理の方法を習得しよう。</p>
展開	<p>2 5伝票の起票について理解する。</p> <p>(1) 仕入伝票と売上伝票の特徴を知る。 ・仕入取引、売上取引は、いったん掛けとする。</p> <p>(2) 仕入取引、売上取引が発生した場合の仕訳と起票について各自で考え、ペアで交流する。</p> <p>(3) 値引き、返品取引の場合の仕訳と起票について各自で考え、ペアで交流する。 ・値引き、返品は赤で起票する。</p> <p>3 ペアで練習問題に取り組み、5伝票の起票方法を習得する。</p> <p>(1) 仕入担当と売上担当を決める。</p> <p>(2) それぞれ仕訳を行い、伝票に起票する。</p> <p>(3) 互いに伝票の起票が正しくできているか確認する。</p>	<p>○ 取引発生から仕訳、伝票選択までの基本的な仕組みが理解できるワークシートを準備する。</p> <p>○ <u>相手の考えの根拠を確かめる質問をさせペアで交流することで、理解を深めさせる。</u></p> <p>「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。</p> <p>○ <u>ペアで連携、協力することで能率的に業務が行えることに気付かせるとともに、自分の業務が役に立っているという実感を持たせる。</u></p> <p>「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。</p>
整理	<p>4 本時の学習を振り返り、振り返り記入する。</p>	<p>この学習活動を通して、「合理的・分析的に思考する技能」を育成します。</p>

## 4 人権が尊重される人間関係づくり・雰囲気づくりのための環境整備の取組

人権尊重の精神に立つ学校づくりは、教科等指導、生徒指導、学級経営など、学校における教育活動全体を通じて進めていくべきものであり、そのための取組は、授業をはじめとした「学習活動づくり」とともに、人権が尊重される「人間関係づくり」、「環境づくり」として、推進していく必要があります。

人権尊重の「環境づくり」は、学校全体の雰囲気そのものにかかわるものであり、こうした雰囲気は、教職員の日常的な言動の在り方や、教職員と児童生徒の間、児童生徒同士の間の人間関係の在り方等によって形作られるものです。

校内において、この人権尊重の雰囲気を積極的に醸成するためには、人権尊重の視点に立った校内環境や教室環境の整備、教職員の人権尊重の理念の理解を図る校内研修の工夫、人権が尊重される授業づくり等の取組に努めることが重要です。

さらに、日々の学級経営においては、教室が、安心して過ごせ、学べる場となるよう、人権尊重の視点に立った教室環境の整備に努めることが重要です。

### 参考：人権尊重の視点に立った校内環境づくりの取組例

#### 取組① 「人権コーナー」等の設置

- 校内や教室内に「人権コーナー」等を設置し、児童生徒や来訪者が、いじめや差別のない人権が尊重される学校・学級づくりの必要性について考えることができるようにする。



- 児童生徒の作品を展示する場合は、作品に教師や友だちの評語を付けたり、本人のコメントを付けたりするなどして、肯定的なセルフイメージの高揚や、児童生徒間の相互理解の促進を図る。



写真：人権尊重の学校づくり推進指定校の取組より

取組② 人権啓発作文・標語・ポスターの作成・掲示

- 人権週間等にに合わせて、人権啓発に関する作文や標語づくり・ポスターづくり等を行うとともに、その作品を校内に掲示し、人権尊重の雰囲気醸成を促進する。



中学校



中学校



中学校



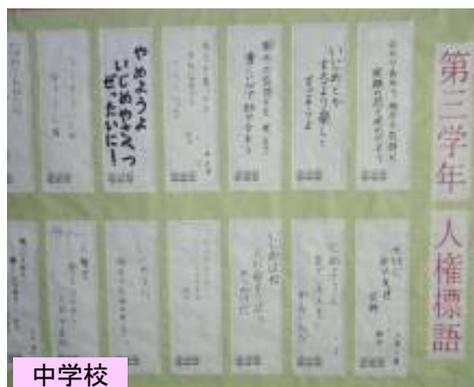
小学校



高等学校



中学校



中学校



中学校

取組③ 人権集会・人権学習発表会等の開催、学習成果の発信

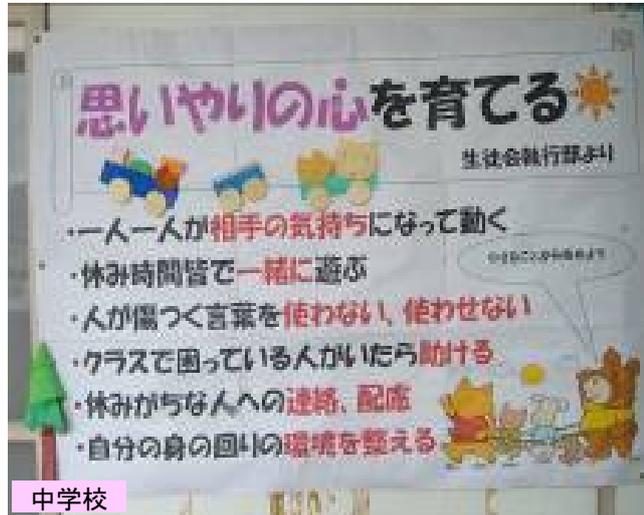
- 全校集会や学年集会等で、児童生徒が、他学年・学級の児童生徒や保護者、地域の人々に学習活動の成果を発表する機会を設ける。また、「学校だより」、「学級通信」、「PTA新聞」等を通して、人権学習の成果を校内外に発信する。これらを通じ、人権教育の取組に対する学校内外の理解を促進する。



小学校



小学校



中学校



中学校



高等学校



中学校



中学校



中学校



中学校

参考：人権尊重の視点に立った教室環境づくりの視点と取組例

取組① 人間関係を深め、安心して生活・学習ができる場づくり

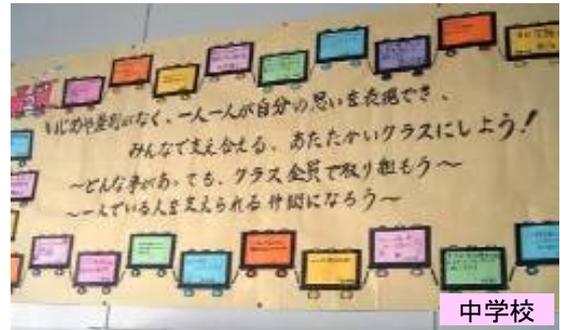
○ 前面に、学級目標（目指す子ども像）を掲示する。また、それを児童生徒の自画像で囲むなどして、一人一人の帰属感を高める。



小学校



小学校



中学校

○ 「学級の歴史」コーナーを設置し、一人一人が学級づくりに参画している実感を持たせる。



小学校



小学校

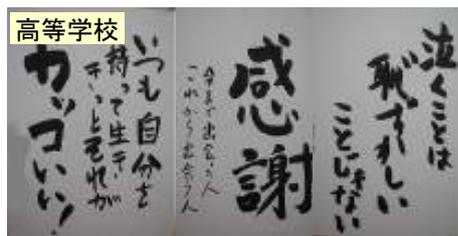


小学校



小学校

○ 「今月の誕生日」、「私の好きな言葉」、「本や音楽の紹介」等のコーナーを設け、児童生徒の相互理解や交流を深めるきっかけとする。



高等学校



小学校

○ 学級組織（係）ごとのコーナーを設け、学級への願いや要望、よりよい学級生活をつくるための問題提起を行う。



中学校



小学校



中学校

写真：人権尊重の学校づくり推進指定校の取組より

参考：人権尊重の視点に立った教室環境づくりの視点と取組例

取組① 人間関係を深め、安心して生活・学習ができる場づくり

○ 「気持ちを表す言葉」、「聞き方・話し方のスキル」など、コミュニケーションを円滑にするための手がかりとなるポスターを示す。



小学校



小学校



中学校



小学校



小学校



小学校



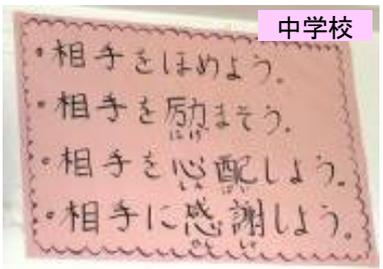
小学校



中学校



小学校



中学校



小学校



中学校

○ いつでも活用できるように、辞書や事典類を常備しておく。



中学校



中学校

写真：人権尊重の学校づくり推進指定校の取組より

参考：人権尊重の視点に立った教室環境づくりの視点と取組例

取組① 人間関係を深め、安心して生活・学習ができる場づくり

- 学習で使ったものや学習内容の要点を示す掲示物を貼り出し、学習内容の振り返りや、課題解決のヒントとして活用する。
- 学習の成果物（作品等）を掲示する。その際、児童生徒自身の解説や評価（自己評価、他者評価）、教師の評語を添え、達成感や有用感、肯定的なセルフイメージの形成を図る。



小学校



中学校



小学校



中学校



小学校



小学校



小学校



小学校



小学校

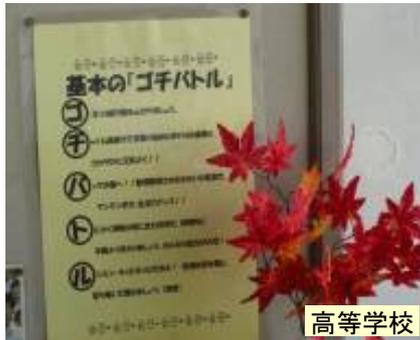
参考：人権尊重の視点に立った教室環境づくりの視点と取組例

取組② 課題意識を高める場づくり

○ 児童生徒に話題を提供したり、問題意識を喚起したりするような情報を教師が意図的に掲示する。



小学校



高等学校



中学校



中学校



小学校

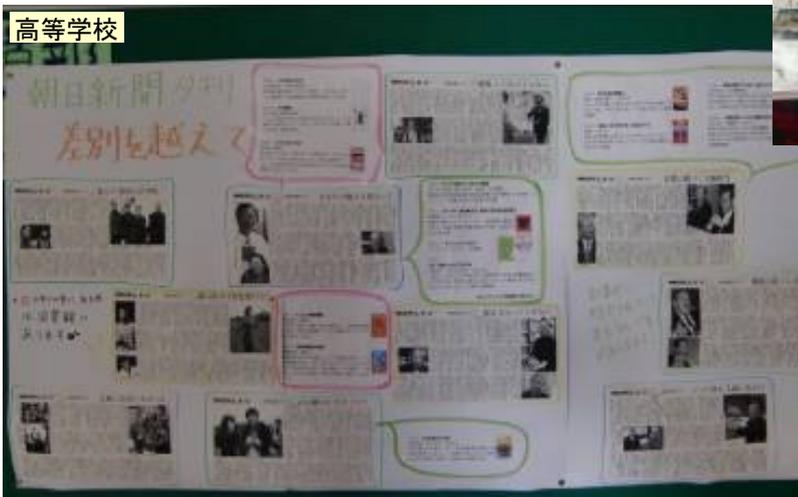


高等学校

○ 学習内容に沿ったクイズやコラムなどを掲示したり、児童生徒が関心を持った時事的・社会的な情報を掲示する「切り抜きコーナー」を設置したりして、日常の学習を広げたり、学習課題設定のきっかけにしたりする。



高等学校



高等学校



高等学校



高等学校

写真：人権尊重の学校づくり推進指定校の取組より

参考：人権尊重の視点に立った教室環境づくりの視点と取組例

取組③ 発見の喜びを味わえる場づくり

○ 児童生徒が集めた情報の中から、喜びや感動、疑問や怒りを感じたことを級友に知らせるコーナーを設置し、帰りの会等で発表させる。



高等学校



高等学校

○ 小動物や昆虫、植物の飼育・栽培活動を通じ、生き物の成長の過程に直接触れさせ、発見したり、疑問を持ったりしたことを記録・発表させる。



中学校



中学校



高等学校



高等学校

取組④ 創造する喜びを味わえる場づくり

○ 児童生徒が共同作業をすることのできる作業台（広めの机）を設置したり、筆記具・文房具を常備したりして、自発的・創造的な協働作業を促す。

○ 詩や絵などを自由に発表することのできるコーナーを設置する。



小学校



小学校



高等学校

## 第Ⅱ章

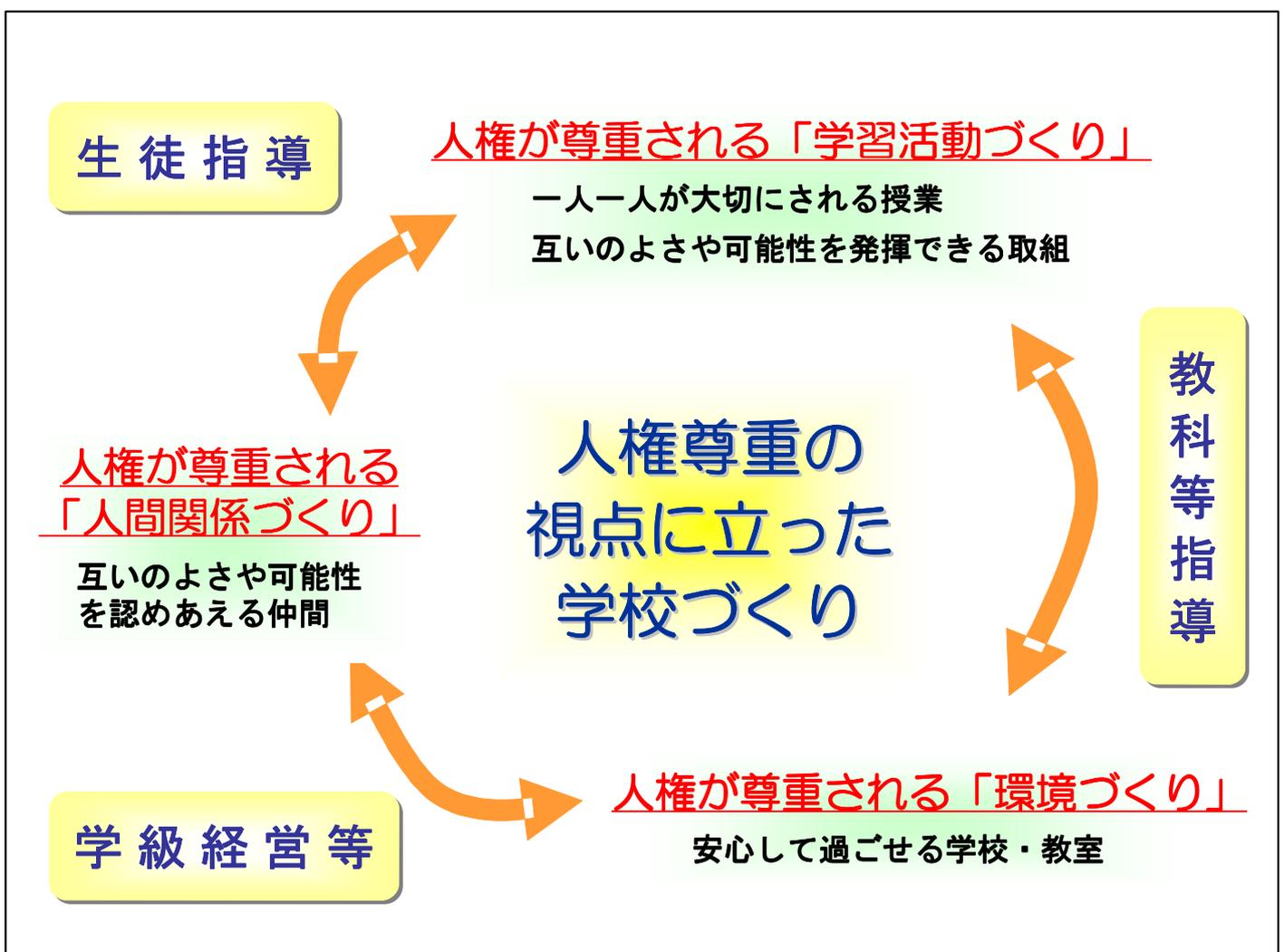
# 人権尊重の学校づくりを進めるために ～理論編～

- 1 人権尊重の精神に立つ学校づくり
- 2 人権尊重の視点からの学校づくりと学力向上
- 3 人権教育の全体計画・年間指導計画の策定
- 4 人権が尊重される学習活動づくりについて
  - 教科等とのねらいと関連する資質・能力
  - 人権が尊重される授業づくりの視点例

# 1 人権尊重の精神に立つ学校づくり

児童生徒の人権が尊重され、一人一人が大切にされていることの実感できる学校は、児童生徒に安心感や自信を与えます。このような人権が尊重される学校をつくるためには、教職員が一体となって教育活動全体を通じて人権教育を推進していく必要があります。

学校においては、教科等指導、生徒指導、学級経営など、その活動の全体を通じて、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を一体となって取り組み、児童生徒一人一人が大切にされていることの実感できる学校づくりが望まれます。



## 2 人権尊重の視点からの学校づくりと学力向上

学校教育においては、現在、全ての児童生徒に基礎的な知識・技能及びそれらを活用して問題を解決する力等を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」を育むことが求められています。

「確かな学力」を育む上では、児童生徒一人一人の個性や教育的ニーズを把握し、学習意欲を高め、指導の充実を図っていくことが必要であり、そのためには、学校・学級の中で、一人一人の存在や思いが大切にされるといった環境が成立していなければなりません。

このように見た場合、校内に人権尊重の理念に基づく教育活動を行き渡らせることは、学習指導の効果的な実施を図る上でも、重要な観点の一つとなるものと考えられます。

学校においては、「確かな学力」を育むためにも、教科等指導、生徒指導、学級経営など、学校の教育活動全体を通じて、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を一体となつてすすめて、児童生徒に学ぶことの楽しさを体験させ、望ましい人間関係等を培い、学習意欲の向上に努めることが求められています。

その際、以下の観点到に留意しながら、取組を進めていくことが大切です。

### ■ 学習指導の充実

学習意欲を高め、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、児童生徒の生活の実態等に配慮しながら、学習指導の充実に努めること。

また、学校において人権教育を推進する際には、人権教育の目標と各教科等の目標とねらいとの関連を明確にした上で、人権に関する意識・態度、実践力を養う人権教育の活動と、それぞれの目標・ねらいに基づく各教科等の指導とが、有機的・相乗的に効果を上げられるようにしていくこと。

### ■ 学級経営の充実

学級は、児童生徒が相互の人格を尊重し、互いに支え合い、高め合いながら、個性や能力を十分に発揮していく、学習や生活の最も基本的な場である。学級経営を進めるに当たっては、学級内に生じる様々な課題について、児童生徒が正しい認識をもち、人権尊重の精神に基づいて解決を図ろうとする実践的な能力や態度を育てること。

### ■ 自立・自己実現を支援する生徒指導・進路指導の充実

すべての児童生徒が生き生きと意欲的に学校生活を送ることができるようにするとともに、一人一人の可能性を十分に伸ばさせ、自立を促すように指導すること。

特に、様々な課題から、学校生活に生きがいを見出せないでいる児童生徒に対しては、一人一人が互いに尊重し合う望ましい人間関係を築き、自信をもって生活することができるように配慮すること。

また、すべての児童生徒が将来に向かって、意欲をもって自己実現を図るために、一人一人の個性・能力を伸ばし、主体的に進路選択ができるように努めること。

### ① 各教科・科目と人権教育

各教科・科目の目標や内容は、人権尊重につながる科学的・合理的なものの見方、考え方や人間性の育成と密接に関連をもつものです。したがって、各教科・科目の目標の達成を図ることが、人権教育の目標の達成にもつながることを踏まえて指導を充実させることが必要です。その際、人権教育を通じて育てたい資質・能力との関連について、十分に考慮して指導していくことが望まれます。

### ② 道徳と人権教育

道徳では、教師と児童生徒が共に考え、共に語り合い、人間としてのよりよい生き方を求めていくことが大切です。特に、生命の尊重、人格の尊重、人権の尊重、人間愛など人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培うための内容は、人権教育の目標と深くかかわるものです。したがって、道徳の時間の指導においては、児童生徒の発達段階に即して、人権教育の目標を踏まえた指導計画を作成することが大切です。

### ③ 特別活動と人権教育

話し合いやグループ活動を通して、助け合いや思いやりの心を育てたり、学校行事等におけるボランティア活動などの社会体験や自然体験などを通して豊かな心を育てたりすることは、人権教育の目標に結びつくものです。

そこで、特別活動の実施に当たっては、特別活動の目標や特質を踏まえるとともに、人権教育の目標に基づいた年間指導計画を作成することが大切です。特に、児童生徒の日常生活に見られる人間関係の問題や様々な人権問題に関する内容については、学級活動やホームルーム活動において指導の充実が図られるように指導計画に位置付けることが求められます。

### ④ 総合的な学習の時間と人権教育

総合的な学習の時間は、自ら学び自ら考え、問題を解決する力などの生きる力の育成や学び方やものの考え方の習得などのねらいの下、各教科等で身に付けられた知識や技能を相互に関連付け、総合的に働くようにすることを目指すものです。

この時間を通して、各教科等の時間に培った人権尊重に関する知識・価値観・技能を相互に関連付けて深めさせたり、新たに身に付けさせたりして、総合的に働くようにすることが大切です。

### 3 人権教育の全体計画・年間指導計画の策定

#### (1) 全体計画

人権教育の全体計画は、学校における人権教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して人権教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画です。

作成に当たっては、校長の学校経営方針・計画に基づき、全教職員が共通理解を深めながら進めることが大切です。その際、学校や地域社会の実態を踏まえ、人権教育として指導する重点を明確にすること、各教科等における指導のねらいを明確にすること、保護者や地域社会、他の校種や関係諸機関との連携を図ること、計画の実施及び改善のための研修体制を確立することなどが大切です。

#### 【参考】全体計画の見直し等に当たっての留意点

各学校における人権教育の全体計画及び年間指導計画は、校長のリーダーシップの下、人権教育担当部（担当者）等においてその見直し・策定方針の検討を行い、これが提示された後に、運営委員会など各校務分掌組織等の代表が参加する場で、具体的な課題案の設定や関係分掌間の連絡・調整等を行い、さらに、各学年ごとの年間指導計画の作成、人権教育担当部によるとりまとめ、職員会議における共通理解などのプロセスを経て、策定されることとなります。

全体計画の見直し（策定）に当たっては、校種、学校や地域の実態等を踏まえ、各教科等の教育課程全体の中での整合を図ること、交流活動や体験活動など児童生徒が主体的に参加できる取組を取り入れることが重要です。

以下は、全体計画の充実を図る観点から留意すべき点です。

#### ■ 全体計画充実のための留意点

- 重点目標や実践的課題は肯定的な表現を用いている。
- 児童生徒の発達段階に即した学年別目標が設定され、目指す児童生徒の姿が明確にされている。
- 児童生徒への取組だけでなく、教職員、家庭、地域の人権意識を高める取組が盛り込まれている。
- 児童生徒の実態、家庭・地域の教育ニーズ、社会的要請、教職員の願い等を踏まえた検討がなされている。
- 関連法規や教育行政施策の動向等を踏まえた内容となっている。
- 学校の教育目標と人権教育目標との関連が明確になっている。
- 人権に関する重要課題への取組が、学校や地域の実情に応じたもの（より身近な課題への取組）として示されている。
- 交流活動や体験活動など児童生徒が主体的に参加できる取組が組み込まれている。
- コミュニケーション力や共感力等の育成（豊かな人間関係づくり）など人権感覚を育成する視点が示されている。
- 各教科等における人権教育とのかかわりを考慮した教育活動が示されている。
- 校内における研究推進体制、家庭・地域、関係機関との連携、校種間の連携を工夫している。
- 全教職員が人権教育の意義やねらいを共通理解して作成している。
- 年度ごとに、全体計画の点検・評価、見直し（改善）を行う。

## (2) 年間指導計画

人権教育の年間指導計画は、全体計画に基づき、各年度に行う人権教育の指導内容・方法を具体化した指導計画であり、当該年度における取組の全体像を具体的に把握し、共通認識をもって人権教育に取り組めるようにするための、大切な指針となるものです。

### 【参考】 年間指導計画充実のための留意点

年間指導計画の策定は、全体計画の見直し等と並行して（又はその見直し結果等を踏まえて）、すべての教職員の参加・協力の下に行われる必要があり、一般的には、管理職及び人権教育担当部（担当者）が提示した方針に基づき、各学年単位で年間指導計画の案を検討した上で、これを取りまとめ、決定することとなります。

年間指導計画を作成する際には、下記の点に留意することが大切です。

### ■ 年間指導計画充実のための留意点

- 児童生徒の発達段階を踏まえ、6年間・3年間で育てたい資質・能力を見据えた系統的な計画とする。その際、取り上げる人権課題の項目とともに人権週間等における具体的な取組なども位置付ける。
- 全体計画に示されている各教科等の指導の目標・ねらいを受け、「人権教育とのかかわり」から洗い出す観点（例：「確かな学力」、「基本的な生活習慣」、「自尊感情」、「自己表現力」、「コミュニケーション能力」など）を明らかにする。
- [自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること]ができる児童生徒の育成のため、次のような力や技能を総合的に培うことができるよう、関連のある教育活動との結びつきを考える。
  - \* 他人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ちなどが分かるような想像力や共感的に理解する力
  - \* 考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、的確に理解することができるような、伝え合い分かり合うためのコミュニケーションの能力やそのための技能
  - \* 自分の要求を一方的に主張するのではなく建設的な手法により他人との人間関係を調整する能力及び自他の要求を共に満たせる解決方法を見出してそれを実現させる能力やそのための技能
- 各教科では、学習内容や指導方法等から人権教育の目標と結びつく教育活動を見出す。その際、具体的な人権課題に関する学習内容（個別的な視点からの取組）を含む単元等、また、「法の下での平等」、「個人の尊重」、「生命尊重」などに関する学習内容（普遍的な視点からの取組）を含む単元等を設定する。
- 道徳の時間については、自己を見つめ、道徳的価値の自覚を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていくことができるよう、その内容項目として、「生命尊重」「公正・公平」等人間尊重の精神とかかわりの深い内容を設定する。
- 特別活動では、望ましい集団活動を通して、よりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。そのため、学級活動では、生活上の諸問題の解決や望ましい人間関係の育成に重点を置く。また、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事においても、学校生活の充実と発展に寄与する体験的な活動を設定する。
- 総合的な学習の時間では、そのねらいを踏まえ、横断的・総合的な課題、生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、人権教育との関連から学習活動を設定する。
- 年度ごとに、指導計画の評価・見直しを行う。

## 4 人権が尊重される学習活動づくりについて

### ■ 教科等のねらいと関連する資質・能力

#### 構成・内容

この「手引きⅡ」に掲載している学習活動例は、人権教育を通じて育てたい資質・能力（「知識的側面」、「価値的・態度的側面」及び「技能的側面」）の全体構造を意識しつつも、「価値的・態度的側面」や「技能的側面」に属する諸要素としての価値や態度、諸技能の中から、各学校の実態に応じて個別적으로取り上げ、教科等のねらいとの関連を考慮して作成しています。

そして、人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成に焦点を当てた指導方法等の工夫や配慮すべきポイントを提示することで、各学校で取り組む際の参考になるように、実際の指導案等を簡略化して概要として例示しています。

各学校においては、児童生徒の実態や人権教育推進上の課題等を踏まえ、指導内容・方法を工夫し、創造的、系統的な学習活動が展開されることが必要です。

#### 資質・能力の分類

[第三次とりまとめ]が示す資質・能力を参考に、教科等のねらいとの関連を考慮して、「価値的・態度的側面」と「技能的側面」に属する諸要素を、それぞれ4つの系列に分類し、各学習活動例のねらいを分かりやすく示すとともに、キーワードを示しました。

#### 【「価値的・態度的側面」の系列】

<b>① 人間の尊厳・価値の尊重、自己尊重の感情</b>	
内 容	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 自分及びすべての他者をかけがえのない人間として尊重しようとする。</li><li>■ 自分自身に対する誇りをもち、自分を価値ある存在として肯定的に認め、受け入れる。</li></ul>
価値・態度 キーワード	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 人間の尊厳、自己価値及び他者の価値を感知する感覚</li><li>○ 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度</li><li>○ 自己についての肯定的態度 等</li></ul> <p>人間の尊重、生命尊重、自己肯定感、自己受容、自己理解、他者理解、等</p>
<b>② 多様性の尊重・共生</b>	
内 容	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 人々の文化、生き方、価値観などには多様性があることを知り、互いの違いを認め合いながら、共に生きようとする。</li><li>■ 他者に興味・関心を持ち、よき人間関係を築きながら生活しようとする。</li></ul>
価値・態度 キーワード	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 多様性に対する開かれた心と肯定的評価 等</li></ul> <p>多様性の尊重、異文化理解、偏見、共生、他者への関心、協力、共感、等</p>
<b>③ 権利と責任、公平・公正</b>	
内 容	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 人間らしく生きるため、権利に基づいて行動し、その行動に責任を持つ。</li><li>■ 一方に偏ることなく、平等を重んじ、正しいことを貫こうとする。</li></ul>
価値・態度 キーワード	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度</li><li>○ 正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度 等</li></ul> <p>自立、自己決定、義務、責任、規範意識、自由、平等、法の尊重、正義感、善悪の判断、等</p>

#### ④ 参加・参画

内 容	■ よりよい社会の実現を目指し、他者と連携・連帯し、積極的に社会に参加・参画していこうとする。
価値・態度 キーワード	○ 人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度 ○ 社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度 等

連携、連帯、対話、合意形成、参加、参画、行動、等

### 【「技能的側面」の系列】

#### ① 想像力・共感力

内 容	■ 他の人の立場に立って、その人に必要なことやその人の考えや気持ちなどがわかるような想像力や共感的に理解する力
技能 キーワード	○ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性 ○ 人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能

想像力、感受性、共感力、共生・多様性の尊重、等

#### ② コミュニケーション能力

内 容	■ 考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、的確に理解することができるような、伝え合い、分かり合うためのコミュニケーション能力やそのための技能
技能 キーワード	○ 能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能 ○ 他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能

受容、傾聴、非攻撃的自己主張、人間関係づくり、論理的・合理的な表現、多様な表現方法、合意形成、プレゼンテーション能力、等

#### ③ 人間関係調整力・問題解決力

内 容	■ 自分の要求を一方的に主張するのではなく、建設的な手法により他の人との人間関係を調整する能力及び自他の要求を共に満たせる解決方法を見出して、それを実現させるような能力やそのための技能
技能 キーワード	○ 対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能 ○ 協力的・建設的に問題解決に取り組む技能

協力、建設的、調整、解決、相談、等

#### ④ 公平・公正な思考力・判断力

内 容	■ 一方に偏ることなく、平等を重んじ、正しいことを貫いていくための、公平・公正に思考し判断する能力及びそのための技能
技能 キーワード	○ 合理的・分析的に思考する技能 ○ 人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能 ○ 複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能

思考力、判断力、収集力、分析力、調査力、論理的、公平、公正、等

## ■ 人権が尊重される授業づくりの視点例

視点	ポイント・留意点	
自己存在感を持たせる支援を工夫する。	<p>「授業に参加している」という実感を持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習内容や活動に応じた座席の工夫や発問・応答のパターンの工夫を行う。</li> <li>○ 児童生徒の既習事項や生活体験、興味・関心等を把握し、様々な視点から解決できるように課題設定の工夫を行う。</li> <li>○ 児童生徒の学習意欲や習熟の度合いを把握し、課題（教材）を複数準備したり、ヒントカードを与えたりする。</li> <li>○ 結果にこだわらず、思考過程や学習過程を認める。</li> </ul>
	<p>「自分が必要とされている」という実感を持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意図的な指名等、一人一人が活躍する場や課題を工夫する。</li> <li>○ 自由な発想や方法が認められたり、自己選択できる場を工夫する。</li> <li>○ 互いの発言を最後まで聴く習慣や誤答を大切にすることを身に付けさせる。</li> <li>○ 協力して活動できる場を工夫し、互いの考えや方法のよさに気付かせる。</li> </ul>
	<p>教師自身が一人一人を大切に示す姿勢を示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人一人の名前を呼び、目を見て話す。話をよく聴く。</li> <li>○ 発言しない児童生徒に配慮するとともに、適切な支援を行う。</li> <li>○ 承認・賞賛・励ましの言葉をかけ、個に応じた改善課題や改善方法を示す。</li> </ul>
共感的人間関係を育成する支援を工夫する。	<p>「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「誰にでも失敗はある」、「誰もがよさや弱さを持っている」という認識に立って、互いを尊重し合う人間関係づくりを行う。</li> <li>○ 一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりを行う。</li> <li>○ 教師の意図と異なる考えを抑圧したり切り捨てたりしない。</li> </ul>
	<p>「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他者の発言や作品のよさに気付き、学ぼうとする態度を育てる。</li> <li>○ 自分の考えと異なる意見や感情を拒絶せず、それを理解する技能を育てる。</li> <li>○ 他者の気持ちや立場を考えて自分の言動を選択・構成する態度を育てる。</li> <li>○ 互いの役割や責任を認め合う態度を育てる。</li> </ul>
自己選択・決定の場を工夫して設定する。	<p>学習課題や計画を選択する機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達段階に応じて、複数の学習課題の中から自分にあった課題を選択する機会を設定する。</li> <li>○ 発達段階に応じて、学習の見通しをもって計画を立てるための支援を行う。</li> </ul>
	<p>学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の実態を踏まえて多様な教材・教具を準備し、選択の幅を与える。</li> <li>○ 自分の習熟の度合いや興味・関心に基づいて、教材・教具を選択できる場を設定する。</li> </ul>
	<p>学習方法を選択する機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の実態を踏まえて児童生徒の実態や学習内容に応じた学習方法を提示し、選択の幅を与える。</li> <li>○ 課題解決のための情報や資料を準備し、その活用方法について適宜助言する。</li> <li>○ ワークシートやノート整理の方法、学習内容のファイルの仕方を助言する。</li> </ul>
	<p>表現方法を選択する機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の実態を踏まえて多様な表現方法を提示し、選択の幅を与える。</li> <li>○ 考えをまとめるための多様な学習ノートを準備する。</li> <li>○ 相手や内容に応じた表現ができるよう、多様な表現スキルを提示する。</li> </ul>
	<p>学習形態や場を選択する機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の実態や学習内容に応じた学習形態や活動の場を多様に提示し、選択の幅を与える。</li> <li>○ 自分の課題や方法に基づいて活動内容や場所を選択する機会を設定する。</li> </ul>
	<p>振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の実態や学習内容に応じた学習成果のまとめ方を多様に提示し、選択の幅を与える。</li> <li>○ 自他の学習課題や解決方法、学習の仕方やまとめ方等を振り返って交流する時間を設定し、他者の成果に学ぶとともに、今後の学習課題や方法について選択・決定できる場を工夫する。</li> </ul>

「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ] 」より

# 参考資料

資料 1 人権尊重の学校づくり推進指定校事業について

資料 2 国内外の人権教育に関わる状況

## 1 事業の概要

平成21年度から平成23年度の3年間、県内の小・中・高等学校から20校の研究実践校を指定して調査研究を行い、学校における日常の教科等指導、生徒指導、学級経営等を通して、一人一人の児童生徒に、自他の人権を守るための意識・態度、実践力を身に付けさせるための効果的な指導方法等についての研究実践を行い、もって、本県の人権教育の深化・充実に資する。

県教育委員会においては、最終年度に各指定校の研究実践をとりまとめて、その成果を県内の学校に普及する。

## 2 研究内容

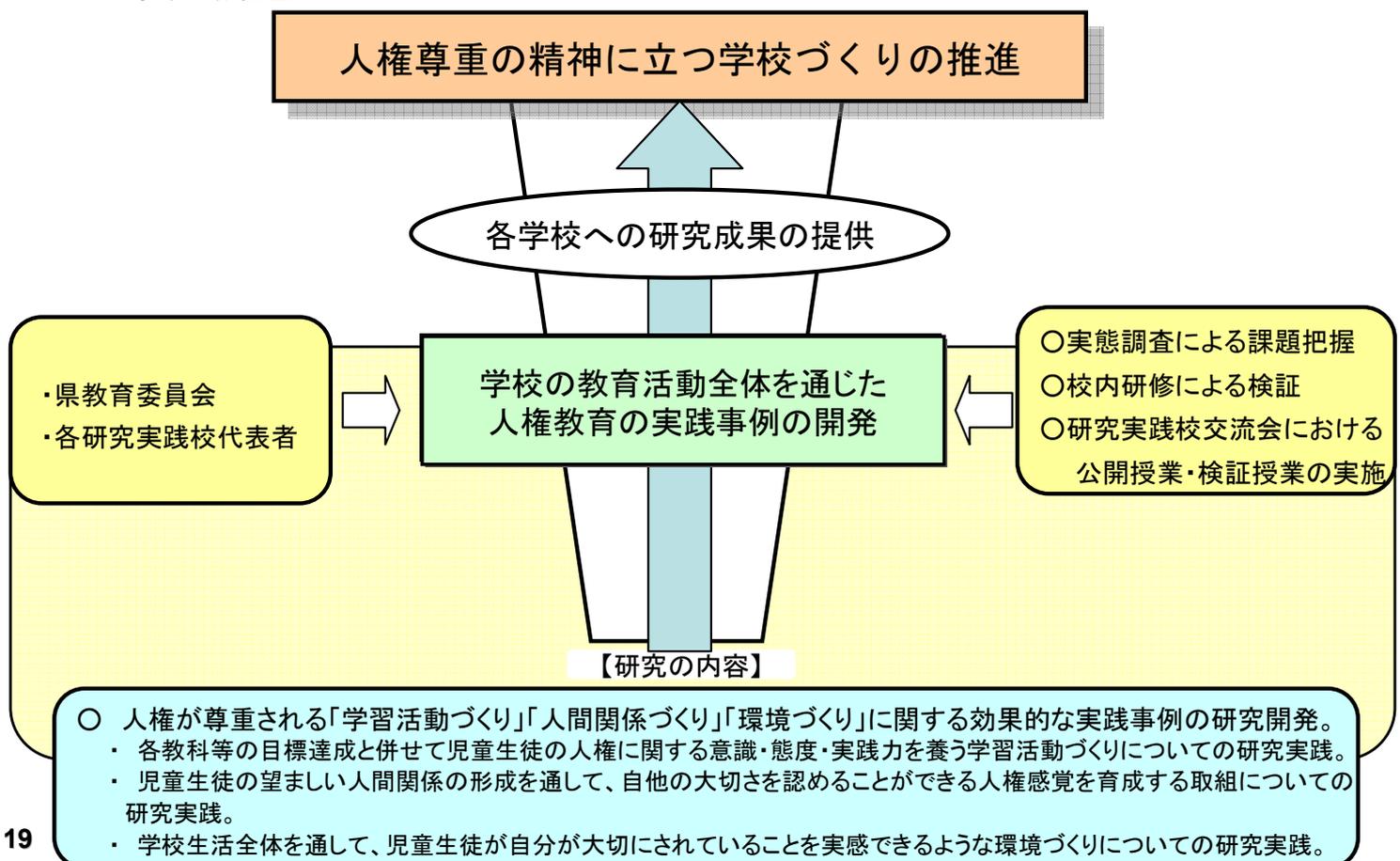
指定校においては、福岡県人権教育推進プランに基づき、学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進を図るために、次に掲げる内容からテーマを選択し、研究実践を行う。

- 人権に関する意識・態度、実践力を養う人権教育の活動と、各教科等の目標・ねらいに基づく指導とが有機的・相乗的に効果を上げられる学習活動づくりについての研究実践。
- 児童生徒の望ましい人間関係を形成することを通して、自他の大切さを認めることができる人権感覚を育成する取組についての研究実践。
- 一人一人の人権が尊重され、児童生徒が安心して過ごせる学級経営や、学校生活全体を通じて自分が大切にされていることを、児童生徒が実感できるような環境づくりについての研究実践。

## 3 人権尊重の学校づくり推進指定校

福津市立上西郷小学校	みやま市立本郷小学校	中間市立中間北中学校	築上町立椎田中学校
糸島市立加布里小学校	飯塚市立椋本小学校	久留米市立三潴中学校	福岡県立若松高等学校
鞍手町立西川小学校	行橋市立稗田小学校	東峰村立東峰中学校	福岡県立筑紫高等学校
うきは市立御幸小学校	大野城市立大野東中学校	大牟田市立橋中学校	福岡県立ありあけ新世高等学校
大川市立道海島小学校	須恵町立須恵中学校	福智町立赤池中学校	福岡県立東鷹高等学校

## 4 事業の概要図



## 1 人権確立へ向けた国際的な潮流

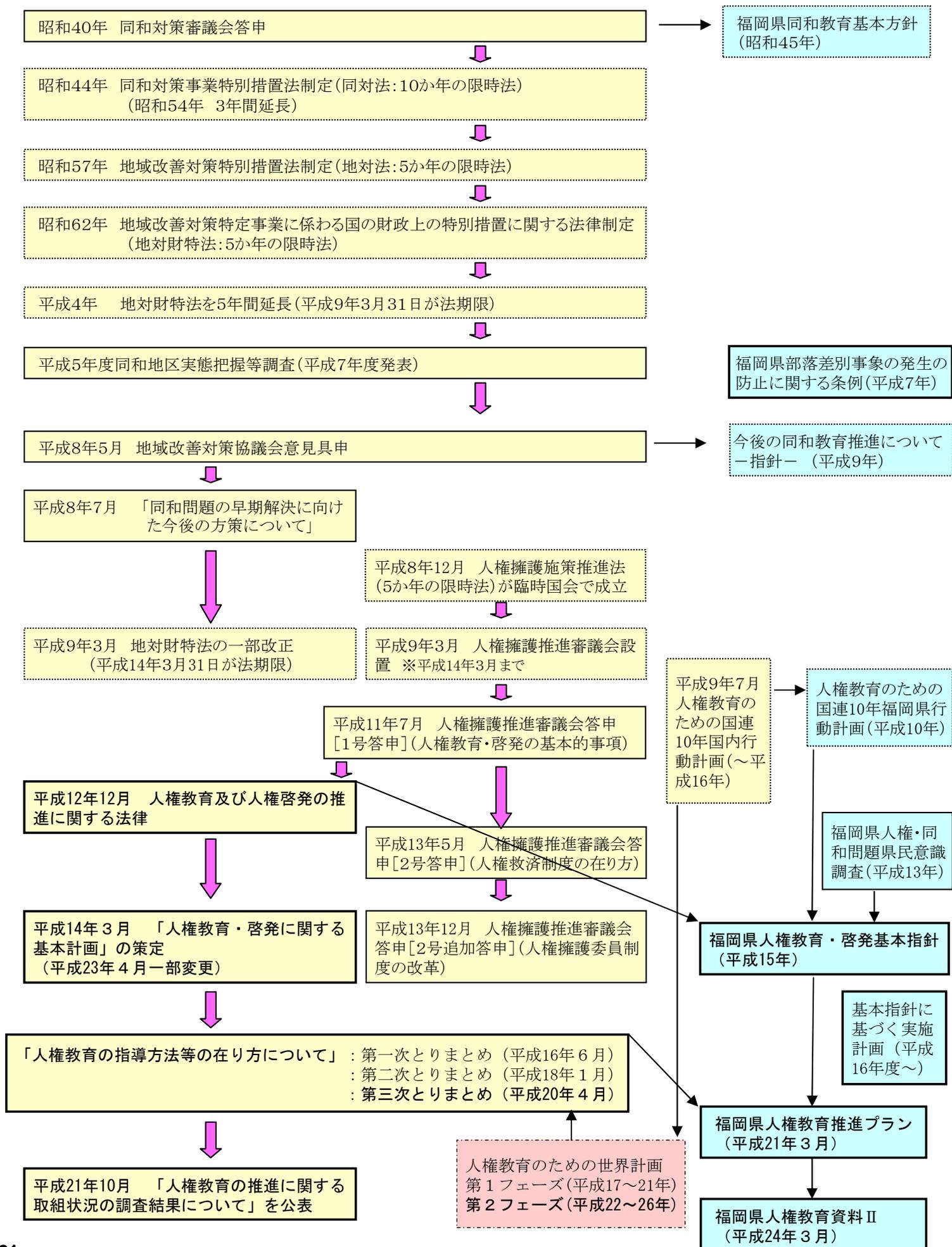
参考：人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕及び外務省HP

### 人権をめぐる国際的な動向について

- |              |   |
|--------------|---|
| 1948年（昭和23年） | 12月10日、第3回国連総会において「世界人権宣言」を採択   |
| 1950年（昭和25年） | 第5回国連総会において、毎年12月10日を「人権デー」（Human Rights Day）として、世界中で記念行事を行うことを決議   |
| 1959年（昭和34年） | 国連において「児童の権利に関する宣言」を採択  |
| 1965年（昭和40年） | 国連において「あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約」を採択<br>→日本は1995年（平成7年）に締結   |
| 1966年（昭和41年） | 国連において「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」及び「市民的及び政治的権利に関する国際規約」を採択<br>→日本は1979年（昭和54年）に締結  |
| 1989年（平成元年）  | 国連において「児童の権利に関する条約」を採択<br>→日本は1994年（平成6年）に締結  |
| 1994年（平成6年）  | 国連において1995年からの10年間を「人権教育のための国連10年」とする決議を採択<br>→日本は1997年（平成9年）に国内行動計画を策定   |
| 2002年（平成14年） | 国連において2005年からの10年間を「持続可能な開発のための教育の10年」とする決議を採択<br>→日本は2006年（平成18年）に国内実施計画を策定  |
| 2004年（平成16年） | 国連において「人権教育のための世界計画」決議を採択<br>→2005年（平成17年）に「人権教育のための世界計画第1フェーズ行動計画」（2005-2007）を採択<br>→2007年（平成19年）9月の国連人権理事会決議で2年間の期間延長が決定<br>→2010年（平成22年）10月に「人権教育のための世界計画第2フェーズ行動計画」（2010-2014）を採択 |
| 2011年（平成23年） | 国連において「人権教育および研修に関する宣言」を採択  |

## 2 人権問題解決に向けた国及び県の動き

### (1) 地域改善対策及び人権教育等の経緯



## 引用・参考文献

書名	発行	発行年
「小学校学習指導要領」	文部科学省	平成20年
「中学校学習指導要領」	文部科学省	平成20年
「高等学校学習指導要領」	文部科学省	平成21年
「生徒指導提要」	文部科学省	平成22年
「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議		平成20年
「人権教育の推進に関する取組状況の調査結果について」 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議		平成21年
「福岡県人権教育推進プラン」	福岡県教育委員会	平成21年
「人権教育指導者用手引き」	福岡県教育委員会	平成21年
「人権教育研修会資料集（平成24年度版）」	福岡県教育委員会	平成24年
「人権教育学習教材集『あおぞら』」	福岡県教育委員会	平成20年

---

## 人権教育指導者用手引きⅡ

～人権尊重の学校づくりを進めるために～

---

発行年月日 平成24年3月31日  
発行 福岡県教育委員会  
連絡先 福岡県教育庁教育振興部人権・同和教育課  
福岡市博多区東公園7番7号  
指導班 Tel 092-643-3917 Fax 092-643-3919

---